



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**



CSR (環境・社会)

夢のある物づくりを通じて、地域に密着した社会貢献を—

化学は人々の生活に新たな豊かさをつくり上げていく夢のある産業です。三井化学は、地球環境との調和の中で、材料・物質の革新と創出を通して高品質の製品とサービスを広く社会に提供しています。

CSRニュース

[一覧ページへ](#)

- 2011年8月11日 [【活動報告】教員の民間企業研修へのご協力](#)
- 2011年6月14日 [【活動報告】当社工場近隣の中学生が本社を訪問](#)
- 2011年6月2日 [【活動報告】被災地域への大型化学消防車の貸出を実施](#)

トップメッセージ

三井化学グループとして「震災後の社会が当社に求める役割は何か」を考え、事業運営を通して最大限の社会貢献を行なってまいります。



三井化学グループの事業分野と主な製品

産業・生活材、快適・機能材、健康・高品質材、新エネ・環境材の4つの事業分類で、三井化学グループの代表的な製品をご紹介します。



CSRナビ

CSR報告のサイトマップです。ご覧になりたい情報に素早くアクセスできます。



CSR最新冊子

CSR活動報告2011アンケート



特集

STORY 01
【製造の現場】



“手応え”を知る運転員を育てる

STORY 02
【販売の現場】



信頼を勝ち得る、製・販・研の一体化

STORY 03
【研究の現場】



ひたむきな熱い思いが付加価値を生む

CSRマネジメント

“強み”を活かした新たな成長軌道に向けて、三井化学グループの目指すCSRやその重点課題、マネジメント体制についてご紹介します。

三井化学グループのCSR
マネジメント体制

レスポンシブル・ケア

三井化学グループの様々な事業活動のベースとなる、レスポンシブル・ケア(RC)の取り組み(労働安全衛生、保安防災、環境保全、化学物質マネジメント、品質、物流、RC推進体制)をご報告します。

- 労働安全衛生
- 環境保全
- 品質
- RC推進体制
- 保安防災
- 化学物質マネジメント
- 物流

社会とのコミュニケーション

社会と企業との持続的発展を目指した、ステークホルダーへの取り組みをご紹介します。

- お客様とともに
- 株主とともに
- 産業界とともに
- 社会貢献活動
- 取引先とともに
- 従業員とともに
- 地域社会とともに

お問い合わせ

各種お問い合わせは、こちらからお願いします。

関連リンク

- ニュースリリース
- 事業・製品
- 株主・投資家の皆様へ

最新のAdobe Readerはアドビ社のサイトより無料でダウンロード可能です。



報告書ダウンロード

最新版およびバックナンバーをPDFファイル、デジタルブックでご覧いただけます。

社内外の声を活かします

CSR報告に対する第三者の意見や、アンケートの集計結果のご報告です。

パフォーマンスデータ一覧

環境負荷・環境保全などに関するデータをご覧いただけます。

CSR活動報告2011について

CSR(環境・社会)活動に関する、Webサイトを中心としたコミュニケーションの考え方を掲載しています。

CSR活動報告2011アンケート

今後のCSR活動や活動報告に反映させるため、ご意見・ご感想をお聞かせください。

GRIガイドライン対比リスト

環境・社会・経済項目について、国際的なガイドラインとの対照表を掲載しています。

下関三井化学 三フッ化窒素充填場事故報告

2009年11月に下関三井化学で発生した三フッ化窒素充填場事故について、事故概要や推定事故要因、再発防止対策などをご報告しています。



「化学」「革新」「夢」の三井化学

トップメッセージ



立ち上がる日本を支え続けます

2011年3月11日に発生いたしました東日本大震災につきましては、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々とご家族に対し、深くお悔やみ申し上げます。
震災直後の3月におきましては、緊急対応として、義援金のほか、災害支援への即応を目的に常時備蓄していた各種物資をいち早く被災地にお届けし、被災された皆様の支援に努めました。
引き続き被災地、そして日本の復興と再生に向け、三井化学グループとして何ができるのか、何をなすべきかを考え、事業運営を通して最大限の社会貢献を行ってまいります。

三井化学株式会社 代表取締役社長

当社グループにおける震災の影響

当社グループにおきましては、震災発生直後に複数の事業所に安全装置の作動と運転員による緊急停止作業により一部の設備を停止したものの、これまでにすべて通常運転に復帰しております。原材料の入手難、物流の障害などにより複数の製品で生産継続に懸念を生じましたが、お客様・お取引先様とともに、サプライチェーンの復旧に全力で取り組みました結果、現時点では操業と製品供給に大きな問題は生じておりません。復旧の取り組みにご理解ご協力いただきました皆様には、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

信頼される企業グループたるべく、今次震災により明らかになったサプライチェーンおよび危機管理などにおける課題の解決に注力してまいります。

東日本大震災にともなう対応

3軸経営推進と2010年度実績

当社グループは2007年度より、社会と企業双方の持続的発展を実現すべく「経済軸」「環境軸」「社会軸」それぞれの目標を定め、その達成を目指す「3軸経営」を推進しております。経済軸におきましては、グループをあげたマーケティング強化、新製品・高付加価値製品の拡販、そして経費削減などのコストダウンに努めました。この結果、目標を上回る営業利益405億円を達成し、黒字化を定着させることができました。

環境軸目標「GHG(温室効果ガス)排出量5万トン削減」については、大阪工場における隣接企業とのLNG冷熱有効利用設備の導入などにより、目標を大きく上回る9万トンを削減しました。一方、社会軸目標として掲げた労働災害率については、改善を果たしたものの目標値を達成するには及ばず、引き続き課題を残しました。

中期経営計画と3軸経営目標

当社グループは、2010年11月に「2011年度中期経営計画」を策定し、2011年度から2013年度までの3年間を成長基盤の構築期間と位置付け、「成長性」と「持続性」を実現する事業ポートフォリオを構築し、「アジアを中心にグローバルに存在感のある化学会社」の実現を目指します。

この中期経営計画においても「3軸経営」を堅持してまいります。社会軸目標「世界最高の労働安全水準」の実現に改めて挑戦するほか、環境軸目標においては、GHG排出削減目標をこれまでの「原単位改善目標(生産数量あたりのGHG排出量を削減する)」から「排出総量削減目標」に切り替え、1990年度比9%削減(同△50万トン)実現に向けて挑戦します。

電力不足への対応

東日本地区における電力不足が長期化する中、供給責任を果たしつつ節電という社会的要請に応えるべく、全事業所をあげて節電対応に取り組んでいます。東日本最大拠点である市原工場(千葉県)では、必要電力の全量を自家発電で賄うとともに、約1万キロワットの余剰電力を電力会社に提供すべく取り組んでいます。このほか、全拠点において一部機器停止、操業時間変更、休日振替・夏季連休の実施など、可能な限りの節電策を徹底し、使用電力削減を着実に実行してまいります。



市原工場の自家発電タービン装置

復興に向けてともに前進するために

東日本大震災により、多くの方々に甚大な被害が生じ、日本経済も先行き不透明な状況が継続するものと予想されます。また、震災がもたらした大きな環境変化は、日本社会全体がエネルギーと消費生活のあり方を見つめなおす契機となりました。

私も三井化学グループは、様々な素材を社会に提供する化学企業として、一日も早い復興に向けた供給責任の貫徹に全力をあげて取り組みます。自然エネルギー利用や省エネルギーに資する各種素材の開発・供給など、これまで以上に「震災後の社会が当社に求める役割は何か」を考え、新たな変化に真正面からスピーディーに挑戦し、社会に貢献してまいります。皆様におかれましては、私どもの取り組みに対しまして忌憚ないご意見をお寄せ下さいようお願い申し上げます。

国連グローバル・コンパクトを支持しています。



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

東日本大震災にともなう対応

三井化学では、震災発生直後に社長を本部長とする対策本部を立ち上げ、当社グループへの影響把握と対策および迅速な被災地支援の検討と実行に努めてまいりました。2011年6月30日現在における当社グループへの影響および被災地への支援状況は次のとおりです。

最新の活動報告はこちらをご覧ください。
東日本大震災 三井化学の対応について

1 生産活動への影響

震災発生直後に複数の事業所で一部の設備が停止しましたが、立地するコンビナートが津波被害を受けた鹿島工場[※]を除き、ほとんど操業を再開することができました。また、お取引先様の操業停止や物流の混乱による原料の入手難などにともない、複数の製品で生産継続に懸念を生じましたが、これまでに操業上の問題は解消しています。

※ 茨城県神栖市。ウレタン製品を製造。予定していた定期修理の後、6月末に再稼働

2 被災地支援

支援物資提供

- 平時より、災害支援物資として当社事業所内専用倉庫に備蓄していた当社製品を使用した各種資材(下記)を、震災5日後から3月末にかけて、NGOの皆様の協力により宮城県気仙沼市の避難所にお届けしました。
 - ウレタンマットレス(床敷きクッション材・防寒材として)
 - ブルーシート(防水・養生資材として)
 - 食品用ラップ(食器を覆って使用し、水洗を省略/傷の患部急応保護など)
 - ポリタンク(飲料水保管・移送用容器として)
 - 生分解性簡易食器



支援物資を積み込み、被災地へ

- 以後、被災地ニーズとのマッチングが取れ次第、支援物資の提供を図ることとしており、5月には岩手県釜石市と遠野市にウレタンマットレスをお届けしています。

義援金

- 被災地の皆様への義援金として1億円を中央共同募金会経由で寄付しました。これに加え、国内外の関係会社から7千万円超、グループ会社従業員から2千万円超の義援金をお送りしました。

その他

- 被災により消防車に不足をきたしているJX日鉱日石エネルギー(株)仙台製油所に対し、当社岩国大竹工場(山口県)に自主配備している大型化学消防車1台の貸出を行いました。
- 社員によるボランティアを支援するため、社会活動休暇の拡充(災害支援活動に従事する場合最大10日/年を付与)を行いました。

3 電力不足への対応

下記諸対応により東京電力・東北電力管内の大口需要事業所にて、合計15%の節電目標達成に向けて取り組んでいます。

市原工場(千葉県)	自家発電設備フル稼働により購入電力使用をゼロへ。 設備改造を実施し、約1万キロワットを東京電力に供給。
鹿島工場(茨城県)	コンビナート共同自家発電電力のみを使用(購入電力ゼロ)。
本社ビル(東京都)	照明削減、空調温度調整などにより2010年比約20%削減。
その他の事業所	一部機器の停止、休日・夜間のみでの運転、照明削減などの実施。



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

国連グローバル・コンパクト

国連グローバル・コンパクトを支持しています。

当社は、2008年1月に国連グローバル・コンパクトに署名しました。これは、責任ある企業市民としてグローバルな課題を解決していこうという趣旨に賛同したためです。今後ともグローバル・コンパクトの10原則を支持し、人権や環境などへいっそう配慮するよう取り組んでいきます。

United Nations Global Compact



国連グローバル・コンパクトの10原則				冊子関連ページ	WEB関連ページ
人権	企業は、	原則1	国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、	-	取引に関する方針 CSR調達 人材の登用・活用
		原則2	自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。	-	取引に関する方針 CSR調達 人材の登用・活用
労働基準	企業は、	原則3	組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、	-	率直な対話と相互理解に基づく労使関係
		原則4	あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、	-	CSR調達
		原則5	児童労働の実効的な廃止を支持し、	-	CSR調達
		原則6	雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。	-	「いい会社」に向けた意識・行動変革の取り組み 人材の登用・活用
環境	企業は、	原則7	環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、	P15	地球温暖化防止への取り組み
		原則8	環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、	P3-4 P14-15	トップメッセージ 「いい会社」に向けた意識・行動変革の取り組み CSR重点課題の設定 レスポンシブル・ケア方針 取引に関する方針 化学品・製品の安全性の確保 環境保全(社会貢献活動) 環境影響の評価(エコ効率) 環境会計 地球温暖化防止への取り組み 産業廃棄物の削減 PRTR法対象物質 有害大気汚染物質 揮発性有機化合物 環境負荷(NOx、CODなど)
		原則9	環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。	P14-15 P16-17	三井化学グループの事業分野と主な製品 STORY 03【研究の現場】>様々な研究活動 「いい会社」に向けた意識・行動変革の取り組み レスポンシブル・ケア方針 共同研究・プロジェクトの推進
腐敗防止	企業は、	原則10	強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。	-	「いい会社」に向けた意識・行動変革の取り組み リスク管理体制 コンプライアンス教育



「化学」「革新」「夢」の三井化学

特集

社会は今、大きく変わろうとしています。「今こそ、化学の出番である」。三井化学は強く確信しています。どんな社会環境においても、三井化学が変わらず大切にしていること、それは「現場力」です。三井化学のものづくりの原点は、強い現場にあります。日々の地道な取り組みの積み重ねにより、いかに「現場力」を高め、強化していくか。三井化学は昔も今も、そしてこれからも、強い現場力で挑戦し続けていきます。

STORY 01 【製造の現場】



“手応え”を知る運転員を育てる

STORY 02 【販売の現場】



信頼を勝ち得る、製・販・研の一体化

STORY 03 【研究の現場】



ひたむきな熱い思いが付加価値を生む

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の三井化学

特集 STORY 01【製造の現場】

“手応え”を知る運転員を育てる

三井化学は2006年5月、千葉県茂原分工場内に化学プラントの運転員を対象とする技術研修センターを開設しました。ものづくりの現場で活躍する人材の育成について計画から体験型訓練設備を活用した実際の研修までを総合的に担う、三井化学のもうひとつのものづくりの現場です。

進化するプラントと製造の現場で生じるジレンマ

石油化学プラントは、1960～70年代にかけての設備の大型化や80年代のアナログ型の計器盤運転方式からコンピューターを活用したDCS(分散型制御システム)運転方式への変換などを経て、より高度で安全な運転方式へと変わってきました。しかし、自動化が進み安全対策が充実すればするほど、運転員自らがトラブルを経験する機会が減ってしまうことになり、“運転員の研ぎすまされた感性や、トラブルから得た知見が減ってしまう”というジレンマが生じます。

さらに2000年代になると、国際競争力を維持するために国内よりも海外でのプラント建設が続きました。それは、運転員がプラント建設に関わりながら“ものづくりの原点である化学プラントの構造や原理”を学ぶ機会が減る結果にもなりました。

これらのジレンマは石油化学メーカーにとっては、ものづくりの力の低下に直結します。さらに、団塊世代の熟練運転員が多く退職する「2007年問題」が追い打ちをかける形になりました。

三井石油化学と三井東圧化学が合併して誕生した三井化学は、1997年の合併以来、プラント運転規準や技術規準の統一などを進めてきましたが、ものづくり現場の最終的な課題として取り組んだのが、ものづくりの第一線で働く運転員教育でした。それまで各工場で実施してきたOJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)をさらに効果的なものとするため、教育体系の構築や本格的な体験型訓練設備を用いた研修運営を、本社の生産・技術本部が主導する体制に改め、2006年に開設したのが技術研修センターです。

当初からプロジェクトの責任者であった技術研修センター長の半田安は、「運転、安全、設備のすべてに強い運転員の育成を目指す、いわば三井化学のものづくりの原点となる施設を目指しています」と語ります。

徹底した体験学習で、安全や設備の構造原理を知る

茂原分工場内の一角、約1万平米の技術研修センターにはメタノールの蒸留訓練プラントをはじめ、運転基本操作訓練設備、DCS計器室、各種のプラント部品のカットサンプルなどがあります。講師陣は13名。センターが対象とするのは国内6工場の運転員およそ2,000名と海外工場の運転員です。開設から5年でべ2,000名が研修を受け、海外からの研修生や見学者など200名が訪れています。

国内運転員を例にとると、センターとの関わりは4回あります。①入社時、②入社から半年後、③3年後、④7～8年後、です。それぞれの研修内容は、労働災害や爆発燃焼に関する安全知識、訓練プラントを活用した運転操作技術、機械などの構造や原理等々と多彩ですが、共通しているのは、研修が徹底した体験型学習であること。「腰に安全ベルトを着けて吊り上げられるなど各種の安全体験設備で失敗を疑似体験し、安全に対する強い感受性を育てながら、あわせてKNOW-WHY(なぜ)と自ら問いかけていく姿勢も育てることに力を注いでいます」(半田)。

さらに半田は、受講生たちがもう一歩踏み込んだ問題意識を持つようなカリキュラムについて構想を練っています。それは、「所属する工場の弱い部分を発見し、解決策を見出していくような人材の育成」です。

「工場の文化とは、各時代の主力となる人々が作り、磨き上げていくものです。過去の文化にとらわれずに自分たちで新しい文化をつくってほしい。その挑戦がなければグローバル時代における海外工場のものづくりをサポートすることはできません」(半田)。



生産・技術本部
生産・技術企画部
技術研修センター長
半田 安



生産・技術本部
生産・技術企画部
技術研修センター
研修スタッフ
萩原 尚

弱さを見つけ、自ら解決する人材を

半田のこうした意を受けて、国内運転員の研修企画を担当する萩原尚は、研修対象者のニーズを発掘する一方、会社側の要請と丹念に擦り合わせるようにしています。「自ら考える運転員づくりを目指し、常にKNOW-WHYを考えさせるカリキュラムを構築していきたい。とにかく、何度でも来たくなる魅力あるセンターにすることが第一歩です」と語ります。

また海外運転員の研修企画を担当する藤淵隆志は、「2011年中にシンガポールにある三井化学のプラント内に訓練設備を設置し、東南アジア地区へも展開したい」と明かします。

石油化学工業は、化学プラントがあたかも人間(運転員)の介在無しに自動運転されているように見えてしまうため、ものづくりの実感が乏しくがちです。だからこそ運転、安全、設備のすべてに“手応え”を知っている運転員がひとりでも多くいること。それが、強いものづくりの原点となるのです。



生産・技術本部
生産・技術企画部
技術研修センター
研修スタッフ
藤淵 隆志



大牟田工場
ウレタン製造部
イソシアネート課
大隅 泰史郎

受講生のコメント

今回の研修では、カットサンプルなどを使って学べたことが特に大きかったです。説明だけでは難しいこと、普段疑問に思わないことも、自分の目で見て、触り、動かすことで新たな疑問が出て、それをその場で質問し学ぶことができました。また、プラント実習においても、他工場の人の考えをいろいろと聞くことができ大変参考になり、自分の考え方を広げることができました。今回学んだことをこれからの仕事に十分活かしていきたいと思えます。



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

特集 STORY 02【販売の現場】

信頼を勝ち得る、製・販・研の一体化

すべての社員のマーケティング力強化を掲げる三井化学。

そのためには、販売部門を中心にお客様が抱えている悩みを理解し、相談していただけるような信頼関係づくりが不可欠です。

製造・販売・研究が一体になってお客様に向かい合い、徹底したお客様本位の事業のあり方を再確認することで、事業を再生させた、そんな挑戦を続ける現場があります。

お客様との関係の深さが事業成果を左右する

三井化学の加工品事業本部 機能性フィルム事業部が扱う「三井ペリクル」とは、半導体製造のフォトリソグラフィ※工程で使われる特殊な防塵用超薄膜部材で、半導体フォトマスクをクリーンに保つ防塵フィルムの製品名です。フィルムの厚さは0.3~0.8マイクロメートルほどです。

ペリクル事業の責任者である宮田史也は、「ペリクルの最大の特徴は、オーダーメイド品であること。お客様でつくられる半導体フォトマスクごとにペリクルの大きさや厚さなども変わり、当社だけでも100タイプもの製品があります。それだけお客様の要望をきちんと把握し、絶えず製品をブラッシュアップしていかないと成長を持続できない事業なのです」と解説します。

三井化学は、ペリクル事業にいち早く参入し、すでに30年弱の歴史があります。グローバル市場の推定規模は約100億円で、決して大きな市場ではありませんが、それゆえにリーディングカンパニーには高い収益が期待できるため、三井化学を含め6社がグローバルに競合しています。「私が入社して間もないころ、3か月間ペリクル製造部門で研修しましたが、このような最先端の製品を開発していることに感激したものです」(宮田)。

そして時は流れ、自身が事業責任者としてペリクルの現場に赴任したのは2007年10月のこと。宮田は愕然とします。あの先端製品が持っていた輝きのようなものが感じられなくなっていたのです。

※ 光を利用して、フォトレジスト(感光性樹脂)にパターン(設計図・模様)を転写する技術



加工品事業本部
機能性フィルム事業部
機能フィルムグループ
ペリクルチームリーダー
パッケージチームリーダー
宮田 史也

お客様を知る、お客様に学ぶ

「これはまずい、と思いました。最先端製品に取り組んでいるという自負が、特に若い世代を中心に失われていたのです」(宮田)。実際、最先端分野においては大きくライバル会社に引き離されていました。

以前は業界をリードするポジションにあったこともあり、成功体験に埋没したことや製・販・研の役割や関係性がいつの間にか希薄化していたこと、品質管理の点でも緩みが出ていたこと等々が理由に挙げられます。

岩国大竹工場のペリクル製造部門では、製造係、生産技術チーム、開発チームや研究開発チームなどが働いていますが、彼らに2つのことに徹底して取り組むよう訴えました。ひとつがライバル会社をよく知ること。ふたつ目がお客様を訪ね、自分たちがつくった製品についてのお客様の評価を直に聞くことでした。「いずれも自分がどのような立場にあるかを知り、何を考え実践しなければならないかを理解するためです。その過程で、世界最先端の製品に取り組んでいる自負を取り戻してほしかった」。

ライバル会社の技術動向について積極的に勉強会を開き、彼我の差がどこにあるかについて議論を続けました。それは同時に、三井化学にとってペリクル事業はどのような使命を持っているかを確認する作業でもありました。



岩国大竹工場
製造2部
ペリクル課長
桑畑 研二

また、現場交流会と称して、ペリクルの製造担当者がお客様である半導体フォトマスクメーカーの製造や技術、品質管理の方々と打ち合わせする機会をつくりました。直接ペリクルの扱い方や検査などの意見を伺うのです。厳しい質問や指摘に耐えながら、良きものづくりのあり様を心に何度も刻みつつ、ペリクルの品質改善に取り組む日々でした。

宮田はさらに、旧知の桑畑研二にペリクルの製造責任者に就いてもらいました。桑畑は半導体部材メーカー出身ゆえに独自の品質思想を持っており、ペリクルの現場に蓄積された品質管理方法と擦り合わせ、製造体制の改善を進めていきました。

データに裏付けられた改善策でなければ納得しない桑畑の頑固さは、現場に挑戦の気概を復活させていきました。「敵を知り己を知れば百戦危うからず」という考え方を、製造という作業を通じて現場に翻訳していくこそが自分の仕事です(桑畑)。

また、製造と研究開発の担当者の部屋を同じにしたり、お客様との電話会議システムを導入するなど、とにかく誰もがお客様の考えを共有する仕組みをつくりあげていきました。研究開発のチームリーダーである河関は、「お客様が要望する技術的課題をすぐに製造担当と検証し、即断速攻の体制を支えるのが私たちの使命です」と語ります。



加工品事業本部
加工品開発部
加工品開発3ユニット
ペリクルチームリーダー
河関 孝志



製造2部
ペリクル課
製造係長
西川 隆己

本音で相談してもらえる存在になれ

宮田は、「半導体のような最先端技術の現場では課題が特化しており、それを理解、翻訳して組織的かつ機動的に対応してくれる者にしかお客様は本音で相談しません。そういう現場・現物・現実から信頼を勝ち得た者しか生き残れないのが最先端技術のビジネスのあり様です。そしてそれこそが、自らのものづくりの喜びにつながらなければならないのです」と語ります。

その言葉を裏付けるように、劣勢だった最先端分野でもペリクルは首位の座を奪還しつつあり、海外への販売比率も50%を大きく超えて、グローバルビジネスの様相を呈してきています。お客様本位の三現主義の実例がまたひとつ三井化学に蓄積されています。



製造2部
ペリクル課
品質管理チーム
チームリーダー
近藤 正浩



ディー・ティー・ファインエレクトロニクス株式会社
取締役 工場長
加藤 真 様

コメント

三井化学さんとのペリクルのお取引は30年来のお付き合いになりますが、当初から一貫して感じるの、皆さん真面目で様々な課題に真摯に地道に対応してくれているということです。

最近、品質や技術の点で競合メーカーさんとの差別化を図る事が難しくなっている中でも、三井化学さんは顧客第一主義を貫いて問題解決のために一緒になって取り組んでいくところが特徴的なのではないかと思えます。時には我々と一緒にペリクルに使用する材料メーカーを訪問するなど、営業担当者を中心として開発や製造担当の方々も一緒になって同じ方向に進んでいくという感じでしょうか。

三井化学さんはそうした連携がうまく回っているなあと思えます。今後とも、ペリクルの品質や技術面でどんどんリードして欲しいと思います。



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

特集 STORY 03【研究の現場】

銅合金コート表面衛生フィルム・シート 様々な研究活動

ひたむきな熱い思いが付加価値を生む

三井化学は、中期経営計画において、機能フィルムおよびシート事業を重点事業に位置付け、2010年には当社および子会社の三井化学東セロ、三井化学ファブローのフィルム、シート事業を三井化学東セロを核に統合しました。

三井化学東セロは、太陽電池部材フィルム「ソーラーエバ®」、IC回路面保護フィルム「イクロステープ®」などの高機能フィルムを新たに加え、グループの技術開発力を結集した事業の拡大を図っていきます。

ここでは三井化学グループの機能フィルム、シート製品群から、「銅合金コート表面衛生フィルム・シート」をご紹介します。

抗菌機能を備えた銅合金フィルム・シートの創造に挑む

三井化学が持っているフィルムやシートの製造技術は実に多様で、かつ柔軟な応用製品づくりを可能にしています。

そうした中で、古くから知られる銀や銅の抗菌効果に着目し、特に銅と樹脂フィルムを一体化させれば、医療や衛生分野で多くの応用製品ができるのではないかと。そのひらめきで始まった研究があります。「銅合金コート表面衛生フィルム・シート」です。

研究が始まったのは2006年のこと。新材料開発センターの廣田幸治は、「抗菌機能があり、銅独特の青錆が出ない(防食性のある)、銅と樹脂が一体化になったフィルムをいかに実現するか。さらに、それをいかに安くかつ柔軟につくるかという3つの研究課題がありました」と語ります。

簡単につくれると思っていた訳ではありませんが、それにしても開発は予想を上回る困難に直面します。「抗菌性を高めようと銅の含有量を増やすと素材が錆びやすくなったり、薄くすると期待した抗菌性能が出なかったりするのです。合金にすれば腐食を防げるのはわかっていますが、ではどのように合金にするのか。多くの壁が立ちました」(廣田)。



新材料開発センター
機能フィルム・シート開発プロジェクト 主席研究員
廣田 幸治

情熱は飛び火する、周囲一丸の実証試験

諦めかけてもいました。しかし偶然に開発者のひとりが、銅の歴史本を読んでいたとき、あるひらめきを得ました。廣田によれば、それから2週間ほど寝る間も惜しんで検証を重ね、方法論を確認することができたといいます。「それは、金属をガス化して装置の中で薄い膜を重ねるようにしてフィルムにする蒸着という技術をベースとしたものです」。

合金なので抗菌性能は長く保たれ、錆も出ません。蒸着技術は成熟した技術なので製造コストも抑えられ、様々な形態にも対応できます。3つの研究課題は見事にクリアされました。しかも厚さは10～100ナノメートル※しかありません。

こうして実現したフィルムやシートは本当に抗菌性能を発揮してくれるのか。大学病院で問診票の裏にシートを貼り付けてそうでないものと比較したり、臭気を減らせるというので、ある研究員は枕カバーにしてみたり。また、ストッキングを履いていると足下が蒸れやすいというので廣田の妻に靴の中敷きとして使ってもらったり、廣田自身が開発センターを何周も走って汗だくなったTシャツをシートでつくった袋に入れてみたり……。研究部員や家族をも巻き込んだ地道な“実証試験”が繰り返されました。

中でも、問診票バインダーに抗菌フィルムを貼った実験結果(下図参照)では、高い抗菌性が確認されました。開発プロジェクトのチームリーダーである橋本暁直は、「2012年度の初めには応用製品も含めて上市する予定です」と明かします。その上で、「皇居一周マラソンをしている人たちにサンプルを渡して効果を実感してもらってはどうか」とすでに次なるアイデアもあります。

橋本と廣田が命名した素材名は「銅合金コート表面衛生フィルム・シート CopperStopper™」。銅(Copper)と、警察官(Cop)が菌を阻止しているイメージをその名に託しました。

研究開発の多くは派手さもなく試行錯誤の繰り返しですが、こうした地道な取り組みが実を結ぶとき、研究開発の「現場」でしか得られない喜びを手にすることができるのです。

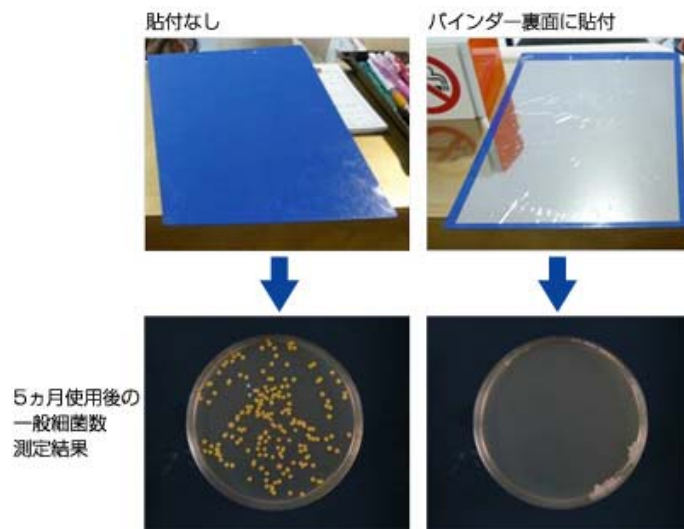
※ ナノメートル:10億分の1メートル

問診票バインダーでの実験結果

北里大学 医学部 医学博士 笹原武志氏の評価



新材料開発センター
主席研究員
機能フィルム・シート開発プロジェクト1 チームリーダー
橋本 暁直



北里大学 医学部
医学博士
菅原 武志氏

コメント

医療施設では常に医療安全が求められ、特に院内感染対策は、最重要課題のひとつです。北里大学病院では、潜在的殺菌特性を持つ銅および銅合金を衛生環境の改善対策に取り入れる試みが行われ、銅化したドアハンドルや洗面台の表面に付着・定着する細菌数は減少することが明らかになっています。しかし、ベッドシーツやクリアファイルへの応用は不可能と考えていた矢先、高分子石油化学の分野で高い製造技術を誇る三井化学の研究チームと出会い、全面的な協力を得て殺菌特性を持つユニークな耐食性銅合金フィルム「CopperStopper™」が誕生しました。将来、医療以外の様々な生活分野に利用できる商品開発を期待しています。



「化学」「革新」「夢」の三井化学

特集 STORY 03【研究の現場】

銅合金コート表面衛生フィルム・シート 様々な研究活動

三井化学グループでは様々な研究活動を行っていますが、ここでは海外における取組み、並びにこれまでも報告してきているCO₂の化学的固定化についてご報告します。

シンガポール R&Dセンターにおける取組み

成長著しいアジアの中でも、シンガポールは様々な企業、研究機関を有する東南アジアにおける化学産業の一大拠点になっています。当社は40年にわたり、シンガポールの化学産業の成長、発展とともに歩んできました。現在、フェノール、ビスフェノールAおよびエラストマーの大規模なプラントを有するシンガポールは、当社のアジアにおける生産のハブとしてグローバルな展開、事業拡大を図っています。

そのような中、三井化学は2004年にシンガポール政府機関である科学技術研究庁(A*STAR)と研究協力契約を結び、触媒・材料分野における共同研究を行っており、2006年10月には「三井化学シンガポール技術センター(現、三井化学シンガポールR&Dセンター)を開設しました。同センターではシンガポール政府の研究所との共同開発を中心に、地球温暖化防止や化石資源からの原料転換に向け、バイオマスから有用な化学品を製造する生体触媒技術などの研究開発を実施しています。同センターでは、当社の研究者のみならず、シンガポールや周辺国のほかに、広くドイツやインドからの研究員も参画しています。

このシンガポールでの共同研究は、非化石資源活用技術開発のための「三井化学バイオコンソーシアム」の一翼を担っています。

三井化学バイオコンソーシアム



様々な国の研究者たち

化学的CO₂固定化

CO₂から化学原料となるメタノールをつくる。この究極のリサイクル技術の実用化を目指し、技術開発とビジネスモデルの検討を進めています。すでに運転開始から2年目となる大阪工場内の実証試験プラントで得られたデータをもとに、工業化に向けたプロセス設計を行い、さらなる効率改善や設備の最適化など、今後の技術開発課題が見えてきました。また、CO₂を大量に排出している事業者や、余剰水素を保有する事業者など、国内外の様々な業種のパートナーと具体的な協議を始め、それぞれのビジネスモデルに合わせた実用化ロードマップの作成を急いでいます。

この技術がCO₂問題の解決に寄与する日を夢見て、私たちは開発を続けていきます。



大阪工場内にある実証試験プラント



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

三井化学グループの事業分野と主な製品

三井化学グループは、未来に役立つ素材・製品を提供しています。

化学は、人々の生活に新たな豊かさをつくり上げていく夢のある産業です。
三井化学グループは、産業・生活材、快適・機能材、健康・高品質材、新エネ・環境材などの幅広い分野で、革新的な技術と素材を広く社会の皆様提供しています。
ここでは、大きく4つの事業分類で、代表的な製品をご紹介します。

三井化学グループの事業分野と主な製品(2011年度版)

産業・生活材 快適・機能材 健康・高品質材 新エネ・環境材

便利で安定した生活のための
産業・生活材 (衣・食・住向け素材など)

(グローバルな供給を通じて、
広く生活基盤・社会基盤を支えます。)

基礎化学品

ポリエステル繊維原料
高純度テレフタル酸(PTA)
フェノール
ポリカーボネート樹脂



PTAは、ポリエステル繊維の原料で、衣服に使用されています。

包装材料

飲料ボトル、食品・洗剤・化粧品・医薬品容器
三井PETTM樹脂
ポリエチレン(エポリュウ[®]など)
ポリプロピレン(プライムポリプロ[®])



エポリュウ[®]は、フィルムの剛性・強度にすぐれ、食品、生活用品向けの高機能包装材料などに使用されています

三井PETTM樹脂は、飲料ボトル、食品容器など様々な容器に使用されています。

安心で豊かな生活のための
快適・機能材 (高品位素材、電子情報材、自動車材など)

(高成長産業向けの高機能製品を提供し、
豊かな生活の創造に寄与します。)

半導体プロセス材料

ウェハー裏面研削用保護テープ
イクロステープ[®]
フォトマスク用防塵カバー
三井ペリクル
エッチング、クリーニングガス
三フッ化窒素



イクロステープ[®]は、半導体製造工程におけるウェハー裏面の研削加工時に、ウェハー表面を保護するためのテープです。

紙おむつ、日用品

不織布

シンテックス®

通気性フィルム

エスポール®

合成パルプ

SWP®



エスポール®は、通気性に優れた紙おむつの素材となる不織布用のフィルムです。



SWP®のヒートシール性は、各種包装紙としてティーバッグなどの食品や医療用に広く使用されています。

日常生活で使用されるフィルム

生鮮食品鮮度保持用フィルム

スパッシュ®

高速生分解性フィルム

パルシール®CB



スパッシュ®は、生鮮食品の鮮度保持を可能にするほか、野菜、果物、花きのしおれ・変色を抑えることができます。

心地よく、質の高い生活のための
健康・高品質材 (ヘルスケア、触媒、農業化学品など)

クオリティーの高い製品を創出し、
健康・高齢化や農業、触媒などの分野で
新たな社会貢献を果たします。

眼鏡レンズ用材料

高屈折率メガネレンズ

MR™シリーズ



MR™シリーズは、高屈折率、耐衝撃性などにすぐれた最高品質光学プラスチックレンズ原料です。

医薬品

エナジードリンク

タウリン



タウリンは、アミノ酸の一種で生命活動に欠かせないエネルギーの産生や各種代謝に関与しています。栄養ドリンクなどに使用されています。

農業化学品

農業

アニキ®乳剤(殺虫剤)

アフエット®フロアブル(殺菌剤)

ハイブリッドライス種子

みつひかり 2003、2005



みつひかり2003、2005は、美味しく、また晩生多収のハイブリッドライスです。



アニキ®乳剤は、散布後有効成分が容易に分解し、環境に優しく作物を守る殺虫剤です。

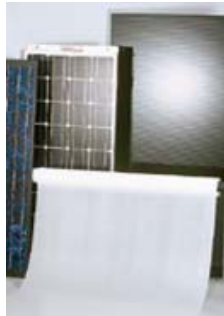
地球環境に優しい生活のための
新エネ・環境材 (太陽光発電、バイオなど)

環境問題のソリューションなど、
新たな成長市場において、
人類の課題解決に貢献します。

太陽光発電用部材

太陽電池

ソーラーエバ®
モノシラン



ソーラーエバ®は、太陽電池の電池セルを保護するため、基盤全体を包む高耐久性のプラスチックシートとして使用されています。

エコ自動車材

リチウムイオン電池部材

ミレット®(電解液)
ケミパール®(電極用バインダー)

バイオマス化学品

バイオポリウレタン

エコニコール®



エコニコール®は、植物由来原料を使用したポリウレタンで、家具、寝具、自動車のシートクッションなどに使用されています。

自動車の軽量化を可能にする材料

接着性ポリオレフィン

アドマー®

オレフィンコポリマー

タフマー®



アドマー®は、バリアー性樹脂との張りあわせによって、燃料タンクからの燃料漏洩防止、タンクの軽量化に貢献しています。

タフマー®は、自動車用プラスチック材料の衝撃性改良により、金属の代替として使用され、軽量化に貢献しています。



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

CSRマネジメント

CSRは経営そのものであるとの認識から、「経済」「環境」「社会」の3軸経営を基本にした「三井化学グループのCSR」「マネジメント体制」についてご紹介します。

三井化学グループのCSR

持てる力を最大限に活かし、社会から信頼され、社員自身が誇りを持って生き生きと働ける、そんな「いい会社」にしていくことが、三井化学グループの目指すCSRです。

CSRで目指すもの

「いい会社」の実現に向けた推進体制

CSR重点課題の設定

マネジメント体制

ステークホルダーから信頼され、企業の社会的責任を全うするため、マネジメントの確実な運営が経営上の重要な基盤と考えています。

目標と実績

コーポレート・ガバナンス

リスク管理体制

コンプライアンス教育

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の三井化学

三井化学グループのCSR

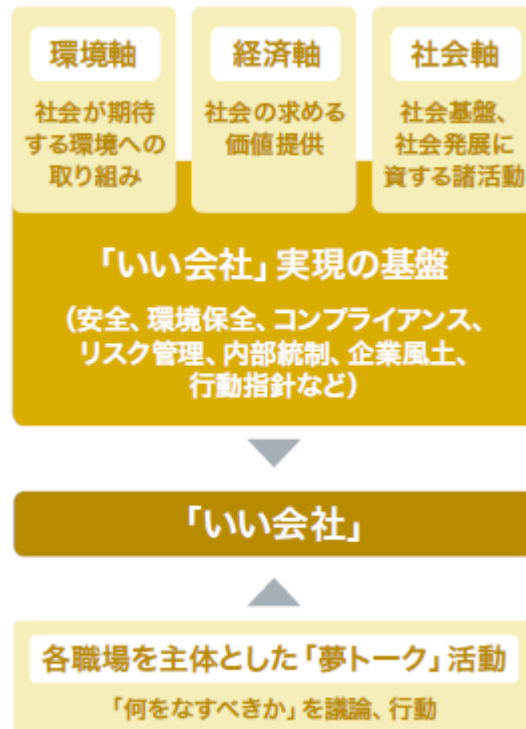
CSRで目指すもの 「いい会社」の実現に向けた推進体制 CSR重点課題の設定

CSRで目指すもの

私たち三井化学グループがCSR推進により目指すのは、社会に信頼され、一人ひとりの従業員が誇りを持って活躍できる「いい会社」。これを実現するためには、今、そしてこれからの社会に求められる「いい会社」とは何かを常に考え、行動・挑戦し続けることが欠かせません。当社グループでは、2007年度に当社グループの経営の基本骨格である「グランドデザイン」を策定し、その中で単年および中期の経営目標として収益目標などの「経済軸」目標に加え、「環境軸」「社会軸」目標を掲げ、着実な実行を図ってきました。その一環として、2010年度より、年度を通じて各部門がベクトルを合わせて取り組むべき重要な課題を「CSR重点課題」として設定し、「いい会社」実現に向けて取り組んでいます。

三井化学グループグランドデザイン 中期経営計画

「いい会社」に向けたアプローチ図





「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

三井化学グループのCSR

CSRで目指すもの 「いい会社」の実現に向けた推進体制 CSR重点課題の設定

「いい会社」の実現に向けた推進体制

CSR委員会(委員長:社長)は、CSR重点課題をはじめ、三井化学グループのCSR推進に関する方針、計画を立案、審議します。このCSR重点課題に基づき、全社各ライン組織がそれぞれの計画を立て、その実現に向けて行動します。
 なお、2010年度より、これまでの労働安全・環境衛生およびガバナンスを中心としたCSR委員会討議内容を、事業を通じた積極的な取り組みに関するものへシフトさせるべく、CSR委員会に全ての事業部門責任者(取締役および事業本部長)を加えています。
 また、各事業所、支店、関係会社にはCSR担当部門を置き、グループとしての連携を強めつつ、各拠点の特性を活かしたCSR推進に取り組んでいます。

CSR推進体制



[リスク管理体制へ](#) [レスポンシブル・ケア方針へ](#)

「いい会社」に向けた意識・行動変革の取り組み

社会に信頼され、求められる企業グループであり続けるために、行動指針をベースに次の3点を「求める行動姿勢」として設定し、全社を挙げその実現に取り組んでいます。

1. 外向き積極姿勢
2. 自ら考え、自ら挑戦
3. 相互信頼、一致団結

具体的には「いい会社であるために自分たちは今何をなすべきか」について議論し、行動するためのディスカッション活動「夢トーク」、また各組織におけるライン長による主導と、組織内のコミュニケーションリーダーである「CSRサポーター」の支援による、オープンで双方向な討議を行っています。
 これらを通じて、ステークホルダー、そして社会に目を向け、新しい価値を生み出すべく挑戦を続ける組織風土づくりに取り組んでいます。

三井化学グループ行動指針

私たち、三井化学グループの役員、社員一人ひとりは、ステークホルダー*への貢献を通じて社会と企業の持続的発展を実現するため、次のとおり行動します。

* 当社を取り巻くステークホルダー：お客様・取引先、株主・投資家、地域社会、産学界、政府・行政、従業員・労働市場、地球環境

私たちは「誠実に行動」します

法令・ルールへの遵守

いかなる利益の追求よりも、法令・ルールへの遵守を優先します。

正直

自らの良心に従い、正直な言動を貫きます。

差別禁止

性別・人種・国籍・年齢・宗教・障害などに基づく一切の差別を行いません。

公正・公平

公正・公平な競争・取引に徹します。

透明性

良い情報、悪い情報の区別なく、早く正しく報告し開示します。

私たちは「人と社会を大切に」します

安全第一

安全はすべてに優先することを、心に刻んで行動します。

地球環境への貢献

地球環境の保全に貢献する製品開発、生産・販売活動に取り組めます。

お客様の満足

お客様のニーズを正しくつかみ、満足いただける製品・サービスを迅速に提供します。

地域への貢献

地域社会の一員として、地域の発展に貢献します。

健康増進

健康増進と活気のある職場づくりを心がけます。

多様性の尊重

互いの人格や多様な個性・考えを尊重します。

私たちは「夢のあるものづくり」を目指します

チャレンジ精神

自らの可能性を信じ、失敗を恐れず、果敢に挑戦します。

創造性

感性を豊かにし、たぐいえない新たな価値をつくり出します。

三現主義

自分の目で確かめ、自ら考え、行動します。

自己研鑽

グローバルな視点に立ち、世界に通じるプロフェッショナルを目指します。

技術伝承

これまで培った経験や技術を伝承し、次世代の人材育成に努めます。

チームワーク

活発なコミュニケーションを通じ、一人ひとりの力を組織の力に結集させます。

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

三井化学グループのCSR

CSRで目指すもの 「いい会社」の実現に向けた推進体制 CSR重点課題の設定

CSR重点課題の設定

ステークホルダーそして社会からの要請・期待に照らし、三井化学グループがベクトルを合わせて取り組むべき課題を「CSR重点課題」として明確化し、各部門の取り組みによるCSR推進を目指しています。

2011年度CSR重点課題

「強い現場」実現による、

1. 安全・安心・安定の確保
2. 地球規模の課題解決に向けた技術・事業・製品への注力
3. 信頼される企業グループ実現に向けた社員意識・行動変革

1. 安全・安心・安定の確保

2010年度において、「安全最優先文化の徹底」に取り組んだ結果、全体的に改善傾向にはありますが労働災害発生率目標は達成できませんでした。また、一部の生産設備トラブルにより製品の安定供給に支障をきたしたため、2011年度は引き続き安全水準の向上に取り組む一方、「安定」についても抜本的・計画的な設備対応に取り組むこととしています。

また、2011年度より、製品のライフサイクル(生産、輸送、使用、廃棄)を通じたすべての化学物質のリスクを最小化するための化学物質マネジメント体制の構築に取り組むことにより、化学品への「安心」をよりいっそう高めたいと考えています。

社会に対して様々な素材を提供する当社グループの使命を果たすとき、社会・社員に危害を及ぼすことなく安全に生産すること、安心して使っていただける製品をお届けすること、そして安定的に製品をお届けし、途絶えることなく社会基盤を支え続けることは、企業の社会的責任の最も基本となるものです。

この責務を徹底して追求する姿勢を全社で再確認するため、『強い現場』実現による、「安全・安心・安定の確保」を2011年度CSR重点課題の第一項目に位置付けました。

STORY 01 製造の現場

2. 地球規模の課題解決に向けた技術・事業・製品への注力

2010年度は「環境経営への取り組み強化」をCSR重点課題に掲げ、GHG削減の推進と中期目標策定、製品環境配慮要請への対応、化学物質マネジメント体制の構築などに取り組んだほか、実証プラントを用いたCO₂固定化(CO₂を原料にメタノールを合成)技術や大腸菌によるバイオマス原料とした化学製品合成技術といった最先端技術の開発についても積極的に推進してきました。

温暖化に限らず、生物多様性、食糧問題、水資源や希少資源の枯渇といった多岐にわたる課題への地球規模の対応が求められている中、様々な素材を生み出す化学企業として、当社が果たすべき役割は日増しに高まっています。

私たちは生産技術、製品、サービスを通じて、これら地球規模の課題解決に取り組む継続することが、社会と当社の持続的発展に欠かせないことを再確認し、製造、販売、研究開発などすべての現場における「考え、挑戦」を促進するため、「地球規模の課題解決に向けた技術・事業・製品への注力」を2011年度CSR重点課題に掲げています。

STORY 03 研究の現場

3. 信頼される企業グループ実現に向けた社員意識・行動変革

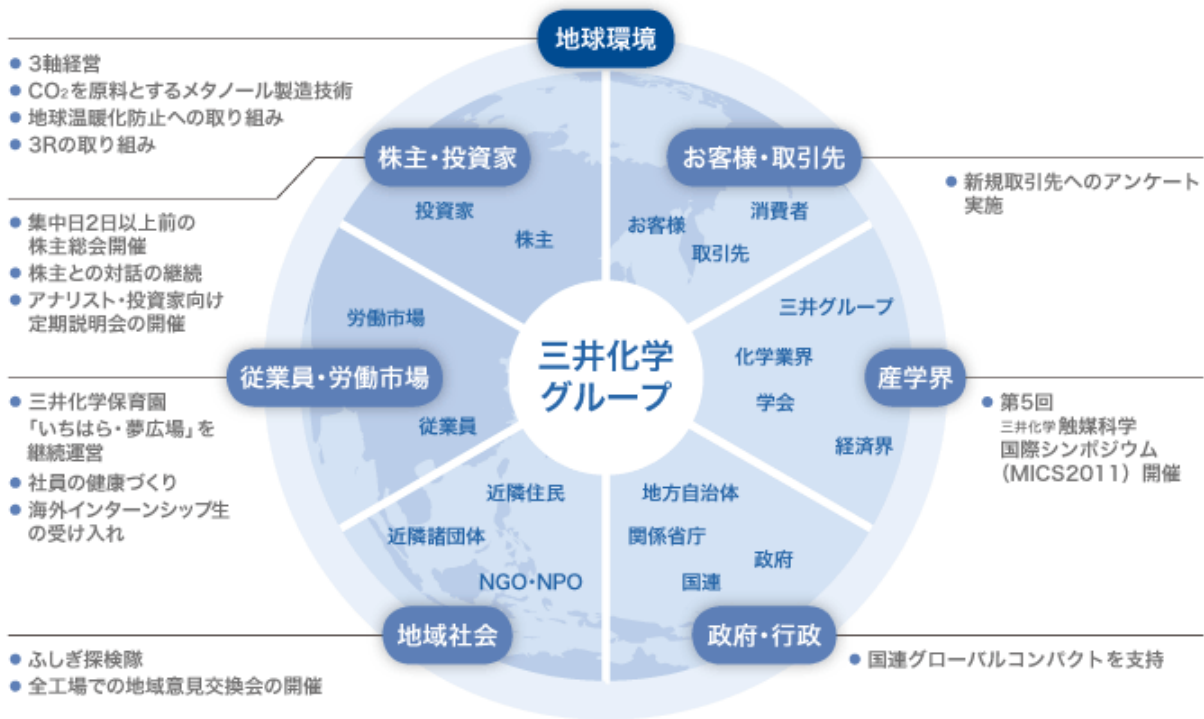
すべての企業活動は社員によって実行されています。社会から信頼される企業であり続けるために、ステークホルダーの皆様へ接して日々活動する社員一人ひとりの意識や行動は非常に大きな影響を及ぼすと考えています。

当社グループでは、『いい会社』に向けた意識・行動変革の取り組みでご紹介した「求める行動姿勢の実現」に取り組んでおり、「信頼される企業グループ実現に向けた社員意識・行動変革」を2011年度CSR重点課題のひとつに掲げています。

『いい会社』に向けた意識・行動変革の取り組み

STORY 02 販売の現場

ステークホルダーと2010年度の主な取り組み



© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

マネジメント体制

目標と実績 コーポレート・ガバナンス リスク管理体制 コンプライアンス教育

三井化学グループは、株主の皆様、お客様、地域の方々などステークホルダーの信頼を確保し、企業の社会的責任を全うするため、コーポレート・ガバナンスやリスク・コンプライアンスなどのマネジメント体制の充実を図っています。

目標と実績

2010年度の目標

- 各種BCP(Business Continuity Plan)について定期的な見直しの継続実施

2010年度の目標と実績

達成度A

- 各種BCPの年1回の見直しを実施

2011年度の課題

- 各種BCPIについて定期的な見直しの継続実施

※ 自己評価による達成度:A 95%以上、B 70%以上95%未満、C 70%未満

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の三井化学

マネジメント体制

目標と実績 コーポレート・ガバナンス リスク管理体制 コンプライアンス教育

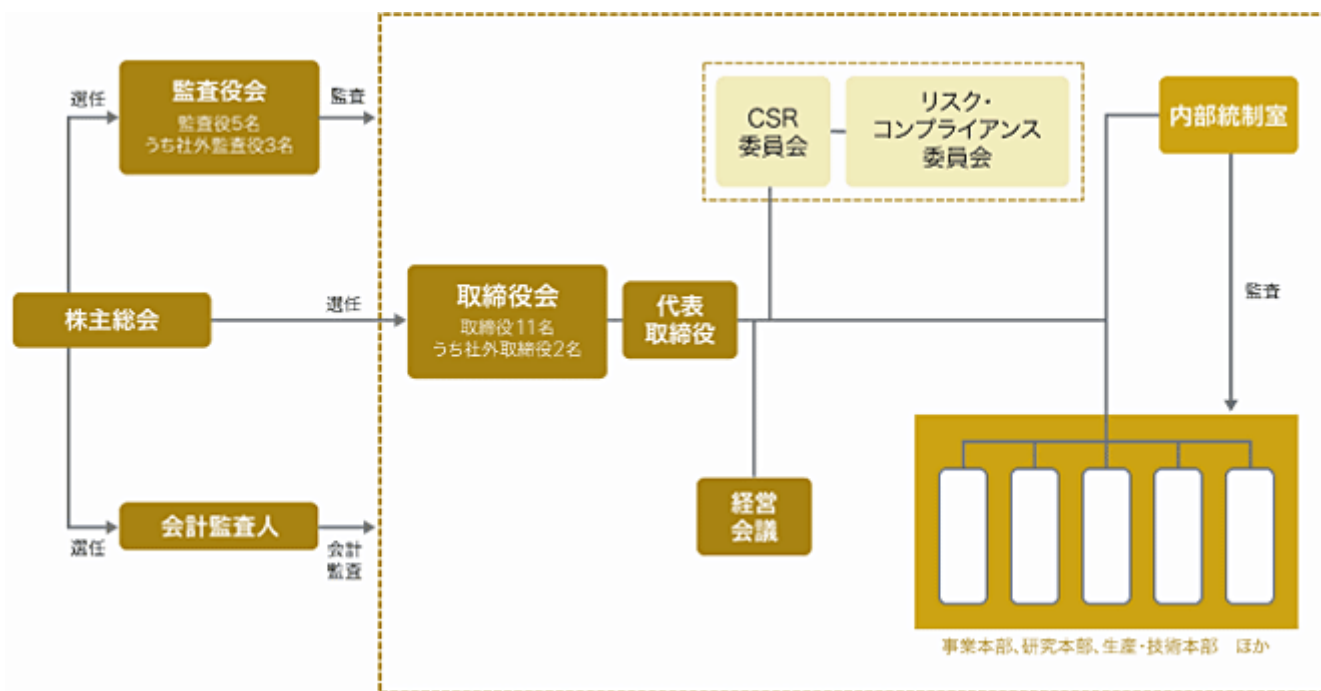
コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスの考え方

社会的信頼を確保し、企業の社会的責任を果たすために、常に経営の透明性を向上させることを基本としています。重要な意思決定にあたっては、社則に基づき設置された諸会議を通じて、広く議論を行う体制を整えるとともに、社外取締役の選任、監査役機能の重視などによる内部統制システムを構築しています。

社外に対しては、IR活動、広報活動に積極的に取り組み、株主、報道機関などへの適時適切な情報開示に努めることで、コーポレート・ガバナンスの実効性の確保を図っています。

コーポレート・ガバナンス体制とCSRの関係



コーポレート・ガバナンスに関する施策実施状況

取締役会

取締役会を原則として月1回開催し、経営に関する重要事項について意思決定を行っています。また、各取締役より職務執行状況、財政状態および経営成績などについて報告を受け、各取締役の職務執行を監督しています。

執行役員制度

経営監督機能と業務執行機能の役割分担の明確化を図るため、執行役員制度を導入しています。これにより、経営の意思決定のスピードアップを図り、各部門の業務を円滑かつ迅速に遂行し、経営体制のいっそうの強化・充実に努めています。

監査役監査

監査役は、取締役会のみならず、社内の重要な諸会議に出席し、社長などとの間で定期的に意見交換を行う場を持つとともに、業務執行取締役の決裁書および重要な議事録の回付を受け、確認しています。

また、監査役は、会計監査人との間および内部統制室との間で、それぞれの年間監査計画、監査結果などについて意見交換を行うなど、相互に連携を図り監査を実施しています。

経営会議

取締役会に付議すべき事項のうち、事前審議を要する事項および業務執行に関する重要事項を審議するための機関として「経営会議」を設置し、適正かつ効率的な意思決定が可能な体制を構築しています。なお、同会議には監査役が出席し、必要なときには意見を述べる事ができることとしています。

内部統制

当社は内部統制室を設置し、会社法および金融商品取引法で要求される三井化学グループの内部統制の整備・運用状況を継続的に確認・評価し、現存する業務上の重大リスクの許容レベル以下への低減を図っています。グループ全体の内部統制の水準を維持・強化するとともに、業務の適正かつ効率的な遂行を確保すべく、領域を定めず内部監査を実施しています。

具体的には、以下の事項に注力しています。

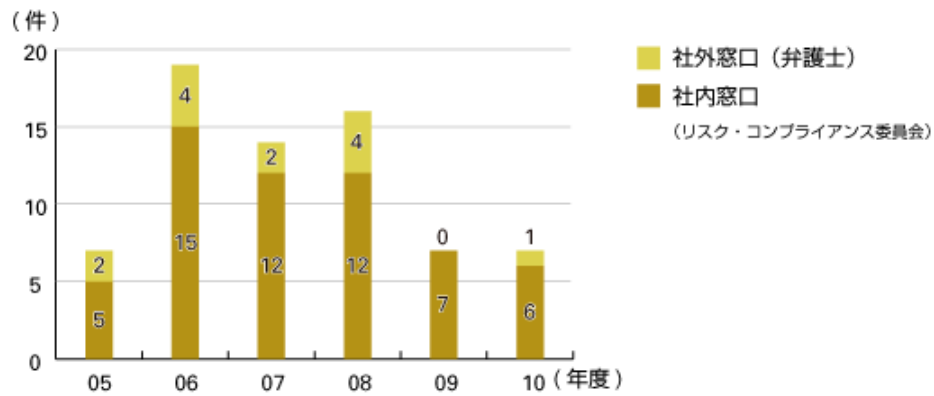
法令・ルール遵守に関わる自己評価プロセスを利用した内部監査

監査先で法令・ルール遵守に関わる内部統制の自己評価を行い、それに基づき内部監査を行うプロセスを、2008年度から事業部門および国内関係会社に対して導入し、現在、定常的な運用に入っています。さらに、2010年度からは海外関係会社への導入を図っています。

金融商品取引法(内部統制報告書の提出)への対応

内部統制報告書提出に向け、財務報告に関わる内部統制の有効性の評価を年次で実施しています。

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



BCP(事業継続計画)の整備

当社は、首都圏における大規模地震発生に備えたBCPを策定しています。本社機能が麻痺した場合、指揮命令系統を早期に確立するための「緊急対策本部」や、顧客対応を迅速・適切に行うための「緊急顧客対応センター」の設置について定めています。また、新型インフルエンザの流行や工場大規模事故に備えたBCPも策定しています。

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の三井化学

マネジメント体制

目標と実績 コーポレート・ガバナンス リスク管理体制 コンプライアンス教育

コンプライアンス教育

コンプライアンスの推進には、自らが守らなければならないという意識と、守るべき法令・ルールの知識を一人ひとりに徹底することが、必要かつ重要です。三井化学グループでは、意識面の「コンプライアンス意識教育」「法令・ルール違反事例 職場ディスカッション」、知識面の「法令・ルール遵守教育」、社員が常に参照できる「コンプライアンスガイドブック」という、4つの手段で徹底を図っています。

法令・ルール違反事例職場ディスカッション

当社グループでは、2008年度より、「法令・ルール違反事例 職場ディスカッション」を実施しています。これは、自社や他社で起こったコンプライアンス違反事例を題材に、その発生原因、再発防止策、自職場でも同じ問題が生じないかなどを職場ごとに話し合うものです。この取り組みは、法令・ルール遵守意識の向上および上司とのコミュニケーション強化を目的としていますが、自主的にディスカッションの回数を増やしたり、自職場で起こりやすい他社違反事例を取り上げたりするなど、前向きな姿勢が多くみられました。

コンプライアンス推進のための冊子

社員一人ひとりにコンプライアンスの周知徹底を図るため、当社グループでは2003年に、業務遂行上の留意点をまとめたコンプライアンスガイドブック(2006年改定)を全グループ社員に配布しました。また、2009年には、従来の日本語版・英語版に加え、中国の法令なども加味した中国語版を新たに作成し、中国現地法人を中心に配布しました。これらの冊子を利用し、日常的なコンプライアンスの推進を行っています。

コンプライアンス意識教育

コンプライアンスの徹底には、何よりも役員、社員一人ひとりの意識が重要です。一方で、各人の職務によって必要な意識も異なると考えます。そこで、経営層から新入社員まで、層ごとに内容を変えたコンプライアンス意識教育を実施しています。各層の各自が率先垂範することで、グループ全体にコンプライアンス意識が浸透し、風通しのよい企業となることを目指しています。

法令・ルール遵守教育・e-ラーニング

知識面の教育として、当社グループでは「法令・ルール遵守教育」を実施しています。業務遂行にあたり社員が知っておくべき重要な個別法令を取り上げ、現在15科目のうち14科目をe-ラーニング化しています。各社員には、自己の業務内容に応じて受講すべき科目が決められています。さらに、受講済みの科目についても定期的に再受講することをルールとし、最新の知識を有するようになっています。2010年度の受講者数は、のべ約13,000人でした。

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.

「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

レスポンシブル・ケア

三井化学グループの様々な事業活動のベースとなる、レスポンシブル・ケア(RC)の取り組み(労働安全衛生、保安防災、環境保全、化学物質マネジメント、品質、物流、RC推進体制)をご報告します。

労働安全衛生

安全は「いい会社」であるための基盤。これなくして社会の皆様から信頼は得られません。三井化学グループは、全社を挙げて「事故・労働災害の防止」に取り組んでいます。

目標と実績

安心・安全な職場づくり

社員の健康づくり

保安防災

三井化学グループは、「三井化学グループの保安防災力の向上(事故がないこと)の実現を目標に取り組んでいます。

目標と実績

生産における事故・災害の防止

環境保全

三井化学グループは、「地球環境との調和」を図りながら、事業活動を展開しています。

目標と実績

地球温暖化防止への取り組み

産業廃棄物の削減

PRTR法対象物質

有害大気汚染物質

揮発性有機化合物

環境負荷(NOx、CODなど)

生物多様性

環境会計

INPUT⇒OUTPUTデータ

環境影響評価(エコ効率)

環境苦情への対応

化学物質マネジメント

三井化学は、“2020年までに化学物質の人や環境への悪影響を最小化する”という、持続可能な開発に関する世界首脳会議(通称WSSD)での合意に基づき、より確実に化学物質管理を推進しています。

目標と実績

化学品・製品の安全性の確保

品質

三井化学グループは、「環境、安全、労働衛生及び品質に関する基本方針」に基づき、品質マネジメントを継続的に改善するとともに、製品・サービスの品質向上によって、お客様満足度のさらなる向上に努めています。

目標と実績

品質向上への取り組み

物流

三井化学グループは、製品の安全な輸送を確保するために、様々な取り組みを行っています。

目標と実績

製品の安全な輸送

RC推進体制

三井化学グループは、株主の皆様、お客様、地域の方々などステークホルダーの信頼を確保し、企業の社会的責任を全うするため、コーポレート・ガバナンスの充実を経営上の重要な基盤と考えています。

目標と実績

RCマネジメントシステム

RC推進体制

レスポンシブル・ケア方針

RC監査



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

労働安全衛生

目標と実績 安心・安全な職場づくり 社員の健康づくり

安全は「いい会社」であるための基盤。これなくして社会の皆様から信頼は得られません。三井化学グループは、全社を挙げて「事故・労働災害の防止」に取り組んでいます。

目標と実績

2010年度の目標

- 現場における「安全最優先」阻害要因の徹底究明
- 安全確保のための必要投融資の継続
- 重大事故・労災の全社共有化と原因究明・対策の徹底

2010年度の実績と評価

達成度A

- 生産現場力強化タスクフォースで課題と方策検討
- 投融資の有効活用

達成度C

- 労働災害度数率:
[三井化学グループ]休業災害0.28(目標0.15以下)、「休業＋不休業＋微傷」災害2.1(目標1.8以下)で、計数目標は未達
ただし、国内製造拠点においては、休業災害0.04(目標0.15以下)、「休業＋不休業＋微傷」災害1.1(目標1.8以下)で、目標達成

2011年度の課題

- ヒューマンエラー防止対策の実施
- 業種特有(同型)の労災防止対策の実施

※ 自己評価による達成度:A 95%以上、B 70%以上95%未満、C 70%未満

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の三井化学

労働安全衛生

目標と実績 安心・安全な職場づくり 社員の健康づくり

安心・安全な職場づくり

三井化学グループは、2011年度中期経営計画(2011年～2013年)において「三井化学グループの事故・労災撲滅」を重点課題に掲げ、その実現に向けてグループ全体で取り組んでいます。

労働災害の発生状況

2010年度は、「危険予知(KY)不足による労災の防止」を重点課題とし、KY活動のレベルアップを施策の柱に、国内製造拠点および国内外関係会社において安全活動を推進しました。

その結果、2010年度における三井化学グループの成績は次のようになりました。

	目標	2009年度	2010年度
休業災害	0.15以下	0.37	0.28
「休業＋不休業＋微傷」災害	1.8以下	2.3	2.1

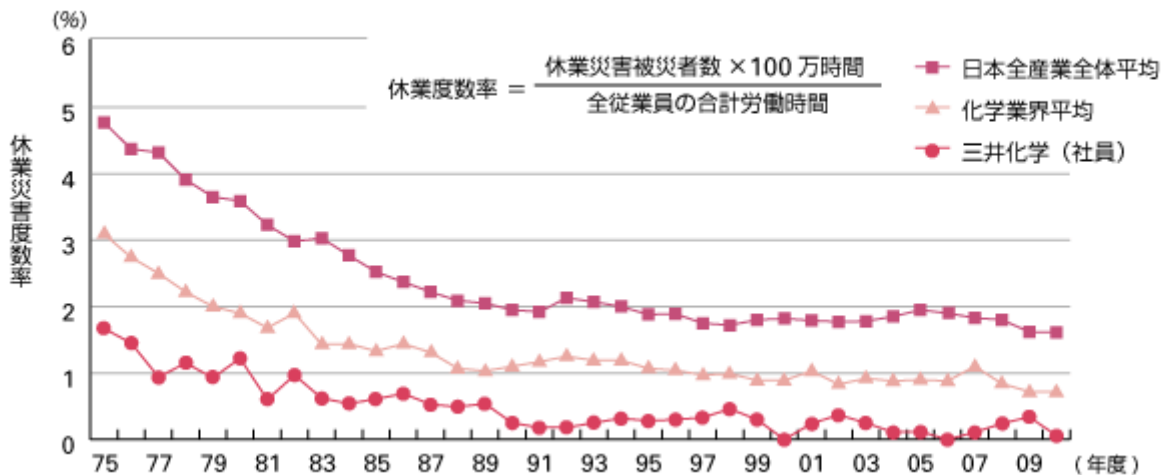
実績を振り返って

休業災害については、2009年度の0.37に比べて2010年度は0.28と改善しました。

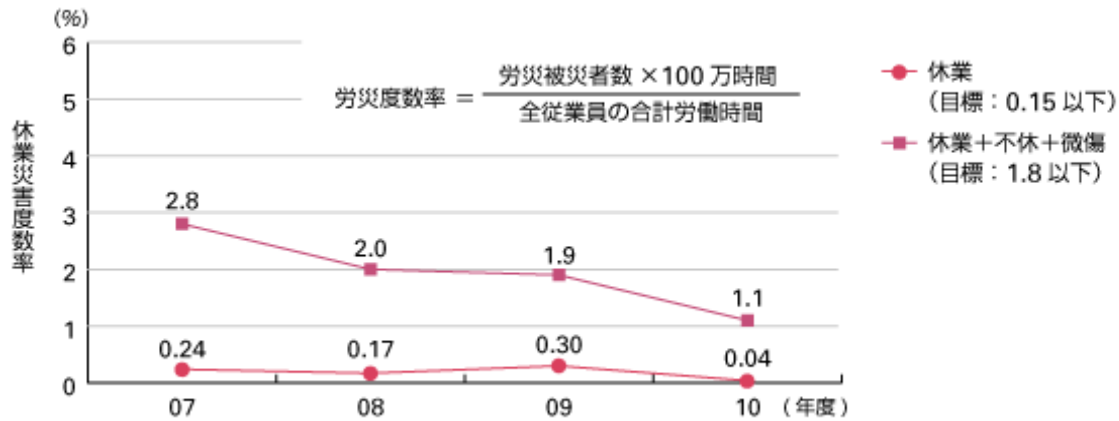
世界最高水準の安全を目指した目標値0.15には未達でしたが、全体として改善傾向にあり、特に国内生産拠点の社員・運転協力会社社員においては0.15を下回る好成績(0.04)を達成することができました。

同様に「休業災害＋不休業災害＋微傷災害」も2009年度の2.3に対して、2010年度は2.1と向上し、2008年度の2.6から確実に改善傾向を示しています。

休業労働災害度数率の推移(全産業／化学業界／三井化学)



労働災害度数率の推移(三井化学国内製造拠点<社員+運転協力会社>)



労働災害撲滅を目指して

三井化学の労働安全は、各事業所ごとの地道な安全活動に根ざしています。

中央労働災害防止協会の「ゼロ災運動」の精神に基づき、

1. トップの示す「理念」
2. 危険予知(KY)活動、リスクアセスメント活動などの「手法」
3. 全員参加の「実践」

これら3つの柱を意識し、安全活動のPDCAを確実に回しています。

2011年度の安全活動は、2011年度からの中期経営計画に基づき、以下の項目を重点課題としました。

1. ヒューマンエラー防止対策の実施
2. 業種特有(同型)の労災防止

1は、従来から活動の柱としているKY活動をさらにレベルアップする施策を中心に、体感教育やヒューマンエラー防止教育などを実施します。

2は、製造の型別に活動を絞り込むもので、加工型では挟まれ・巻き込まれを、プロセス型では被液防止(高低温物質、有害物質との接触)をテーマに、安全活動を推進します。

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

労働安全衛生

目標と実績 安心・安全な職場づくり 社員の健康づくり

社員の健康づくり

三井化学グループは、産業医や保健師などによる健康管理で社員を支援しています。
「社員の健康は、会社の健康に直結する」との基本理念に基づき、本社と袖ヶ浦センターのほか、全5工場の健康管理室に専属産業医や保健師、衛生管理者を配置しています。また、小規模工場や関係会社の主要工場にも嘱託産業医・看護師などを配置して、グループ社員の健康増進に取り組んでいます。
2010年度も、メンタルヘルス不全・生活習慣病予防、衛生リスクの継続的減低に取り組みました。

労働衛生リスクの低減 健康管理 メンタルヘルスケア対策

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

保安防災

目標と実績 生産における事故・災害の防止

三井化学グループは、「三井化学グループの保安防災力の向上(事故がないこと)の実現を目標に取り組んでいます。

目標と実績

2010年度の目標

- 取り扱い物質危険性情報の充実と周知・活用
- 作業手順の遵守徹底
- 重大事故・労災の全社共有化と原因究明・対策の徹底
- 2009年度事故事例への的確な対応

2010年度の実績と評価

達成度A

- 三井化学グループ内での保安防災技術教育の実施(9回)

達成度B

- 危険性の高い取り扱い物質の危険性情報の収集の実施

達成度C

- 異常現象・事故が発生

2011年度の課題

- 漏洩防止対策の強化
 - 製造／保全一体となった設備対策の実施
 - 漏洩事故につながりやすい設備の摘出と漏洩対策の強化
- 保安技術力の強化
 - 本社工場の自主管理による継続的改善
 - 国内外関係会社の自主管理化への支援
 - 保安防災教育の強化
 - 高リスク物質に関わる危険性情報の再確認、教育、周知徹底、安全対策への活用

※ 自己評価による達成度:A 95%以上、B 70%以上95%未満、C 70%未満



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

保安防災

目標と実績 生産における事故・災害の防止

生産における事故・災害の防止

三井化学グループは、「三井化学グループの保安防災力の向上(事故がないこと)の実現」を目標に取り組んでいます。

事故・災害の発生状況

2010年度、保安防災においては、「生産現場力の強化」、「取り扱い物質危険性情報の充実と周知・活用」、「作業手順の遵守徹底」などを課題にあげ、様々な取り組みによりグループの保安技術レベルの向上と強化を図りました。

しかしながら、重大な事故は発生していないものの、漏洩なども発生したことから2011年度は漏洩事故の防止対策の強化を図っています。

過去の事故事例による技術伝承

三井化学グループにおいて過去に起こった事故事例を解析し、よく起きている事例、教訓に富む事例などを32タイプに分類し、59事例を選定しました。

2010年度は、事故事例の説明会を工場の管理者と技術スタッフおよび研究者向けに12回開催、887名が受講し、作業における危険摘出力の向上および設計者への技術伝承を図りました。



事故事例教育の様子(大牟田工場)

事故事例様式

事故事例様式			
事例のタイプ	静電気火災		
事故の名称	Aプラントにおける製品充填中の火災		
発生日時	〇〇年 〇月 〇〇日	発生場所	B工場
事故概要	〇〇年 〇月 〇〇日 午前△時頃から3名の作業員が製品をドラム缶への充填を開始した。その充填している途中で火災が発生した。		(図)
原因	窒素雰囲気下でドラム缶に充填しなかったため、爆発混合気形成された。また、ドラム缶などが接地されておらず、静電気火花で着火、火災となった。		
教訓	1. ドラム缶などへの充填作業では、確実にアースを取ること。ドラム缶の蓋蓋をはがして金属面を出して接地すること。 2. 搬送操作は、ゆっくりと行うこと。 3. ドラム缶に充填する場合には、充填ラインを窒素雰囲気下とすること。 ・ ・		

教訓を理解し、作業に活かすことがポイント!!

保安の確保

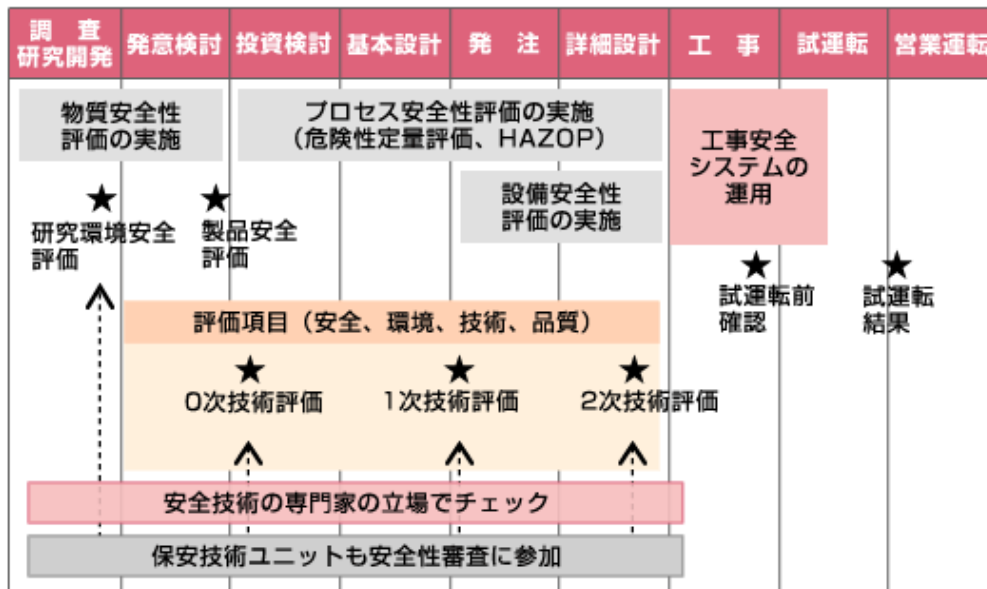
当社グループでは、生産技術センターに設置した「保安技術ユニット」が保安防災の中核となり、安全性評価の支援や保安防災教育を通じて、国内外三井化学グループの保安技術レベルの向上と強化を図っています。保安技術ユニットでは、研究から設備の新設・改造の各段階における安全性評価のための情報収集、物質危険性評価、プロセスおよび設備の安全性評価、安全対策の評価など、安全技術をベースとした安全性評価を行っています。

2010年度は124件の安全性評価と、82件の安全性チェック、4件の社内事故・トラブル対応を行いました。事故・トラブルについては迅速な対策を講じるとともに、これらを教訓として、同様のトラブルが起きないように全社への水平展開を行っています。

また、工場個別の安全問題に関しては、各工場・職場に安全の専門知識を学んだ工場SE^{*1}、職場SEを置き、各SEが中心となって、解決・改善に取り組んでいます。

*1 SE: Safety Engineerの略。安全問題の解決にあたる窓口を担う

研究から設備新設・改造までの安全性評価



地域保安防災計画・防災訓練

当社グループでは、緊急時の対策として、消火、呼び出し、通報などの防災訓練や、公設消防との意見交換、公設消防隊への体験入隊などで自衛防災力の向上を図っています。

職場ごとの防災訓練では、年間計画を作成し、各現場の業務に応じた内容で実施するほか、訓練のシナリオを事前に知らせずに訓練を行うなど、現実に即した方法で行っています。

また、工場全体が参加する「総合防災訓練」も定期的に行っています。「総合防災訓練」では、公設消防隊と自衛消防隊が一体となった訓練を行い、警察署の参加、そして保安防災への取り組みについて理解を深めていただけるように、地元自治会の方に見学をいただいています。

さらに、企業間の相互援助訓練として、公設消防隊や近隣企業を交えた共同防災訓練も行っています。2010年度は、大型タンクの消火に威力を発揮する大容量泡放射システム放水訓練を、大阪・和歌山広域共同防災協議会主催で、大阪工場で行っています。

首都圏における大規模地震時には、東京本社と大阪工場が連携して社員の安否確認や工場の被災状況把握などを行えるように、訓練を実施しています。また、本社・工場間の衛星電話を用いた通報訓練も実施しています。



共同防災訓練(大容量泡放射システム放水訓練、大阪工場)



海外関係会社の防災訓練(タイ、TMSC社)

保安防災教育

事故や災害防止の対策として保安防災教育にも力を入れており、運転員、生産技術系技術者、研究者を育てるために、それぞれに対して必要なカリキュラムで教育を実施しています。

なかでも、安全に強い運転員を育てることを目的として2006年に新設した「技術研修センター」では、体験教育を定期的実施しています。2010年度は、国内運転員向けに9回開催し、のべ180名が受講しました。体験教育では、静電気による可燃性ガスへの着火や粉塵爆発などを実際に体感することで、爆発火災の怖さと防止策を学びます。

また、2010年度は、小試験、中試験を担当する運転員および技術スタッフ向けの安全体験教育を開始しました。

さらには、国内外の関係会社の運転員向けにも、保安防災教育の取り組みを行っています。今後も当社グループ全体への保安防災教育を、計画的に継続していきます。



被液訓練(茂原技術研修センター)

保安防災教育カリキュラム

対象者	1年	2～7年
運転員	入社時、6カ月後 ・安全概要(火災爆発体験教育) ・労災・火災防止の基礎知識 ・防止技術と実施事項の再確認	・昇格時:グループ討議、体験教育など ・工場でのOFF JTによる保安1～5段階教育 (保安4・5段階は8年目以上)
生産技術系技術者	入社時 ・保安・環境保全概要 ・安全教育(入構者、KYT)	・安全性評価(DOW, HAZOP) ・物質安全性評価(危険性評価など) ・保安防災技術(安全工学、事例)
研究者	入社時 ・保安・環境保全概要 ・安全教育(KYT)	・物質の危険性、反応危険性、混触危険性 ・危険性評価手法 ・安全工学、事例に基づく保安防災教育

安全・防災・衛生対策投資

安全・防災・衛生対策の2010年度の投資額は約61億円で、2009年度の約26億円より大幅に増加しました。

これは、漏洩などの事故を未然防止するため、老朽化した設備の改善を推進したこと、また、墜落・転落を防ぐため手すりの設置といった労働災害防止の取り組みをさらに進めたためです。

安全・防災・衛生対策投資 内訳

(単位:百万円)

項目		2009年度	2010年度
1	爆発・火災・漏洩対策	1,032	1,860
2	設備老朽化対策	702	1,672
3	労働安全・作業環境改善対策	790	2,260
4	地震などの天災対策	18	13
5	その他	80	286
合計		2,622	6,091



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

環境保全

目標と実績	地球温暖化防止への取り組み	産業廃棄物の削減	PRTR法対象物質
有害大気汚染物質	揮発性有機化合物	環境負荷(NOx、CODなど)	生物多様性
環境会計	INPUT⇒OUTPUTデータ	環境影響評価(エコ効率)	環境苦情への対応

三井化学グループは、「地球環境との調和」を図りながら、事業活動を展開しています。

三井化学は化学会社として、事業活動にともなう環境負荷の低減と化学物質の適正管理の両面から、環境保全に取り組んでいます。具体的には、地球温暖化防止、省エネルギー推進、3R(Reduce, Reuse, Recycle)推進による産業廃棄物の埋立量削減、PRTR法対象物質や揮発性有機化合物(VOC)の負荷削減などがあります。また、環境会計の公表や環境負荷と経済活動との関係をエコ効率で評価することで、活動の効果を把握し持続可能な発展を目指しています。

目標と実績

2010年度の目標

- 省エネルギー案件の実行とさらなる省エネルギー案件の発掘
- 産業廃棄物ミニマム化に向けた着実な計画実行

2010年度の実績と評価

達成度A

- 省エネルギーによるGHG削減 9万トン
- 国内製造拠点5工場で産業廃棄物ミニマム化を達成
国内外関係会社の産業廃棄物の埋立率:国内0.4%、海外0.4%

2011年度の課題

- GHG削減計画の実行と省エネ革新技術の開発
- 産業廃棄物ミニマム化に向けた着実な計画実行

※ 自己評価による達成度:A 95%以上、B 70%以上95%未満、C 70%未満

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の三井化学

環境保全

目標と実績	地球温暖化防止への取り組み	産業廃棄物の削減	PRTR法対象物質
有害大気汚染物質	揮発性有機化合物	環境負荷(NOx、CODなど)	生物多様性
環境会計	INPUT⇒OUTPUTデータ	環境影響評価(エコ効率)	環境苦情への対応

地球温暖化防止への取り組み

温室効果ガス排出削減

当社グループは、国内製造拠点6工場および国内の連結子会社(18社)を対象に、2011年度までにGHG原単位指数85以下(1990年度比)を目標とし、GHG削減活動に取り組んでいます。

2010年度は、大阪工場と近隣企業との共同事業によるLNG冷熱を利用したプロセス導入など、グループ内の省エネルギーへの取り組みによってGHG排出量を9万トン削減し、GHG削減を掲げる2008年度からの中期経営計画期間中に39万トン削減することができました。

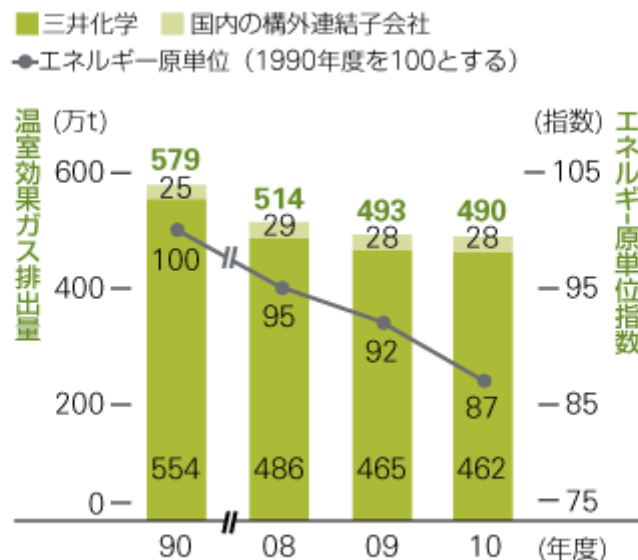
この結果、2010年度GHG排出量は、2009年度より生産量が増加したにもかかわらず490万トンと3万トン減少し、GHG原単位指数も83(2009年度90)と大幅に改善しました。

(エネルギー原単位指数:87(2009年度は92))

2011年度から始まった中期経営計画では、環境目標のひとつに、新たに2013年度のGHG排出量を1990年度比で50万トン削減することを決めました。省エネルギーの推進、プロセス革新技術の創出を計画するとともに、さらに環境配慮型製品を拡充することで、社会全体のGHG排出総量の削減に貢献していきます。

温室効果ガス排出量とエネルギー原単位の推移

温室効果ガス排出量とエネルギー原単位の推移



※ エネルギー原単位指数算定に使用する生産量の考え方を2010年度変更し、従来データも見直しました。

省エネルギーへの取り組み事例紹介

大阪工場のエチレンプラントにおいて、世界で初めて大規模にLNG冷熱を利用した省エネルギー化プロセス導入に成功しました。この導入により、エチレンプラントから排出されるCO₂が年間で約3.8万トン削減されます。

地域連携による世界初のエチレンプラントでのLNG冷熱を利用した大規模な省エネルギープロセスの導入について

温室効果ガス

物流の省エネ対策

荷主である当社は、主体的に輸送計画へ関与することで、トラックから鉄道や船舶への輸送条件の変更(モーダルシフト)や積載率の向上を図ってきました。また、お客様や輸送業者の皆様と連携することで、納入ロットサイズ拡大による輸送回数削減や車両大型化などの対策も推進してきました。

2006年に施行された「改正省エネルギー法」では、自動車単体の燃費改善のみならず輸送活動における省エネルギー対策が義務化されています。今後もグリーン物流をさらに推進し、エネルギー資源の有効利用と地球温暖化防止に取り組めます。

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の三井化学

環境保全

目標と実績	地球温暖化防止への取り組み	産業廃棄物の削減	PRTR法対象物質
有害大気汚染物質	揮発性有機化合物	環境負荷(NOx、CODなど)	生物多様性
環境会計	INPUT⇒OUTPUTデータ	環境影響評価(エコ効率)	環境苦情への対応

産業廃棄物の削減

三井化学グループは、「2015年度までに国内製造拠点および国内外連結子会社の全生産拠点での産業廃棄物ミニマム化^{*1}(以下、ミニマム化)達成」をグランドデザインの目標のひとつに掲げています。また、2008年度中期経営計画において、2011年度までに国内全生産拠点のミニマム化と海外生産拠点の平均埋立率を5%以下にすることを目標にしました。

国内製造拠点8工場では、大牟田工場を除いてミニマム化を継続しています。

大牟田工場においては、「固形産業廃棄物焼却炉」の試運転継続、設備改善などを進め、営業運転の目処が立ちました。これにより、同工場が発生している産業廃棄物を焼却処理することができるようになり、2011年度よりミニマム化達成は大きく前進しています。

国内関係会社の製品は、当社製品を加工し付加価値を高めるものが多く、海外関係会社の多くは、汎用化学品を大量に生産しています。廃棄物処理の規制や産業構造が国ごとに異なるため、海外でのミニマム化推進には多くの課題もありますが、各社とも減量化やリサイクルなどの再生資源化を積極的に推進し、グループ一丸となって埋立処分量削減に取り組んでいます。

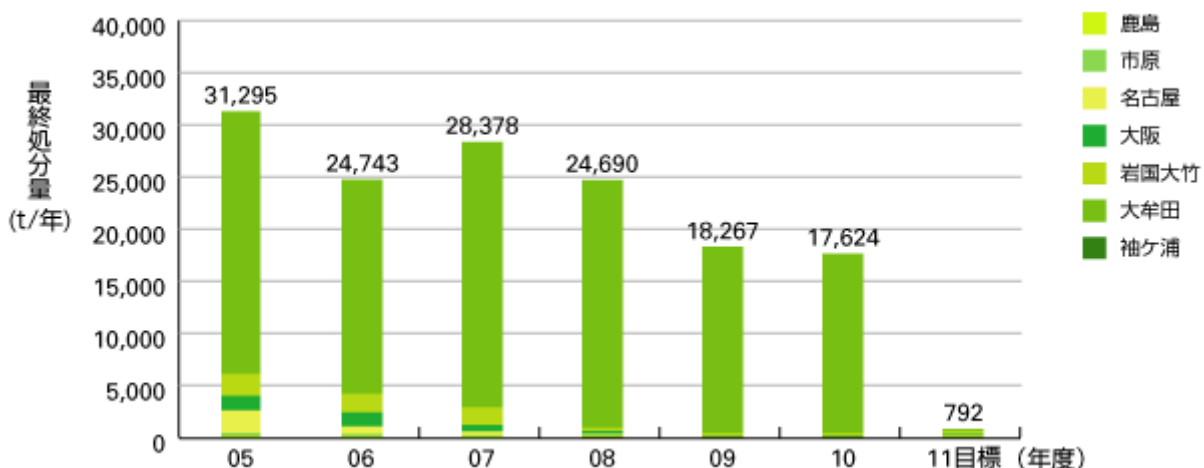
2010年度の国内関係会社^{*2}の産業廃棄物埋立率は全社1%以下で、2011年度までに目指していたミニマム化を前倒して達成することができました。海外関係会社^{*2}の産業廃棄物平均埋立率は0.4%で、2009年度より1%以下を継続しています。

2011年度は、大牟田工場のミニマム化を達成することで、国内製造拠点および国内関係会社におけるミニマム化達成、また、産業廃棄物の発生量削減を目指しています。

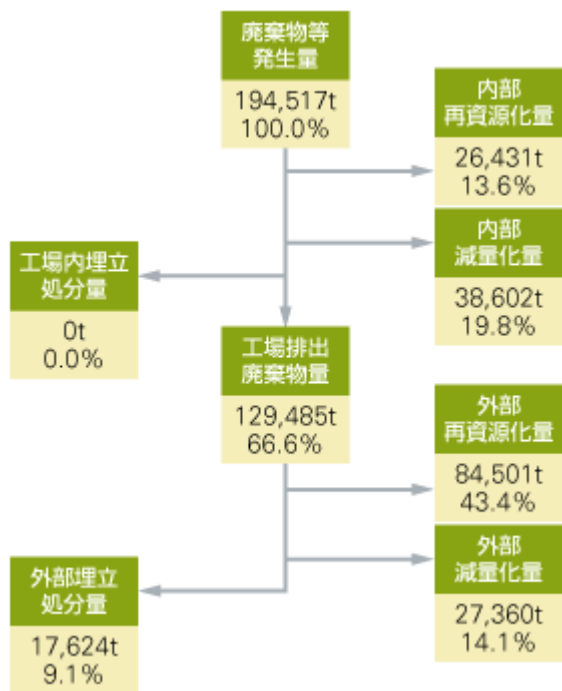
*1 産業廃棄物ミニマム化: 産業廃棄物の発生量に対する埋立処分量の割合が1%以下

*2 国内外関係会社の集計範囲: 連結子会社およびRC支援対象会社の生産拠点(国内25、海外20)

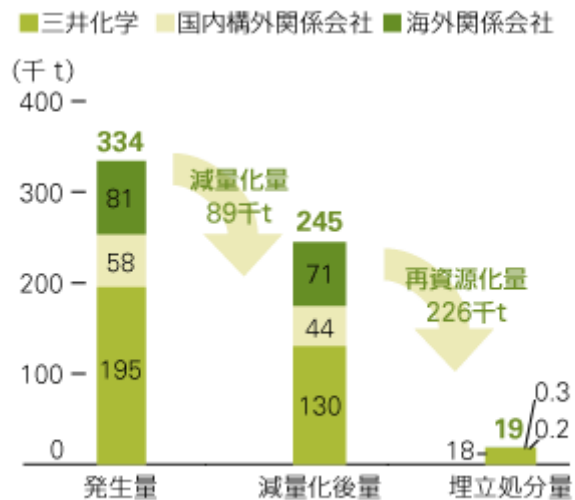
産業廃棄物最終処分量の推移



廃棄物処理の流れ (三井化学)



産業廃棄物処分区分



- ※ 内部減量化量: 廃プラスチックの焼却や廃酸を中和処理することによる減量
- ※ 再生資源化量: 廃プラスチックのリサイクルのほか、廃油の燃料使用を含めた値
- ※ 廃棄物等発生量: 汚泥、廃プラスチック、ばいじんなど。ただし、汚泥は脱水後の値
- ※ 四捨五入により、%数値に若干の誤差があります。

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の三井化学

環境保全

目標と実績 地球温暖化防止への取り組み 産業廃棄物の削減 PRTR法対象物質

有害大気汚染物質 揮発性有機化合物 環境負荷(NOx、CODなど) 生物多様性

環境会計 INPUT⇒OUTPUTデータ 環境影響評価(エコ効率) 環境苦情への対応

PRTR法対象物質

PRTR法対象物質

三井化学は、「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR^{*1}法)」に基づき、毎年、製造あるいは使用した指定化学物質について、環境への排出量および移動量を国に届け出しています。

PRTR法改正に基づき、2010年度より届け出すべき指定化学物質が追加^{*2}されました。

このため、届出対象物質の総排出量は、法改正前の2009年度は702トンでしたが、改正後の2010年度は1,743トンに増加しました。今後ますます化学物質の管理改善・強化が要求されるため、さらなる排出量削減に努めます。

*1 PRTR: Pollutant Release and Transfer Registerの略。

*2 PRTR法で定める国へ届け出すべき第一種指定化学物質

[改正前]354物質 → [改正後]462物質

(うち特定第一種指定化学物質 12物質→15物質)

PRTR法対象物質の排出量の推移

工場	排出量[t/年]		届出物質数	
	2009年度	2010年度	2009年度	2010年度
鹿島	81	87	23	21
市原	63	354	33	33
茂原分	1	1	25	30
名古屋	3	3	13	17
大阪	60	78	37	47
岩国大竹	118	774	23	25
徳山分	29	22	11	10
大牟田	347	424	42	46
合計	702	1,743	207	229

国内製造拠点別PRTRデータ

PRTR法改正^{*3}により、2010年度より届け出すべき指定化学物質が増えました。

今後ますます化学物質の管理改善・強化が要求されるため、さらなる排出量削減などに努めます。

ここでは、国内製造拠点別の主なPRTR法対象物質排出量および移動量の実績を示します。

* 3 PRTR法改正:2010年度より、国へ届け出すべき第一種指定化学物質が追加
 [改正前]354物質→[改正後]462物質
 (うち特定第一種指定化学物質 12物質→15物質)

鹿島工場 市原工場 茂原分工場 名古屋工場 大阪工場 岩国大竹工場 徳山分工場
 大牟田工場

三井化学として届出した年間取扱量1t以上の物質において、排出量の多い上位10物質とダイオキシン
 単位:t/年、ただしダイオキシン類のみmg-TEQ/年

鹿島工場

物質名称	政令 指定 番号	排出量				移動量	
		大気	水域	土壌	合計	下水道	事業所外
トルエン	300	64.00	0.00	0.00	64.00	0.00	0.00
ジクロロベンゼン	181	12.00	0.00	0.00	12.00	8.20	2.30
ベンゼン	400	4.70	0.00	0.00	4.70	0.28	0.00
クロロジフルオロメタン	104	1.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00
四塩化炭素	149	0.78	0.00	0.00	0.78	0.01	0.00
ホルムアルデヒド	411	0.64	0.00	0.00	0.64	20.00	0.00
2,2-ジクロロ-1,1,1-トリフルオロエタン	164	0.38	0.00	0.00	0.38	0.00	0.00
アセドアルデヒド	12	0.12	0.00	0.00	0.12	0.00	0.00
トリレンジイソシアネート	298	0.12	0.00	0.00	0.12	0.00	0.00
トルイジン	299	0.00	0.00	0.000	0.00	5.60	0.00
ダイオキシン類	243	0.0035	0.0000	0.0000	0.0035	0.0017	0.0220

市原工場

物質名称	政令 指定 番号	排出量				移動量	
		大気	水域	土壌	合計	下水道	事業所外
ノルマルヘキサン	392	290.00	0.29	0.00	290.00	0.00	0.00
クメン	83	21.00	0.01	0.00	21.00	0.00	0.00
キシレン	80	15.00	0.01	0.00	15.00	0.00	0.00
トルエン	300	12.00	0.01	0.00	12.00	0.00	0.00
ほう素化合物	405	0.00	4.60	0.00	4.60	0.00	0.00
エチルベンゼン	53	3.20	0.00	0.00	3.20	0.00	0.00
1,3,5-トリメチルベンゼン	297	1.50	0.00	0.00	1.50	0.00	0.00
ベンゼン	400	1.50	0.01	0.00	1.50	0.00	0.00
ジクロロペンタフルオロプロパン	185	1.20	0.00	0.00	1.20	0.00	0.00
ふっ化水素およびその水溶性塩	374	0.00	1.00	0.00	1.00	0.00	0.00

ダイオキシン類	243	0.0010	0.1700	0.0000	0.1710	0.0000	0.0000
---------	-----	--------	--------	--------	--------	--------	--------

茂原分工場

物質名称	政令 指定 番号	排出量				移動量	
		大気	水域	土壌	合計	下水道	事業所外
スチレン	240	0.37	0.00	0.00	0.37	0.00	45.00
メタクリル酸メチル	420	0.15	0.00	0.00	0.15	0.00	9.10
アクリル酸ブチル	7	0.13	0.00	0.00	0.13	0.00	1.60
トルエン	300	0.08	0.00	0.00	0.08	0.00	14.00
キシレン	80	0.06	0.00	0.00	0.06	0.00	20.00
アクリル酸およびその水溶性塩	4	0.02	0.00	0.00	0.02	0.00	0.12
メタクリル酸ノルマルブチル	419	0.01	0.00	0.00	0.01	0.00	0.98
アクリルアミド	2	0.01	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00
アクリル酸エチル	3	0.01	0.00	0.00	0.01	0.00	0.31
無水フタル酸	413	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	15.00

名古屋工場

物質名称	政令 指定 番号	排出量				移動量	
		大気	水域	土壌	合計	下水道	事業所外
1,2-エポキシプロパン	68	1.20	0.23	0.00	1.50	0.00	0.00
スチレン	240	0.28	0.00	0.00	0.28	0.00	0.00
トルエン	300	0.27	0.00	0.00	0.27	0.00	0.04
ホルムアルデヒド	411	0.20	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00
アクリロニトリル	9	0.00	0.00	0.00	0.18	0.00	0.00
アクリル酸メチル	8	0.07	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00
N,N-ジメチルアセトアミド	213	0.02	0.00	0.00	0.02	0.00	12.00
フェノール	349	0.02	0.00	0.00	0.02	0.00	3.70
N,N-ジメチルホルムアミド	232	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.16
塩化第二鉄	71	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.40

大阪工場

物質名称	政令 指定 番号	排出量				移動量	
		大気	水域	土壌	合計	下水道	事業所外
クロロエチレン	94	33.00	0.00	0.00	33.00	0.00	0.00
クメン	83	16.00	0.00	0.00	16.00	0.00	0.00

ベンゼン	400	6.00	0.01	0.00	6.00	0.00	0.00
トルエン	300	3.40	0.00	0.00	3.40	0.00	0.64
亜鉛の水溶性化合物	1	0.00	3.30	0.00	3.30	0.00	5.10
アクリロニトリル	9	2.20	0.00	0.00	2.20	0.00	4.50
HCFC-22	104	2.10	0.00	0.00	2.10	0.00	0.00
トリクロロフルオロメタン	288	1.60	0.00	0.00	1.60	0.00	0.00
ヘキサデシルトリメチルアンモニウム=クロリド	389	0.00	1.40	0.00	1.40	0.00	0.00
1,4-ジオキサン	150	1.30	0.07	0.00	1.30	0.00	0.00
ダイオキシン類	243	0.0000	1.3000	0.0000	1.3000	0.0000	0.0008

岩国大竹工場

物質名称	政令 指定 番号	排出量				移動量	
		大気	水域	土壌	合計	下水道	事業所外
ノルマルーヘキサン	392	640.00	0.00	0.00	640.00	0.00	16.00
トルエン	300	84.00	0.04	0.00	84.00	0.00	22.00
キシレン	80	22.00	0.00	0.00	22.00	0.00	0.00
1,4-ジオキサン	150	0.00	8.70	0.00	8.70	0.00	0.00
ブロモメタン	386	6.90	0.00	0.00	6.90	0.00	0.00
クメン	83	6.70	0.00	0.00	6.70	0.00	0.00
ベンゼン	400	3.80	0.00	0.00	3.80	0.00	0.00
アセトアルデヒド	12	1.30	0.00	0.00	1.30	0.00	0.00
臭素	234	0.62	0.00	0.00	0.62	0.00	0.00
トリクロロフルオロメタン	288	0.51	0.00	0.00	0.51	0.00	0.00
ダイオキシン類	243	0.0000	0.2400	0.0000	0.2400	0.0000	0.0000

徳山分工場

物質名称	政令 指定 番号	排出量				移動量	
		大気	水域	土壌	合計	下水道	事業所外
1,2-エポキシプロパン	68	21.00	0.00	0.00	21.00	0.00	0.00
エチレンオキシド	56	0.29	0.00	0.00	0.29	0.00	0.00
アクリロニトリル	9	0.07	0.00	0.00	0.07	0.00	17.00
エチレンジアミン	59	0.01	0.00	0.00	0.01	0.00	0.03
スチレン	240	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	18.00
無水フタル酸	413	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
2,2'-アゾビスイソブチロニトリル	16	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01

トルエンジアミン	301	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
2-アミノエタノール	20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
トリレンジイソシアネート	298	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

大牟田工場

物質名称	政令 指定 番号	排出量				移動量	
		大気	水域	土壌	合計	下水道	事業所外
トルエン	300	360.00	3.10	0.00	360.00	0.00	440.00
ジクロロベンゼン	181	23.00	0.28	0.00	23.00	0.00	280.00
ホルムアルデヒド	411	0.00	11.00	0.00	11.00	0.00	0.00
クロロベンゼン	125	8.60	0.00	0.00	8.60	0.00	7.50
塩化メチレン	186	6.40	0.00	0.00	6.40	0.00	13.00
エピクロロヒドリン	65	4.80	0.00	0.00	4.80	0.00	0.00
フェノール	349	1.70	0.70	0.00	2.40	0.00	27.00
N,N-ジメチルホルムアミド	232	0.14	1.90	0.00	2.00	0.00	12.00
トリレンジイソシアネート	298	1.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00
ニトロベンゼン	316	0.63	0.09	0.00	0.72	0.00	56.00
ダイオキシン類	243	0.0009	4.2000	0.0000	4.2000	0.0000	0.0000

このページの排出量(大気)の一部に誤りがあったため訂正いたしました。

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

環境保全

目標と実績	地球温暖化防止への取り組み	産業廃棄物の削減	PRTR法対象物質
有害大気汚染物質	揮発性有機化合物	環境負荷(NOx、CODなど)	生物多様性
環境会計	INPUT⇒OUTPUTデータ	環境影響評価(エコ効率)	環境苦情への対応

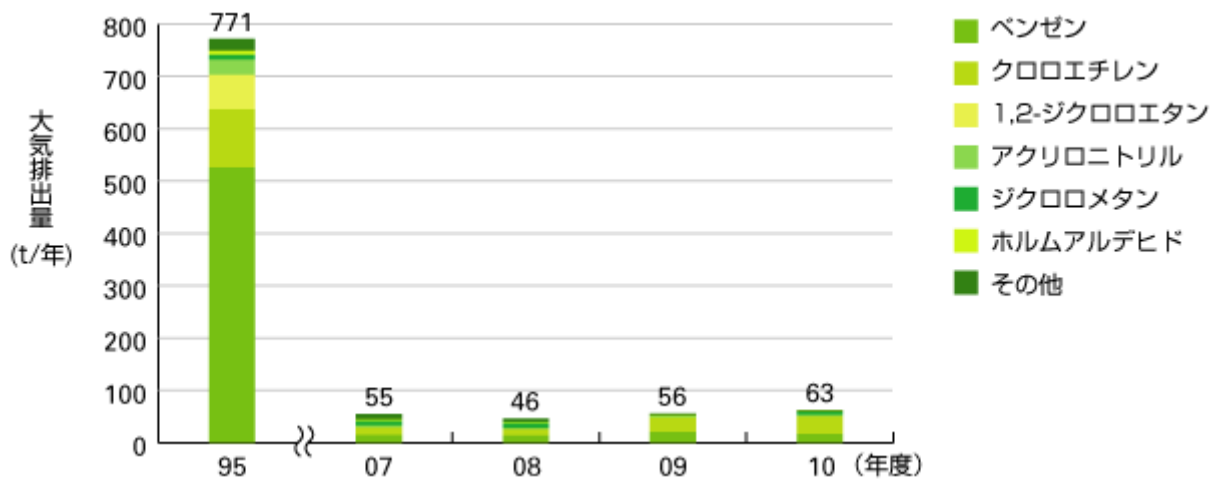
有害大気汚染物質

有害大気汚染物質

大気汚染防止法で規定された有害大気汚染物質のなかでも、健康に対するリスクが高いと考えられる優先取組物質について、当社の自主ガイドラインにより積極的な排出量の削減を図っています。

2010年度の国内製造拠点の排出量は、主に生産量増加にともない63トンとなり、2009年度より増加しました。

有害大気汚染物質の排出量の推移



© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の三井化学

環境保全

目標と実績 地球温暖化防止への取り組み 産業廃棄物の削減 PRTR法対象物質

有害大気汚染物質 揮発性有機化合物 環境負荷(NOx、CODなど) 生物多様性

環境会計 INPUT⇒OUTPUTデータ 環境影響評価(エコ効率) 環境苦情への対応

揮発性有機化合物

揮発性有機化合物(VOC)

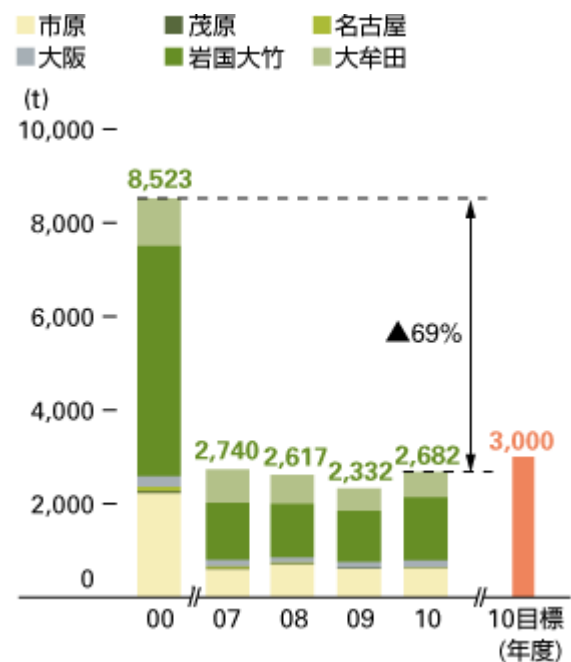
2004年5月の大気汚染防止法の改正により、揮発性有機化合物(VOC^{*1})の排出が規制されました。

政府は、2010年度までに固定排出源からのVOC排出量を2000年度比で30%削減を目標としましたが、当社はそれよりさらに厳しい自主削減目標「2010年度の排出量3,000トン以下」を掲げました。この自主削減目標はすでに2007年度に達成し、2010年度も2,682トンとなりました。

2011年度、政府から新たなる目標の提示があることが予想されますが、引き続きVOCによる環境負荷の低減に向け、全社を挙げて継続的に取り組んでいきます。

*1 VOC: Volatile Organic Compoundsの略。

VOCの大気への排出量の推移



© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の三井化学

環境保全

目標と実績	地球温暖化防止への取り組み	産業廃棄物の削減	PRTR法対象物質
有害大気汚染物質	揮発性有機化合物	環境負荷(NOx、CODなど)	生物多様性
環境会計	INPUT⇒OUTPUTデータ	環境影響評価(エコ効率)	環境苦情への対応

環境負荷(NOx、CODなど)

大気汚染・水質汚染の削減

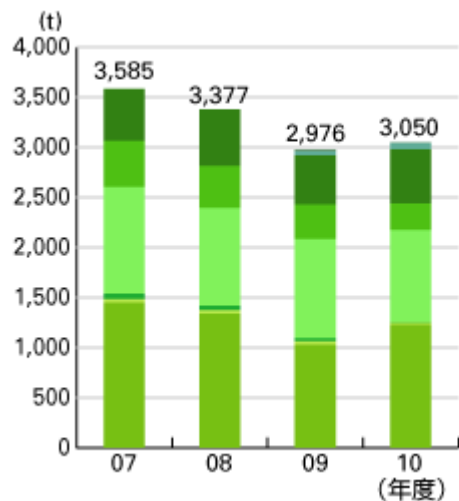
三井化学では、NOx、SOxなどの大気汚染物質や、COD、窒素、リン等の水質汚濁物質の排出負荷の削減に努めており、現在の排出量はいずれも法や条例などの基準を大きく下回っています。

2010年度は前年度に比べ各工場の稼働率が上がったため、ほとんどの排出量でやや増加となりました。しかし、燃料使用量の削減などに努めた結果、SOxおよびばいじん排出量は低減することができました。

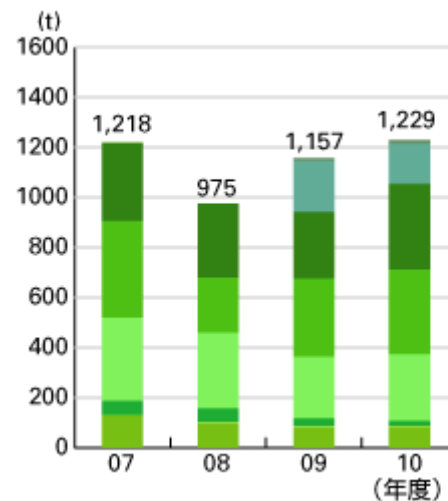
環境負荷の推移(8種類)

■ 市原 ■ 茂原 ■ 名古屋 ■ 大阪 ■ 岩国大竹 ■ 大牟田 ■ 鹿島 ■ 徳山 ■ 袖ヶ浦

NOx排出量

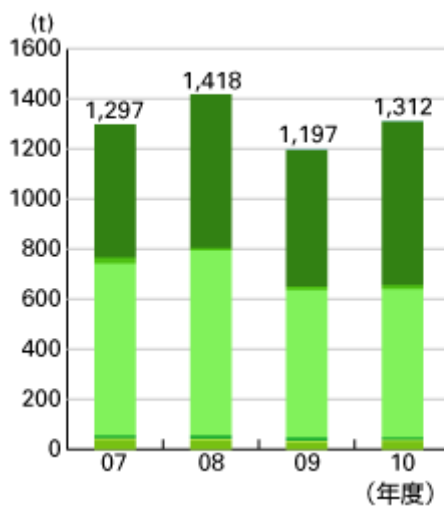
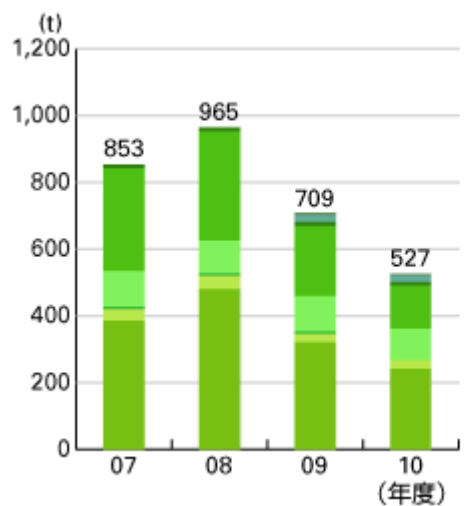


COD排出量



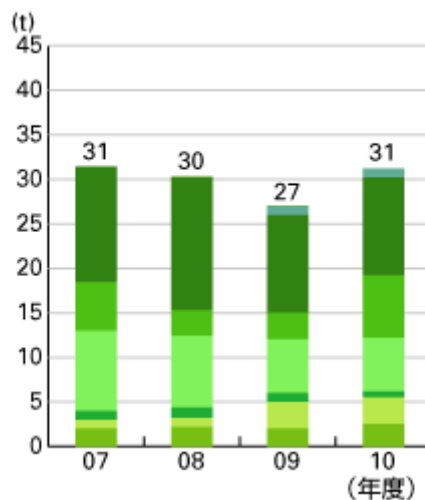
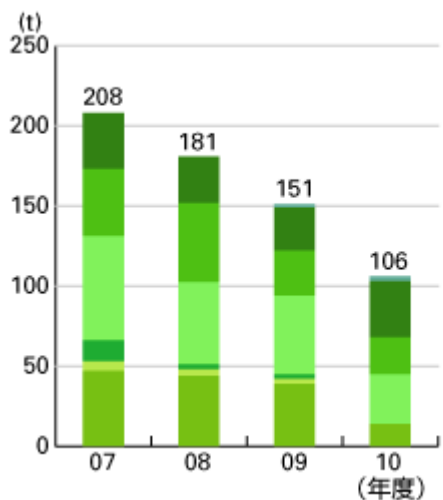
SOx排出量

全窒素排出量



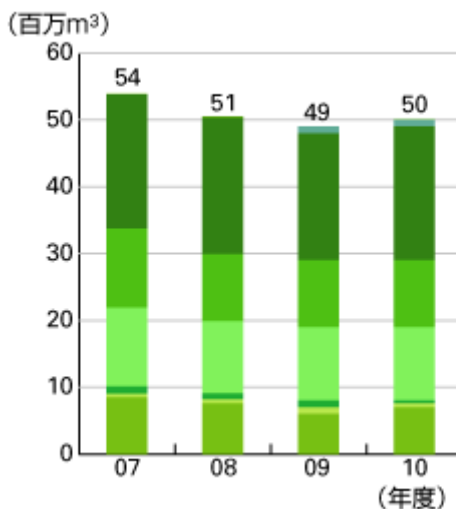
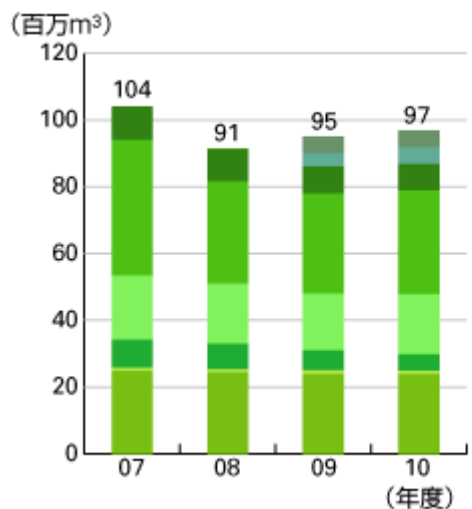
ばいじん排出量

全リン排出量



水利用量

排水量





「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

環境保全

目標と実績 地球温暖化防止への取り組み 産業廃棄物の削減 PRTR法対象物質

有害大気汚染物質 揮発性有機化合物 環境負荷(NOx、CODなど) 生物多様性

環境会計 INPUT⇒OUTPUTデータ 環境影響評価(エコ効率) 環境苦情への対応

生物多様性

当社は2010年1月22日、日本経済団体連合会「生物多様性宣言推進パートナーズ」に参加しました。これは、当社が経団連の「生物多様性宣言」の7原則の趣旨に賛同し、宣言・行動指針に則った事業活動を率先して行動する意思を表明したものです。当社グループでは、日頃の事業活動において生物多様性に配慮した取り組みを進めていきます。

生物多様性宣言の7原則

1. 自然の恵みに感謝し、自然循環と事業活動との調和を志す
2. 生物多様性の危機に対してグローバルな視点を持ち行動する
3. 生物多様性に資する行動に自発的かつ着実に取り組む
4. 資源循環型経営を推進する
5. 生物多様性に学ぶ産業、暮らし、文化の創造を目指す
6. 国内外の関係組織との連携、協力を努める
7. 生物多様性を育む社会づくりに向け率先して行動する

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

環境保全

目標と実績 地球温暖化防止への取り組み 産業廃棄物の削減 PRTR法対象物質

有害大気汚染物質 揮発性有機化合物 環境負荷(NOx、CODなど) 生物多様性

環境会計 INPUT⇒OUTPUTデータ 環境影響評価(エコ効率) 環境苦情への対応

環境会計

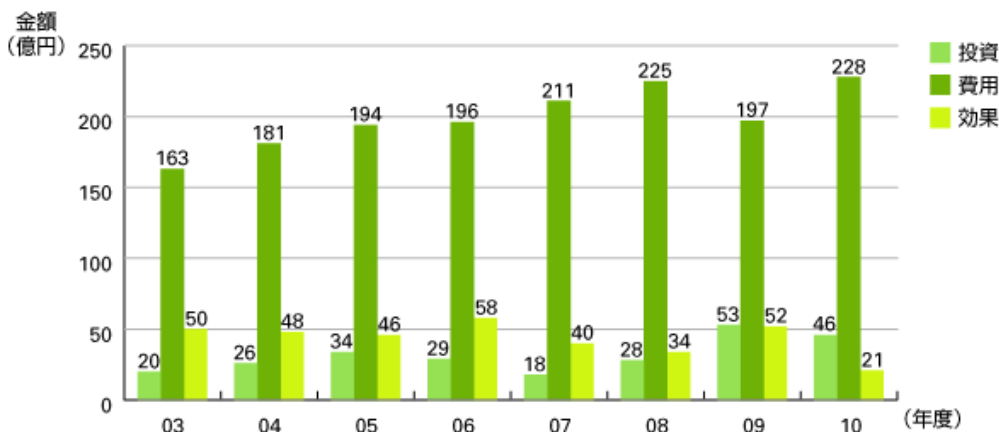
三井化学では、環境対策や労働安全衛生などRC(レスポンスブル・ケア)に関する必要な投資を行い、その「環境会計」を環境省「環境会計ガイドライン2005年版」に準拠して集計し、公表しています。

2010年度の環境保全に関する投資額は約46億円、費用は約230億円となり、いずれも2009年度並の投資を維持しています。

具体的な内容については、省エネルギー・CO₂排出削減、公害対策(水質)、産業廃棄物リサイクル対策などを実施しました。

また、環境保全にともなう経済効果は省資源・省エネルギーを含め約21億円でした。

環境会計の推移



環境保全コスト・環境保全効果

対象期間: 平成22年4月1日～平成23年3月31日

単位: 百万円

※PRTR対象物質が増加したことによる

環境保全コスト				環境保全効果		
分類	主な取組の内容	投資額	費用額	項目	2010年度	2009年度
1-1 公害防止コスト	生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)	3,717	17,228			
	大気放出 VOC対策、臭気対策、排水	676	14,994	PRTR物質排出量(t)※	1,749	693
				有害大気汚染物質排出量(t)	64	56
				VOC排出量(t)	2,171	2,332
				NOx排出量(t)	3,049	2,976
				SOx排出量(t)	527	709

1		汚泥削減など			ばいじん排出量(t)	106	151
		COD総量(t)			1,229	1,157	
		全窒素総量(t)			1,312	1,197	
		全燐総量(t)			31	27	
	1-2 地球環境保全コスト	省エネルギー設備	1,841	255	CO ₂ 排出量(千t)	4,631	4,648
					上水道水使用量(百万m ³)	1	1
					工業用水使用量(百万m ³)	95	94
					海水使用量(百万m ³)	398	395
					放流水量(百万m ³)	473	465
					排水量(百万m ³)	50	49
	1-3 資源循環コスト	廃プラの再資源化	1,200	1,979	産業廃棄物総排出量(t)	129,485	117,169
					産業廃棄物最終処分量(t)	17,624	18,267
再資源化率(%) (再資源化量/社外排出量)					65.3	62.2	
2	生産・サービス活動に伴って上流又は下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(上・下流コスト)		0	0			
3	管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)	環境マネジメントシステム維持、社員教育ほか		897			
4	研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)	環境保全・負荷抑制に係る製品・プロセスの開発など		3,800			
5	社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)	汚染負担分担金、緑化など		294			
6	環境損傷に関するコスト(環境損傷コスト)	環境汚染の修復など	882	570			
		合計	4,599	22,789			

環境保全対策にともなう経済効果

環境保全対策に伴う経済効果		
分類	効果の内容	効果金額
リサイクルにより得られた収入額	廃棄物の再資源化、リサイクル	540
省エネルギーにより得られた収入額	省エネルギー	2,100
省資源により得られた収入額	原料原単位向上	



「化学」「革新」「夢」の三井化学

環境保全

目標と実績	地球温暖化防止への取り組み	産業廃棄物の削減	PRTR法対象物質
有害大気汚染物質	揮発性有機化合物	環境負荷(NOx、CODなど)	生物多様性
環境会計	INPUT⇒OUTPUTデータ	環境影響評価(エコ効率)	環境苦情への対応

INPUT⇒OUTPUTデータ

三井化学は、事業活動にともなう資源などの利用量および環境負荷量を、インプット・アウトプットとして報告しており、会社の持続的発展に向けて、事業活動での省資源化および環境負荷低減を積極的に推進しています。また、国内外関係会社の資源などの利用量および環境負荷量についても定量評価し、グループとして環境改善に努めています。

INPUT⇒OUTPUTデータ(本体)

INPUT	三井化学(単体)	OUTPUT
エネルギー		製品等
燃料総発熱量(千GJ)		製品出荷量(千t)
81,081		5,717
原材料		大気への排出
購入原料(千t)	7,453	CO ₂ (千t)
購入材料(千t)	35	4,631
水資源		フロン類(t)※
上水道水(百万m ³)	0.7	8
地下水(百万m ³)	1.2	NOx(t)
工業用水(百万m ³)	95	3,049
海水(百万m ³)	398	SOx(t)
		527
		有害大気汚染物質(t)
		63
		非メタンVOC(t)
		2,107
		ばいじん(t)
		106
		産業廃棄物
		排出量(千t)
		129
		外部リサイクル量(千t)
		85
		外部最終処分量(埋立)(千t)
		18
		排水
		COD(t)
		1,229
		全窒素(t)
		1,312
		全リン(t)
		31
		放流水量(百万m ³)
		473

※フロン類：フロン回収・破壊法対象

INPUT⇒OUTPUTデータ(本社工場)

INPUT		鹿島工場	OUTPUT	
エネルギー			製品等	
燃料総発熱量(千GJ)	1,560	製品出荷量(千t)	187	
原材料		大気への排出		
購入原料(千t)	174	CO ₂ (千t)	105	
購入材料(千t)	3	フロン類(t)※	1	
水資源		NOx(t)	63	
上水道水(百万m ³)	0.0	SOx(t)	20	
地下水(百万m ³)	0.5	有害大気汚染物質(t)	5	
工業用水(百万m ³)	4	非メタンVOC(t)	64	
海水(百万m ³)	0	ばいじん(t)	3	
		産業廃棄物		
		排出量(千t)	0.6	
		外部リサイクル量(t)	508	
		外部最終処分量(埋立)(t)	47	
		排水		
		COD(t)	161	
		全窒素(t)	4	
		全リン(t)	1	
		放流水量(百万m ³)	3	

※フロン類：フロン回収・破壊法対象

INPUT		市原工場	OUTPUT	
エネルギー			製品等	
燃料総発熱量(千GJ)	32,265	製品出荷量(千t)	2,408	
原材料		大気への排出		
購入原料(千t)	2,921	CO ₂ (千t)	1,667	
購入材料(千t)	8	フロン類(t)※	1	
水資源		NOx(t)	1,227	
上水道水(百万m ³)	0.0	SOx(t)	241	
地下水(百万m ³)	0.1	有害大気汚染物質(t)	2	
工業用水(百万m ³)	23	非メタンVOC(t)	615	
海水(百万m ³)	297	ばいじん(t)	14	
		産業廃棄物		
		排出量(千t)	10.9	
		外部リサイクル量(t)	10,878	
		外部最終処分量(埋立)(t)	1	
		排水		
		COD(t)	82	
		全窒素(t)	33	
		全リン(t)	2	
		放流水量(百万m ³)	304	

※フロン類：フロン回収・破壊法対象

INPUT		茂原分工場	OUTPUT	
エネルギー			製品等	
燃料総発熱量(千GJ)	878	製品出荷量(千t)	63	
原材料		大気への排出		
購入原料(千t)	57	CO ₂ (千t)	43	
購入材料(千t)	2	フロン類(t)※	0	
水資源		NOx(t)	21	
上水道水(百万m ³)	0.0	SOx(t)	26	
地下水(百万m ³)	0.6	有害大気汚染物質(t)	0	
工業用水(百万m ³)	0.2	非メタンVOC(t)	17	
海水(百万m ³)	0	ばいじん(t)	0	
		産業廃棄物		
		排出量(千t)	2.6	
		外部リサイクル量(t)	2,590	
		外部最終処分量(埋立)(t)	1	
		排水		
		COD(t)	4	
		全窒素(t)	6	
		全リン(t)	3	
		放流水量(百万m ³)	0.6	

※フロン類：フロン回収・破壊法対象

INPUT		名古屋工場	OUTPUT	
エネルギー			製品等	
燃料総発熱量(千GJ)	946	製品出荷量(千t)	68	
原材料		大気への排出		
購入原料(千t)	59	CO ₂ (千t)	50	
購入材料(千t)	2	フロン類(t)※	1	
水資源		NOx(t)	6	
上水道水(百万m ³)	0.0	SOx(t)	0	
地下水(百万m ³)	0.0	有害大気汚染物質(t)	0	
工業用水(百万m ³)	5	非メタンVOC(t)	4	
海水(百万m ³)	0	ばいじん(t)	0	
		産業廃棄物		
		排出量(千t)	7.8	
		外部リサイクル量(t)	5,424	
		外部最終処分量(埋立)(t)	34	
		排水		
		COD(t)	21	
		全窒素(t)	9	
		全リン(t)	1	
		放流水量(百万m ³)	5	

※フロン類：フロン回収・破壊法対象

INPUT		OUTPUT	
エネルギー		製品等	
燃料総発熱量(千GJ)	29,106	製品出荷量(千t)	1,980
原材料		大気への排出	
購入原料(千t)	3,388	CO ₂ (千t)	1,615
購入材料(千t)	1	フロン類(t)※	4
水資源		NOx(t)	921
上水道水(百万m ³)	0.1	SOx(t)	95
地下水(百万m ³)	0.0	有害大気汚染物質(t)	43
工業用水(百万m ³)	18	非メタンVOC(t)	85
海水(百万m ³)	58	ばいじん(t)	31
		産業廃棄物	
		排出量(千t)	15.2
		外部リサイクル量(t)	13,131
		外部最終処分量(埋立)(t)	98
		排水	
		COD(t)	265
		全窒素(t)	592
		全リン(t)	6
		放流水量(百万m ³)	67

大阪工場

※フロン類：フロン回収・破壊法対象

INPUT		OUTPUT	
エネルギー		製品等	
燃料総発熱量(千GJ)	7,787	製品出荷量(千t)	547
原材料		大気への排出	
購入原料(千t)	553	CO ₂ (千t)	549
購入材料(千t)	2	フロン類(t)※	0
水資源		NOx(t)	265
上水道水(百万m ³)	0.1	SOx(t)	129
地下水(百万m ³)	0.0	有害大気汚染物質(t)	5
工業用水(百万m ³)	31	非メタンVOC(t)	761
海水(百万m ³)	43	ばいじん(t)	23
		産業廃棄物	
		排出量(千t)	7.3
		外部リサイクル量(t)	6,440
		外部最終処分量(埋立)(t)	171
		排水	
		COD(t)	339
		全窒素(t)	17
		全リン(t)	7
		放流水量(百万m ³)	69

岩国大竹工場

※フロン類：フロン回収・破壊法対象

INPUT		OUTPUT	
エネルギー		製品等	
燃料総発熱量(千GJ)	146	製品出荷量(千t)	40
原材料		大気への排出	
購入原料(千t)	42	CO ₂ (千t)	10
購入材料(千t)	1	フロン類(t)※	0
水資源		NOx(t)	7
上水道水(百万m ³)	0.0	SOx(t)	6
地下水(百万m ³)	0.0	有害大気汚染物質(t)	0
工業用水(百万m ³)	5	非メタンVOC(t)	21
海水(百万m ³)	0	ばいじん(t)	0
		産業廃棄物	
		排出量(千t)	6.5
		外部リサイクル量(t)	5,099
		外部最終処分量(埋立)(t)	26
		排水	
		COD(t)	14
		全窒素(t)	0
		全リン(t)	0
		放流水量(百万m ³)	5

徳山分工場

※フロン類：フロン回収・破壊法対象

INPUT		OUTPUT	
エネルギー		製品等	
燃料総発熱量(千GJ)	8,315	製品出荷量(千t)	424
原材料		大気への排出	
購入原料(千t)	259	CO ₂ (千t)	577
購入材料(千t)	9	フロン類(t)※	0
水資源		NOx(t)	540
上水道水(百万m ³)	0.4	SOx(t)	10
地下水(百万m ³)	0.0	有害大気汚染物質(t)	8
工業用水(百万m ³)	8	非メタンVOC(t)	540
海水(百万m ³)	0	ばいじん(t)	35
		産業廃棄物	
		排出量(千t)	77.8
		外部リサイクル量(t)	39,937
		外部最終処分量(埋立)(t)	17,245
		排水	
		COD(t)	342
		全窒素(t)	651
		全リン(t)	11
		放流水量(百万m ³)	19

大牟田工場

※フロン類：フロン回収・破壊法対象

INPUT		OUTPUT	
エネルギー		製品等	
燃料総発熱量(千GJ)	78	製品出荷量(千t)	0
原材料		大気への排出	
購入原料(千t)	0	CO ₂ (千t)	15
購入材料(千t)	0	フロン類(t)※	0
水資源		NOx(t)	0
上水道水(百万m ³)	0.1	SOx(t)	0
地下水(百万m ³)	0.0	有害大気汚染物質(t)	0
工業用水(百万m ³)	0	非メタンVOC(t)	0
海水(百万m ³)	0	ばいじん(t)	0
		産業廃棄物	
		排出量(千t)	0.8
		外部リサイクル量(t)	494
		外部最終処分量(埋立)(t)	2
		排水	
		COD(t)	0
		全窒素(t)	1
		全リン(t)	0
		放流水量(百万m ³)	0

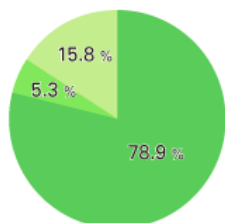
※フロン類：フロン回収・破壊法対象

三井化学グループの INPUT⇒OUTPUTデータ

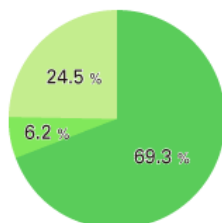
■ 国内製造拠点 ■ 国内関係会社 ■ 海外関係会社

INPUT

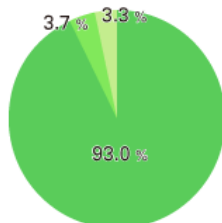
燃料総発熱量 102,755千GJ



原材料 10,801千t

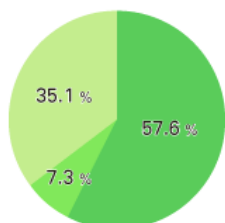


水資源 532百万m³



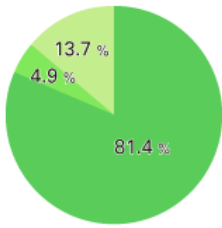
OUTPUT

製品 9,917千t

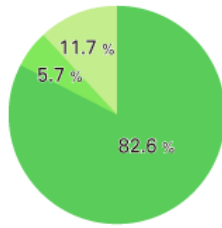


大気

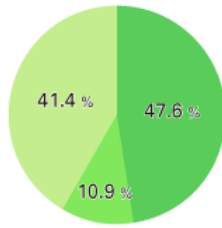
CO₂ 5,684千t



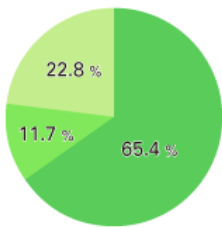
NO_x 3,693 t



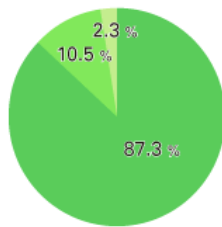
SO_x 1,106 t



ばいじん 162 t

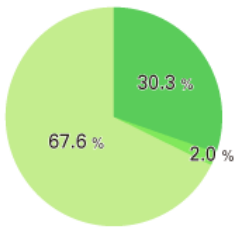


VOC 3,197 t

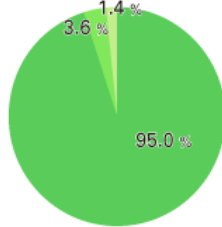


水系

COD 4,051 t

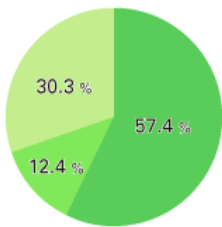


放水量 498百万m³

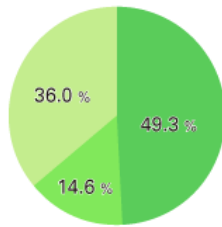


産業廃棄物

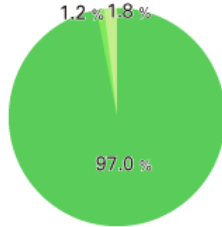
排出量 226千t



リサイクル量 171千t



埋立量 18千t





「化学」「革新」「夢」の三井化学

事業活動と環境負荷

目標と実績	地球温暖化防止への取り組み	産業廃棄物の削減	PRTR法対象物質
有害大気汚染物質	揮発性有機化合物	環境負荷(NOx、CODなど)	生物多様性
環境会計	INPUT⇒OUTPUTデータ	環境影響評価(エコ効率)	環境苦情への対応

環境影響評価(エコ効率)

三井化学は、事業活動にともなう環境負荷と経済活動との関係を「エコ効率(環境効率)」で評価し、社会と企業の持続的な発展に取り組んでいます。

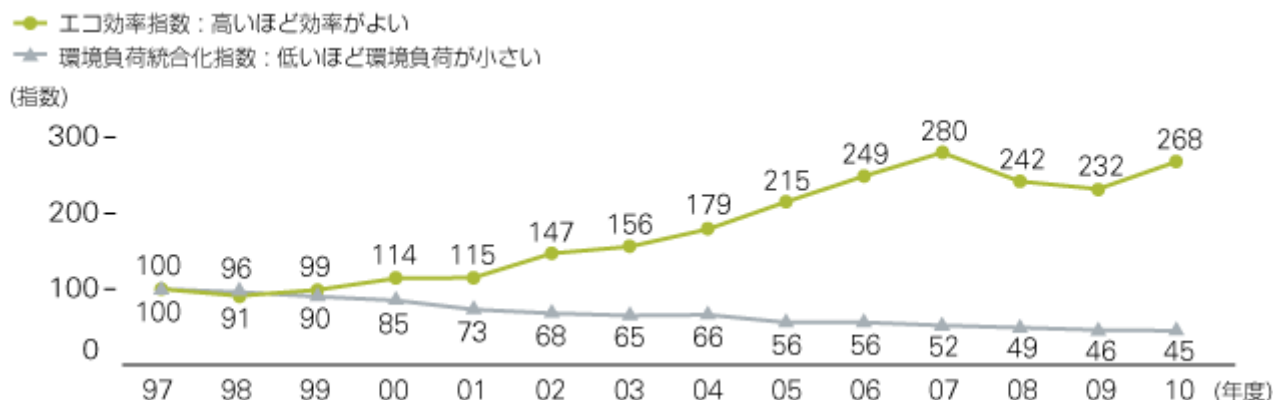
「エコ効率」とは、地球サミット(1992年)において提唱された環境保全と経済を考慮した統合指標で、製品またはサービスの提供といった経済活動にどれだけ環境負荷を与えたかを測る指標です。

「エコ効率」は次の式で表すことができ、当社では「環境負荷統合化数」の算出に、化学産業や日本の環境に適した早稲田大学 永田教授のパネル法を参考にした重み付け係数を用いています。

$$\text{エコ効率} = \frac{\text{売上高}}{\text{環境負荷統合化数(排出物、廃棄物など)}}$$

2010年度は、2008年度に起きた未曾有の経済危機の影響から脱したため、事業環境が回復、売上高が向上しました。これにより、環境負荷統合化指数は45、エコ効率指数は268となり、2009年度より改善となりました。

エコ効率指数と環境負荷統合化指数の推移



エコ効率指数の算出

個別項目	統合化係数	1997年		2010年	
		実数(t)	統合化数(*10 ³)	実数(t)	統合化数(*10 ³)
CO ₂	1	6,632,875	6,633	4,631,000	4,648

NOx	805	4,203	3,384	3,049	2,454
SOx	856	1,079	924	527	451
優先取り組み物質	478	648	310	64	31
非メタンVOC	239	20,478	4,894	2,107	504
ばいじん	321	381	122	106	34
COD	600	2,537	1,522	1,229	737
窒素	600	5,608	3,365	1,312	787
リン	600	73	44	31	19
廃棄物	3	75,341	234	17,622	55
統合化数合計(A)			21,430		9,703
三井化学単独売上高(億円)(B)			7,063		8,579
環境効率指標(B) / (A) * 10 ⁻⁶			330		884
エコ効率指数			100		268

* 統合化係数は、早稲田大学永田教授のパネル法に基づいて、LCA専門家、環境専門家、企業専門家がそれぞれ算出した日本の統合化係数を平均し、CO₂を1として換算したものです。

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

環境保全

目標と実績 地球温暖化防止への取り組み 産業廃棄物の削減 PRTR法対象物質

有害大気汚染物質 揮発性有機化合物 環境負荷(NOx、CODなど) 生物多様性

環境会計 INPUT⇒OUTPUTデータ 環境影響評価(エコ効率) 環境苦情への対応

環境苦情への対応

環境苦情につきましては、近隣住民の皆様方にお詫び、話し合いを行い、事情をご理解いただきました。
工場においては、その内容を詳細に把握し、迅速かつ適切に対応しました。

環境苦情への対応

工場名	内容	対応
市原	フレアーより黒煙発生	発生職場及びフレアー管理部署が、直ちに黒煙発生抑制操作を実施

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

化学物質マネジメント

目標と実績 化学品・製品の安全性の確保

三井化学は、“2020年までに化学物質の人や環境への悪影響を最小化する”という、持続可能な開発に関する世界首脳会議(通称WSSD)での合意に基づき、より確実に化学物質管理を推進しています。

目標と実績

2010年度の目標

- 化学物質マネジメント体制の構築
- REACH本登録の確実な実行

2010年度の実績と評価

達成度A

- 持続可能な開発に関する世界首脳会議(WSSD)の2020年目標の達成に向けた長期行動計画を織り込み、化学物質マネジメント戦略の中期経営計画を策定
- 「化学品安全」の管理体制から、化学物質を総合的に管理する「化学物質マネジメント体制」へのステップアップをはかるため、全社横断的な活動を開始
- REACH本登録においては、10年度登録予定物質全ての登録を完了

2011年度の課題

- 化学物質マネジメント体制の推進
具体的には、
製品、化学物質のリスクアセスメントの実施
環境影響評価の手法導入と評価の実施
製品、化学物質に関わる情報を一元的に管理する仕組みの構築

※ 自己評価による達成度:A 95%以上、B 70%以上95%未満、C 70%未満

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の三井化学

化学物質マネジメント

目標と実績 化学品・製品の安全性の確保

化学品・製品の安全性の確保

2010年度は、化学物質管理の実践に向け「化学物質マネジメント戦略」を策定しました。

2011年度は、「化学物質マネジメント戦略」にもとづき、優先順位の高い製品からリスク評価を実践し、その結果にもとづいてお客様には適切な情報を発信します。また、製品の環境影響を多面的に評価し、製品の環境へのやさしさの「見える化」を推進するためにライフサイクルアセスメント(LCA)の考え方・手法を活用していきます。

新化学品規制に適應した新たな化学物質管理の取り組み

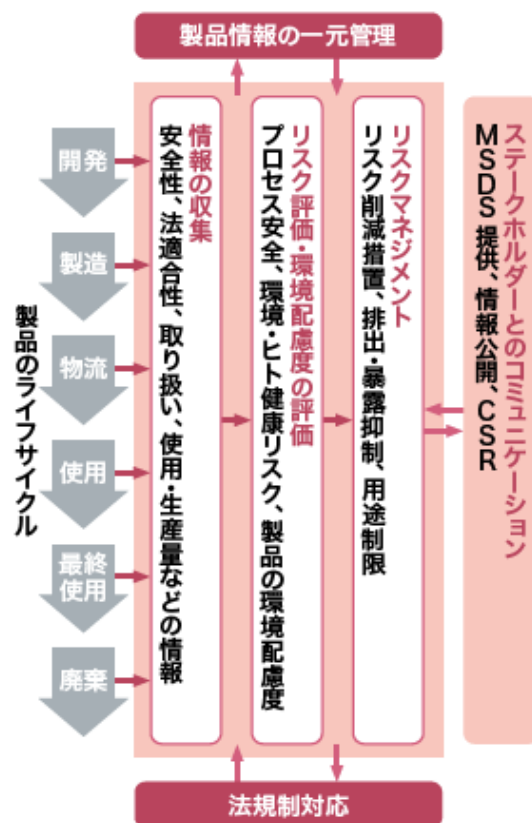
当社が目指す化学物質管理は、“製品ライフサイクル”、すなわち製造から廃棄までを通して、製品のリスクを適切に管理するもので、お客様に当社製品をより安全に使用していただくための適切な情報を提供するものです。

このような化学物質管理、情報提供を確実に実行していくため、当社は、製品・化学物質に関わるすべての情報を一元的に管理できる仕組みを構築する予定です。また、サプライチェーン全体での製品情報の共有化、ステークホルダーとの相互理解を図るためJAMP*などの効率的な情報伝達の仕組みづくりにも、積極的に取り組んでいきます。

当社は、このような活動を通して、持続可能な社会への貢献を目指します。

* JAMP:アーティクルマネジメント推進協議会。素材、部品、組立製品など複数の産業界が共同で推進する、化学物質情報管理推進プロジェクト

三井化学の目指す化学物質総合管理





「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

品質

目標と実績 品質向上への取り組み

三井化学グループは、「環境、安全、労働衛生及び品質に関する基本方針」に基づき、品質マネジメントを継続的に改善するとともに、製品・サービスの品質向上によって、お客様満足のさらなる向上に努めています。

目標と実績

2010年度の目標

- 顧客の要望に迅速に応えられるように、構築した仕組みの維持と活用

2010年度の実績と評価

達成度A

- 製品含有化学物質の情報に関するデータベースの整備と、それをを用いた顧客の調査依頼への対応

2011年度の課題

- 製品含有化学物質に関わる顧客対応の仕組みの改善
- 苦情の再発防止と未然防止活動の確実な実行

※ 自己評価による達成度:A 95%以上、B 70%以上95%未満、C 70%未満

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の三井化学

品質

目標と実績 品質向上への取り組み

品質向上への取り組み

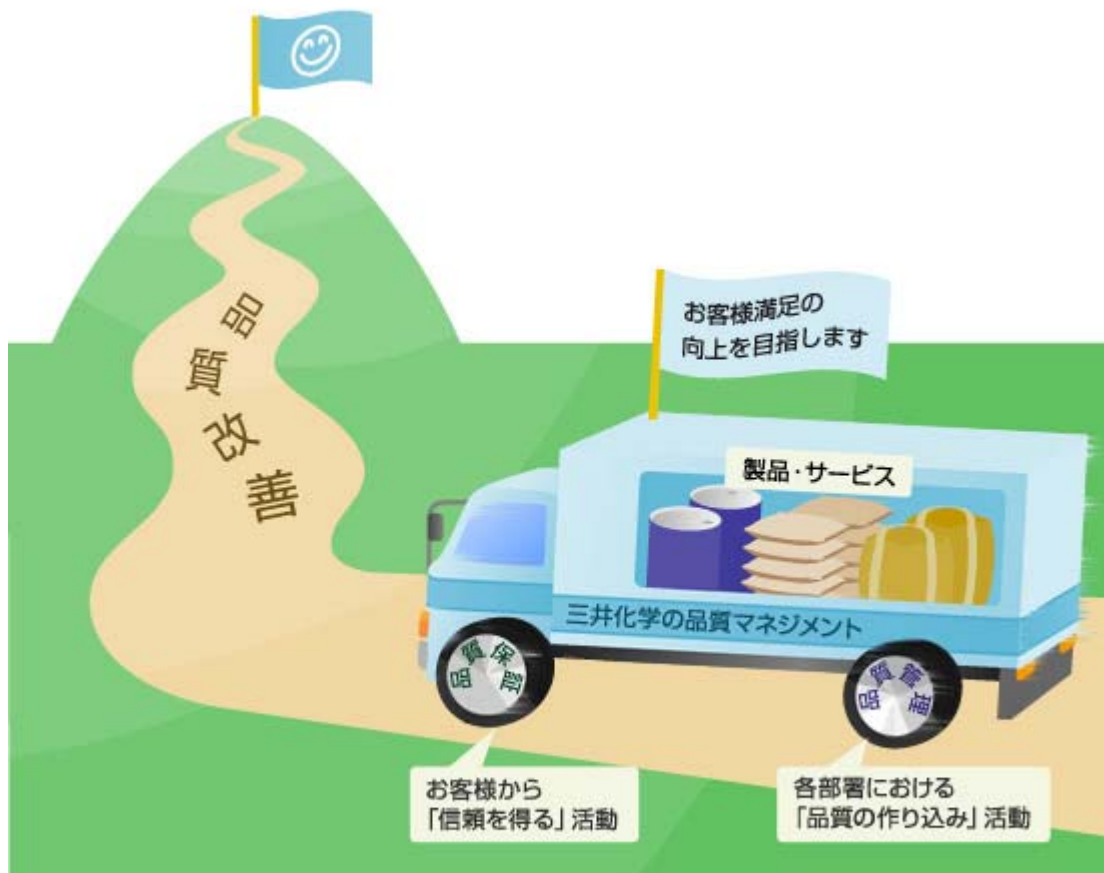
品質マネジメントの仕組み

三井化学グループは、「品質の作り込み活動」と「お客様から信頼を得る活動」を品質マネジメントの両輪として、お客様満足のさらなる向上に努めています。

「品質の作り込み活動」は、製造のみならず、購買、設計、物流、営業などの各部署が、いつも同じ“モノ”ができるよう、ばらつきの最小化を目指した活動を行っています。

「お客様から信頼を得る活動」は、営業部門、製造部門から独立した品質保証部門が主体となって、お客様の問題が解決できるよう、お客様の視点に立った活動を行っています。

品質マネジメントの仕組み



参考：JIS Q 9000 (品質マネジメントシステム-基本及び用語) の定義

品質保証：品質要求事項が満たされるという確信を与えることに焦点を合わせた品質マネジメントの一部

品質管理：品質要求事項を満たすことに焦点を合わせた品質マネジメントの一部

品質マネジメントレベルの向上

海外を含め当社グループ各部署への監査により、改善のための指導に注力しています。この活動によって、各部署の品質マネジメントのレベルを定量的に評価し、よりいっそうの向上を図るとともに、各部署への牽制を行っています。
また、品質マネジメント全般の教育および品質管理手法に関する教育を行い、品質マネジメントレベルの向上を図っています。
さらに2010年度は、全国的に毎年行われる運動である「品質月間」に合わせて、お客様をお招きして講演会を各工場で開催するなど、現場の品質意識の高揚に取り組みました。

■ お客様からの声への取り組み

お客様からいただいた当社製品・サービスに対する不満の声については、関係部署との協力態勢により、迅速な対応、原因の究明と対策を行っています。また、究明した原因と対策を当社グループ全体へ水平展開し、類似事例の発生防止に努めています。
また2010年度は、苦情を教材とした現場での未然防止活動を試行しました。教材にさらなる改善を加え、もう一步踏み込んだ現場活動を2011年度より推進する予定です。
さらに、製品含有化学物質に関するお客様からのお問い合わせに対して、原材料および製品に関わる含有化学物質のデータベースをもとに迅速に対応する態勢を構築し、運用を開始しました。

■ 現場での品質活動 ～大阪工場での取り組み～

大阪工場は大阪市の南方約20kmの、日本でも有数の工業地帯である堺泉北臨海工業地区に位置しています。大消費地である関西圏にあり、関西空港、大阪港、神戸港にも近く、アジアはじめ海外への物流にも恵まれた立地です。
このような利点を活かし、プロピレンおよびその誘導体を軸とする石油化学、基礎化学品製品や高付加価値製品を製造しています。また、10万トン級のタンカーも接岸できる大型栈橋を持ち、製品出荷、原料受入のおよそ半分を船で行っています。
工場を安全・安定に操業するには、日頃の活動をしっかり管理する仕組みが必要です。保安管理システム、環境マネジメントシステム、労働安全衛生マネジメントシステムおよび品質マネジメントシステムを運用し、PDCAを確実に回しています。
当工場の品質管理・品質保証活動は、サプライチェーン全体にわたって、品質のばらつきが少なく、お客様から信頼を得る活動を推進すると同時に、情報の共有化とスピード・正確さを求めながら、現場の品質マネジメント力の強化に向けて取り組んでいます。また、お客様を当工場に招いて品質講演会を開催し、直接お客様の声を伺い、第一線作業者の品質意識高揚ならびに製品品質の向上につながるよう取り組んでいます。
これからも、お客様第一の観点で、問題の本質を見極めながら、工場全体の変革につながるよう、社員全員参加の品質活動を目指していきます。

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

物流

目標と実績 製品の安全な輸送

三井化学グループは、製品の安全な輸送を確保するために、様々な取り組みを行っています。

目標と実績

2010年度の目標

- 物流安全品質のさらなる向上

2010年度の実績と評価

達成度A

- 重大事故 0件(2011年6月20日現在)
- 苦情発生件数 10件(2011年6月20日現在)
- 苦情発生原価 3百万円(2011年6月20日現在)

2011年度の課題

- 物流安全品質のさらなる向上(継続)

※ 自己評価による達成度:A 95%以上、B 70%以上95%未満、C 70%未満

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

物流

目標と実績 製品の安全な輸送

製品の安全な輸送

物流協力会社との対話

三井化学グループでは、物流協力会社と一体になった安全活動を行っています。

各工場物流担当部署は、物流協力会社とおおむね月に1回物流協議会を開催し、物流事故などの情報の共有化、“ヒヤリハット*1”の事例検討、現場パトロールや教育を行い、コミュニケーションを図っています。また、「三現主義」に基づいて、物流協力会社のRC監査、現場作業者との安全対話を実施し、物流事故の未然防止に努めています。

*1 ヒヤリハット: 重大な災害や事故には至らないものの、ヒヤリとしたり、ハツとした事例のこと。

* 三現主義: 現場・現物・現実に基づいて種々の対応を図ること。

MSDS・イエローカードによる安全対策

当社グループ製品は、高圧ガス、危険物、毒劇物など法で定められた化学物質が多いため、製品の安全輸送に万全の注意を払っています。

物流を委託する物流協力会社に対しては、取り扱い・保管上の注意(危険性、有害性など)に関する情報を提供するため、製品安全データシート(MSDS*2)を提供しています。また、輸送時には、事故発生時にとるべき措置や通報内容を記載したイエローカードの携行を義務付けています。

*2 MSDS: Material Safety Data Sheetの略。



イエロ

ーカード

事故・労働災害の根絶に向けた活動

物流業務の中には多くの高所作業があります。一例としてローリー充填作業においては3m以上の高所で作業をする必要があります。乗務員の安全確保のため、転落防止の安全帯使用を推進しています。また、熱傷・薬傷防止のため、保護具の着用を義務付けています。

安全基本ルール「1.バック時、よく見えなければ『降車』して安全確認 2.停車は、必ずサイドブレーキを二度引いて『輪止め』で歯止め 3.発車前には、必ず『ひと回り点検』」を周知徹底しています。また、全国キャンペーンを実施して物流事故の削減・撲滅に努めています。

事故発生時の拡大防止

当社グループでは、製品輸送中に事故が発生した場合に、その被害を最小限に抑えるため、「三井化学グループ構外物流事故・緊急連絡網および応援体制」(MENET)に関する規則を定めています。MENETでは国内を6地区に分け、24時間出動できる体制を整えています。

また、年に2回、緊急通報・出動訓練を行っています。

MENET応援基地





「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

RC推進体制

目標と実績 RCマネジメントシステム RC推進体制 レスポンシブル・ケア方針 RC監査

三井化学グループは、株主の皆様、お客様、地域の方々などステークホルダーの信頼を確保し、企業の社会的責任を全うするため、コーポレート・ガバナンスの充実を経営上の重要な基盤と考えています。

目標と実績

2010年度の目標

- 化学品の安全管理および、環境安全に関する法令遵守の徹底

2010年度の実績と評価

達成度A

- 化学品の安全管理および、環境安全に関する重大な法令違反件数 0件

2011年度の課題

- 化学品の安全管理および、環境安全に関する法令遵守監査をより効果的に実施継続

※ 自己評価による達成度:A 95%以上、B 70%以上95%未満、C 70%未満

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の三井化学

RC推進体制

目標と実績 RCマネジメントシステム RC推進体制 レスポンシブル・ケア方針 RC監査

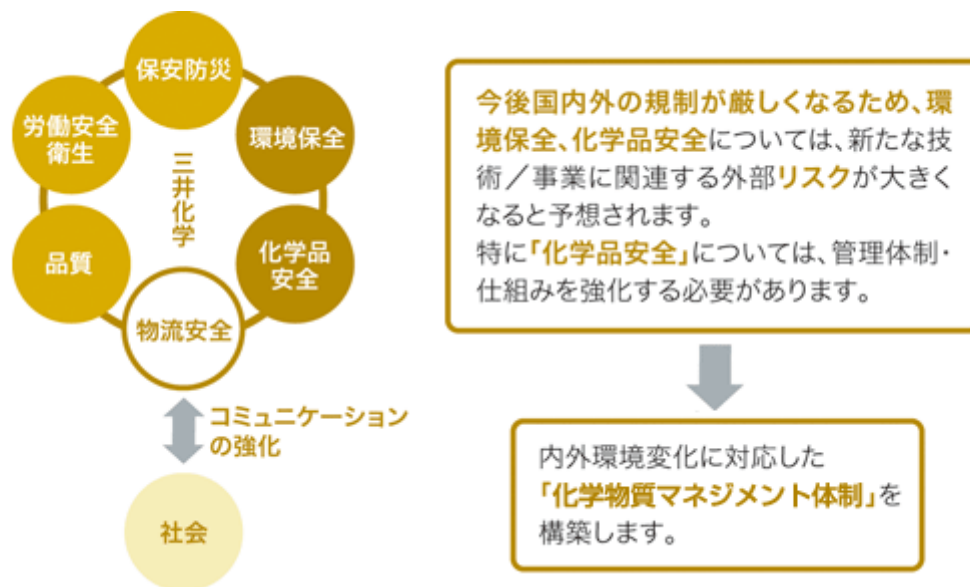
RCマネジメントシステム

三井化学グループは、RCを経営管理のひとつの柱に位置付け、環境保全、保安防災、労働安全・衛生、化学品安全、品質、物流安全および社会とのコミュニケーションの各分野で推進しています。

これまでは、環境保全、保安防災、労働安全、品質を重視し対応してきましたが、環境保全、化学品安全については、今後国内外の規制が厳しくなる傾向にあり、新たな技術・事業に関連する外部リスクが大きくなることが考えられます。特に、「化学品安全」の管理体制・仕組みを強化する必要があります。

そこで、2010年度より、「化学品安全」の枠を超えた「化学物質マネジメント体制」の構築に取り組んでいます。

RCマネジメントシステムと社会との関わり



© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

RC推進体制

目標と実績 RCマネジメントシステム RC推進体制 レスポンシブル・ケア方針 RC監査

RC推進体制

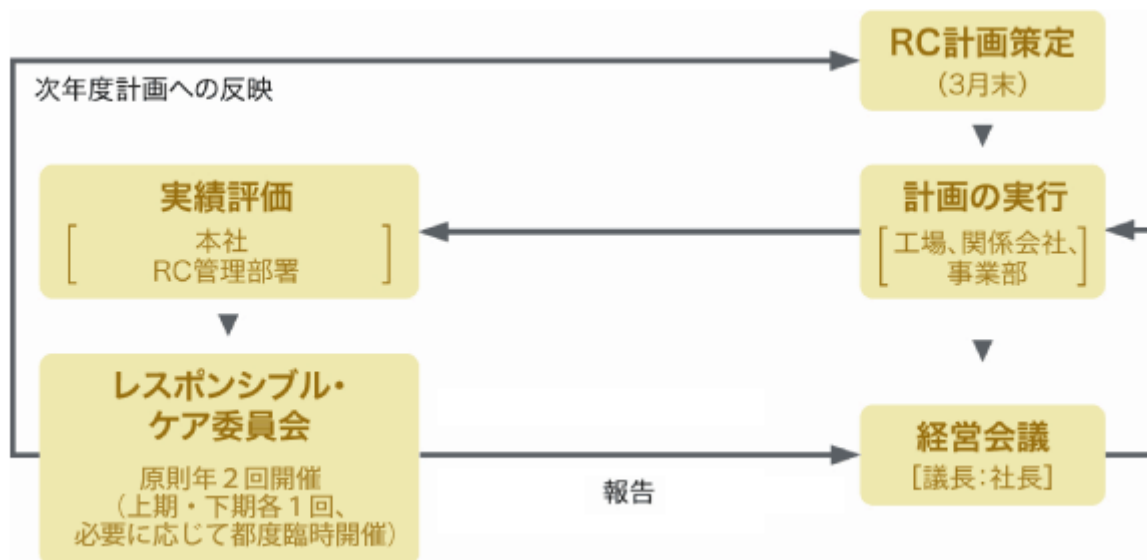
レスポンシブル・ケア委員会(RC委員会)が中心となり、RC活動に関する方針・戦略・計画の立案、実績評価、RCシステムの見直しなどを原則年2回行っています(上期、下期各1回、必要に応じて都度臨時開催)。さらに都度その討議内容を経営会議へ報告することで、経営トップのRCへの関与を深め、風通しのよい管理体制をとっています。

RC委員会の構成は次のとおりです。

- 委員長:レスポンシブル・ケア委員会担当取締役
- 副委員長:生産・技術本部長
- 常任委員:各事業本部管理部長、レスポンシブル・ケア部長、生産安全・環境部長、品質保証部長、物流部長、CSR推進部長 ほか

具体的なRC活動は、各部門のRC推進責任者(各本部長)が中心となって工場、関係会社、事業部で推進しています。

レスポンシブル・ケア活動の運営スキーム



© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.

「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

RC推進体制

目標と実績 RCマネジメントシステム RC推進体制 レスポンシブル・ケア方針 RC監査

レスポンシブル・ケア方針

三井化学グループは、経営会議の審議を経て決定された「環境、安全、労働衛生及び品質に関する基本方針」に基づき実施するレスポンシブル・ケア(以下「RC」という)に関し、基本的事項を定めています。その取り組みを通じて社会の信頼を確保し、事業活動の円滑な推進に努めています。

RCとは、化学物質を製造し、または取り扱う企業が、自己決定・自己責任の原則に基づき、化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ライフサイクルにわたって、環境、安全(保安防災、労働安全、化学品安全、物流安全)、労働衛生および品質を確保することを基本方針として公約し、環境、安全、労働衛生および品質に関する対策を実行し改善を図る自主管理活動です。

RCの詳細は、レスポンシブル・ケア協議会のホームページをご覧ください。

[日本レスポンシブル・ケア協議会](#)

環境・安全・労働衛生及び品質に関する基本方針

三井化学グループは、「地球環境との調和の中で、材料・物質の革新と創出を通して高品質の製品とサービスを顧客に提供し、もって広く社会に貢献する。」との企業理念のもとに事業活動を展開していきます。

そのためには、三井化学グループ行動指針を踏まえ、お客様重視とともに、法令・ルールへの遵守、環境の保全と安全の確保が経営の基盤であるとの認識にたち、「環境」、「安全(保安防災、化学品安全、労働安全)」、「労働衛生」および「品質」について、以下の基本方針で取り組みます。

1.環境

- 新しい技術・製品の開発により環境保全に貢献します。
- 製品の開発から廃棄までの全ライフサイクルにわたる環境負荷について、その影響を評価し、低減に努めます。

2.安全、労働衛生

- 安全確保を最優先とし、無事故・無災害を目指します。
- 適正な職場環境の形成の促進及び社員の自主的な健康確保の支援をはかります。
- 化学物質の取り扱いに関する安全を確保し、社員はもとより、工事及び物流関係者、お客様等関係する人々の健康障害の防止をはかります。

3.品質

- お客様が、その用途について安心して使用し、満足し、信頼する品質の製品とサービスを提供します。

4.自主管理の推進

- 関係法令や規制を遵守することはもとより、レスポンシブル・ケアの精神に則り自主管理する環境、安全、労働衛生及び品質の継続的改善に努めます。

1997年10月1日制定
2006年 4月1日改正

工場RC方針

三井化学の「環境、安全、労働衛生及び品質に関する基本方針」を受けて、各工場では次のとおりレスポンシブル・ケア方針を策定しています。

[鹿島工場](#)

[市原工場\(茂原分工場を含む\)](#)

[名古屋工場](#)

[大阪工場](#)

[岩国大竹工場](#)

[徳山分工場](#)

[大牟田工場](#)



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

RC推進体制

目標と実績 RCマネジメントシステム RC推進体制 レスポンシブル・ケア方針 RC監査

RC監査

当社グループは、RC活動のPDCAサイクルを確実に回し、活動のレベルアップを図っています。国内製造拠点、研究所および国内外関係会社に対して、RC活動が着実に実行されていることを客観的に評価し指導するために、RC監査を毎年行っています。RC監査はレスポンシブル・ケア部、品質保証部、人事部の部長および担当専門スタッフが、年間計画の重点課題達成状況や前年度RC監査における指摘事項のフォローアップ状況を中心に、環境・安全・労働衛生・品質について監査を実施しています。

国内外のRC支援対象会社に対しては、関係会社の所管事業部とレスポンシブル・ケア部、品質保証部の協働で、環境安全衛生管理点検チェックリストによる評価、関係書類および現場の確認を行い、RC活動の実態把握・指導を行うとともに、全社的な見地からRC活動のレベルアップを図っています。監査頻度および監査ポイントは関係会社の環境安全衛生管理レベル、労災度数率、工場の業態などを考慮し、より効果的な監査になるように努めています。

2010年度は、国内製造拠点6工場および分工場と研究所、国内外37社(44事業所)の関係会社のRC監査を行い、RC活動レベルの向上を図るとともに、重要な法規則の違反がなかったことを確認しました。

事業所の法令遵守監査

当社では、役員、社員一人ひとりが三井化学グループ行動指針の中で「法令・ルールの遵守」を掲げて日々行動するとともに、全社重要課題として法令遵守に積極的に取り組んでいます。

法令遵守の徹底を図るべく、工場に監査専門部署である検査管理部または安全・環境部監査グループを設置し、工場運営に重要な関係法令(高圧ガス保安法、消防法、毒物及び劇物取締法など)に関わる監査を実施しています。また、検査管理組織による高圧ガス認定の検査管理監査を実施し、自主保安の推進に努めています。

三井化学本社としては、グループ全体を横断的に監査する専門部署である監査グループをレスポンシブル・ケア部に設置し、次の監査を実施しています。

1. 国内製造拠点、研究所に対する高圧ガス保安法、消防法、毒物及び劇物取締法、労働安全衛生法、水質汚濁防止法、大気汚染防止法など7法令に係る法令遵守状況の監査
2. 高圧ガス保安法に係る認定を取得している国内製造拠点等に対する、認定保安検査や認定完成検査に関する監査
3. 国内製造拠点、研究所、国内外関係会社に対するRC活動状況の監査

2010年度の実績としては、

1. 国内製造拠点6工場および分工場並びに研究所に対して、法令遵守状況の監査を各1回実施し、重要な法規則に違反するものがないことを確認しました。
2. 認定4工場に対して、高圧ガス認定の検査管理監査を各1~2回実施し、高圧ガス保安法に違反する事例や検査の不備がないことを確認しました。
3. 国内製造拠点6工場および分工場並びに研究所、国内外関係会社37社(44事業所)に対し環境安全監査を、国内製造拠点6工場、16事業部、国内外関係会社23社(25事業所)に対し品質監査を実施し、RC活動レベルの向上に努めました。

2009年度より実施している化学品の安全管理に関する法令遵守状況の監査は、2010年度には16事業部、3支店、8研究部署と、国内関係会社8社(10事業所)に対して実施し、重要な法規則に違反するものがないことを確認しました。

関係会社の国際認証取得状況および2010年度RC監査実績

国	会社名	認証取得状況	2010年度RC監査	
			■ 現地監査実施	□ 書類監査のみ

		ISO9001	ISO14001	OHSAS 18001	その他	環境安全	品質
日本	下関三井化学	○	○	—		■	■
	北海道三井化学	○	—	—		■	■
	三井化学東セロ(本社)	—	—	—			
	三井化学東セロ(古河工場)	○	○	—		□	
	三井化学東セロ(茨城工場)	○	○	—		□	
	三井化学東セロ(浜松工場)	○	○	—		■	
	三井化学東セロ(勝田工場)	○	○	—		■	
	三井化学東セロ(安城工場)	○	○	—		□	
	ジャパンコンポジット	○	○	—		■	■
	作新工業	○	○	○		■	
	三井化学産資(埼玉事業所)	○	○	—		□	■
	三井化学産資(大竹事業所)	○	○	○			
	東北ポリマー	—	—	—		■	
	サンアロイ	○	—	—		■	
	東北ユーロイド工業	—	—	—		□	
	サンレックス工業	○	○	—		■	■
	プライムポリマー(本社)	—	—	—			■
	エムシー工業(清水工場)	○	○	○		■	■
	エムシー工業(柏原工場)	○	○	—		□	
	三井化学ファイン	—	—	—			
	サンメディカル	○	—	—	ISO13485	□	
	東洋ビューティサプライ	—	—	—	ISO13485	□	
	山本化成	○	○	—		■	■
	日本アルキルアルミ	○	○	○			■
	三井化学アグロ(本社)	—	—	—			■
	三井化学アグロ(船岡工場)	○	—	—		■	■
	三井化学アグロ(新城工場)	○	—	—		□	■
宇都宮化成工業(宇都宮工場)	○	—	—		□	■	
宇都宮化成工業(鳥栖工場)	○	—	—		■	■	
西沖ユーティリティ	○	○	○				
米国	Anderson Development Company	○	○	○		□	
	ESCO COMPANY, LLC	○	SOCMA Chem Stewards	SOCMA Chem Stewards		■	
	Advanced Composites, Inc. Ohio	○	○	○		□	
	Advanced Composites, Inc. Tennessee	○	○	○		■	

	SDC TECHNOLOGIES INC.	—	—	—		□	
	Image Polymers Company, LLC	—	—	—			
	Mitsui Chemicals America, Inc.	—	—	—			
メキシコ	Advanced Composites Mexicana, S.A.de C.V.	○	○	計画中	TS16949	■	
欧州	Sun Alloys Europe GmbH	○	—	—			■
	Mitsui Chemicals Europe GmbH	—	—	—			■
インドネシア	P.T. Cosmo Polyurethane Indonesia	○	○	計画中		□	
	P.T. PETNESIA RESINDO	○	○	○		□	
	P.T. Amoco Mitsui PTA Indonesia	○	○	○		□	
タイ	THAI MITSUI SPECIALTY CHEMICALS CO., LTD.	○	○	○		□	■
	Mitsui Hygiene Materials (Thailand) Co., Ltd.	○	○	○		■	■
	SIAM MITSUI PTA CO., LTD.	○	○	○		□	■
	Thai PET Resin Co., LTD.	○	○	計画中		□	■
	GRAND SIAM COMPOSITES CO., LTD.	○	○	○	TS16949	■	■
マレーシア	Cosmo Scientex (M) Sdn. Bhd.	○	○	○		■	■
シンガポール	MITSUI ELASTOMERS SINGAPORE PTE. LTD.	○	○	○		■	■
	MITSUI PHENOLS SINGAPORE PTE. LTD.	○	○	○		■	■
インド	MITSUI PRIME ADVANCED COMPOSITES India PVT. Ltd.	○	計画中	計画中		■	■
中国	Tianjin Cosmo Polyurethane Co., Ltd. 天津天寰聚氨有限公司	○	○	計画中		■	
	Zhang Jia Gang Free Trade Zone Mitsui Linkupon Advanced Material, Inc. 張家港保稅区三井允拓複合材料有限公司	○	○	—	TS16949	■	
	Mitsui Advanced Composites (Zhongshan) Co., LTD. 三井化学複合塑料(中山)有限公司	○	○	—		□	

「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

Mitsui Chemicals

社会とのコミュニケーション

私たち三井化学グループは、社会の皆様から何を求められているのか、何を期待されているのかなどを踏まえ、ステークホルダーの方々とのコミュニケーションを大切にしていきます。

お客様とともに

人々の快適な生活を支えるため、グループ一丸となってお客様のニーズにお応えします。

[目標と実績](#)
[営業マスター制度](#)

取引先とともに

公正・誠実な購買活動で、取引先とともに持続的発展に努めています。

[目標と実績](#)
[取引に関する方針](#)
[CSR調達](#)

株主とともに

安定的な利益還元を努め、皆様の信頼に応えることを目標としています。

[目標と実績](#)
[株主への情報開示](#)

従業員とともに

従業員が「生きがい・働きがい」を実感できる、最高の環境を提供していきます。

[目標と実績](#)
[人材の登用・活用](#)
[働きやすい職場環境づくり](#)
[社員の健康づくり](#)

産学界とともに

国際シンポジウムの開催、産官学共同研究プロジェクトの推進などを通して、産学界との連携を深めています。

[目標と実績](#)
[国際シンポジウムと「三井化学 触媒科学賞」](#)
[共同研究・プロジェクトの推進](#)

地域社会とともに

開かれた事業所を目指し、様々な取り組みで地域社会との共生に努めています。

[目標と実績](#)
[地域対話](#)
[地域交流](#)
[社会からの表彰](#)

社会貢献活動

三井化学グループでは、「三井化学グループ社会活動方針」に基づいた様々な活動を実施しています。

[目標と実績](#)
[次世代育成](#)
[環境保全](#)
[災害復興支援](#)
[地域貢献／地域交流](#)
[社員の社会貢献活動](#)
[知財教育の支援](#)



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

お客様とともに

目標と実績 営業マスター制度

人々の快適な生活を支えるため、グループ一丸となってお客様のニーズにお応えします。

三井化学グループは、お客様に満足していただける製品とサービスを提供するために、日々お客様との対話をとおして、私たちに求められていること、期待されていることをしっかりと捉え、私たちにできることを考えご提案していきます。

目標と実績

2010年度の「お客様とともに」に掲載しました2010年度の課題「顧客の要望に迅速に応えられるように、構築した仕組みの維持と活用」については、報告の構成が変わったため、「品質」における2010年度の目標として、掲載ページを移動しています。

[品質 目標と実績へ](#)

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

お客様とともに

目標と実績 営業マスター制度

営業マスター制度

社会が大きく変化している中で、お客様のニーズを迅速かつ的確に把握し、ご希望に応じていくというのは決して簡単なことではありません。

三井化学グループでは2010年7月から「他の者の範となる優れた顧客対応を行っている者の行動・姿勢を称える」ことを目的に「営業マスター制度」を導入しました。営業とは単に「モノを売って終わり」ということではなく、お客様の要望や困っていることなどを引き出し、ときには一緒になって問題を解決していくなど、様々な取り組みが重要です。当社グループは、そうした取り組み姿勢がお客様との信頼関係、緊密で友好的な関係を築く基礎であると考えています。営業マスターは、毎年事業部から1～2名を目安に、事業本部長推薦、事業本部担当役員認定によって選出されます。

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

取引先とともに

目標と実績 取引に関する方針 CSR調達

公正・誠実な購買活動で、取引先とともに持続的発展に努めています。

三井化学グループは、すべてのお取引先を当社グループのよきパートナーとして、お互いの持続的発展を目指して公正・誠実な購買活動に努めていきます。

目標と実績

2010年度の目標

- CSR調達アンケートの結果が20点満点中10点未満の取引先へ追跡調査
- 新規取引先へのCSR調達アンケート

2010年度の実績と評価

達成度A

- 10点未満の取引先22社へ再度CSR調達アンケートを依頼し、全社から回収。指導後、10点未満の取引先は14社に減少、そのうち3社は2009年度より改善
- 2010年11月に、新規取引先566社に対しCSR調達アンケートを実施

2011年度の課題

- CSR調達アンケート結果を全取引先へフィードバック
- 10点未満の取引先への改善依頼

※ 自己評価による達成度:A 95%以上、B 70%以上95%未満、C 70%未満

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

取引先とともに

目標と実績 取引に関する方針 CSR調達

取引に関する方針

三井化学グループは、「全てのお取引先は三井化学グループの良きパートナー」であるとの認識のもと、CSR推進に即した購買活動にご協力いただくため、2006年4月に「三井化学グループ購買方針」を制定しました。

[購買方針へ](#)

三井化学グループ購買方針

三井化学グループの購買部門は、グループの企業価値向上に寄与する購買活動を実践する上で、全てのお取引先は三井化学グループにとっての良きパートナーであり、お互いの企業活動の持続的発展を目指して、公正・誠実な取引を行なうことを心がけ、以下の購買方針に基づき購買活動を行ないます。

1.法の遵守

購買活動の実行にあたり、法令・社会規範を遵守します。

2.機会の均等と透明性の確保

国内外のお取引先に広く門戸を開放し、対等な立場で公明正大な取引の機会を提供します。

3.地球環境との調和

地球環境への負荷がより少ない商品・原材料の購買に努めます。

4.CSRの見地からの取引先選定

より良いパートナーシップの構築を目指し、以下の各条件を満たしている企業を優先的に選定致します。

- 法令及び社会規範を遵守していること。
- 人権を尊重し、労働環境に対する配慮を重視していること。
- 環境の保全と安全の確保のための活動に取り組んでいること。
- 経営状態が健全であること。
- 品質・価格・納期等が適正水準であり、その維持・向上に努めていること。

以上

グリーン購入

2008年10月から、新購買システム「PRECS」を全社で導入し、事務用品・OA機器についてグリーン購入を開始しました。本社においての2009年度グリーン購入比率は、75%となりました。

“PRECS”とは、社内公募による命名で、購買(Procurement)業務を行う上で重要な4つのキーワード、厳格(Rigidification)、効率化(Efficiency)、統制(Control)、標準化(Standardization)の頭文字をつなげたものです。



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

取引先とともに

目標と実績 取引に関する方針 CSR調達

CSR調達

CSR調達に関し、当社は以下のとおり展開してきました。

2006年度	「三井化学グループ購買方針」制定
2007年度	購入品の内、原料に対してCSR調達アンケートを実施
2008年度	アンケート結果のフィードバック 残りの全購入品に対してCSR調達アンケートを実施 新購買システム“PRECS” ^{*1} を導入し、事務用品・OA機器のグリーン購入開始
2009年度	アンケート結果のフィードバック
2010年度	新規取引先に対してCSR調達アンケートを実施

*1 PRECS: Procurement(購買)、Rigidification(厳格化)、Efficiency(効率化)、Control(統制)、Standardization(標準化)の頭文字をつなげた名称。社内公募によって命名された。

2010年度CSR調達に関するアンケート概要

「CSR調達に関するアンケート」の20項目は以下のとおりです。

CSRアンケート

1. 経営理念・企業の行動指針等を定めている
2. 法令・ルールを遵守するためのマニュアル・ガイドブック等を定め、従業員に徹底している
3. 違法行為に関する内部通報制度がある
4. 特許権・著作権・商標権等の知的財産権を尊重している
5. 会社情報・個人情報保護に関する規則等を定め、適切に管理している
6. 従業員の採用・配置・育成・評価・処遇について、性別・人種・国籍・年齢・宗教・障害などに基づく差別を行っていない
7. あらゆるハラスメントを禁止し、人権擁護を支持尊重している
8. 児童労働・強制労働を禁止している
9. 環境・安全・労働衛生・品質に関する基本方針を定めている
10. ISO14001等の外部認証を取得している
11. 環境に影響を及ぼす虞のある化学物質について、製品への含有情報を把握している
12. 大気汚染・水質汚濁物質及び産業廃棄物の削減に努めている
13. 労働安全衛生マネジメントシステムの外部認証を取得している
14. 緊急災害・事故発生時の対応マニュアルを作成している
15. 財務情報等株主に必要な情報を正確に外部へ報告している
16. CSR(企業の社会的責任)や環境に関する報告書を作成・公表している
17. 日本版SOX法への対応準備を行なっている
18. 内部監査を行なう機能・組織がある
19. ISO9001等の外部認証を取得している
20. 製品に対する苦情が発生した際の対応マニュアル等を整備している

取引先への改善指導

2011年度は、2010年度に行った新規取引先544社へのアンケート結果の解析内容を、全取引先にフィードバックする予定です。

リスクホットラインの取引先の拡大

2010年7月から内部通報窓口制度(リスクホットライン)を社外にも拡大し、約1,400の取引先に開設案内を行いました。
当社グループ内でコンプライアンス違反の疑いがあるなどの情報を入手された場合は、リスクホットラインにて通報いただけます。

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

株主とともに

目標と実績 株主への情報開示

安定的な利益還元に努め、皆様の信頼に応えることを目標としています。

三井化学グループは、企業価値の持続的向上のため、コーポレート・ガバナンスの充実にに向けた諸施策の実施により経営の透明性を高めるとともに、適時適切な情報発信を行い、株主・投資家の皆様からの信頼にお応えできるよう努めています。

[IR情報へ](#)

目標と実績

2010年度の目標

- 年次報告書を株主の皆様によりわかりやすい内容とするための改善実施
- 招集通知の早期発送(3週間以上前)
- 株主総会での製品・パネル展示、役員による補足説明を継続実施

2010年度の実績と評価

達成度A

- 年次報告書の改善実施(6月、12月)
- 招集通知を早期発送(3週間以上前)、また、株主の皆様により当社を理解いただくため株主総会招集通知に説明資料を添付
- 株主総会での製品・パネル展示、役員による補足説明を継続実施

2011年度の課題

- より多くの株主の皆様に出席いただけるよう、株主総会会場を変更
- 招集通知の早期発送(3週間以上前)
- 株主総会での製品・パネル展示、役員による補足説明を継続実施

※ 自己評価による達成度:A 95%以上、B 70%以上95%未満、C 70%未満

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

株主とともに

目標と実績 株主への情報開示

株主への情報開示

株主総会

当社は、株主総会を株主の皆様と経営者との率直な対話の機会として位置付けています。そこで、三井化学への理解をいっそう深めていただけるよう、株主の皆様からのご質問には、率直かつわかりやすく答えるよう努めています。

2011年6月24日開催の株主総会では、会場ロビーに説明者を配置し、当社グループの製品やCSR活動に関する展示・説明を行うとともに、総会終了後には、同ロビーでの説明に当社役員も参加し、株主の皆様との対話を深めることができました。

アナリスト・投資家向け定期的説明会の開催

年度決算発表(5月)、第2四半期決算発表(11月)の後に、アナリストや機関投資家を対象に、社長による経営概況の説明会を実施しています。また、年度決算発表時および各四半期決算発表時には、アナリストや機関投資家を対象としたネットカンファレンス(電話による説明会)も実施しています。これらの内容は、当社ホームページのIRサイトにて、資料と音声により公開しています。

[IR情報へ](#)

IR情報の発信

決算短信、適時開示資料、有価証券報告書、Annual Report(英語、日本語)、アナリスト・機関投資家向け資料、コーポレート・ガバナンスの状況および株主総会招集通知などのIR情報を、情報開示(プレスリリース)後、速やかにホームページに掲載しています。

なお、当社ホームページのIRサイトは、日興アイ・アール(株)の「2010年度 全上場企業ホームページ充実度ランキング調査」の優秀サイト112社に選ばれました。

利益配分に関する基本方針

当社は、事業の成長・拡大による企業価値の向上を最重点課題として認識するとともに、株主の皆様への利益還元を経営上の重要課題と位置付けています。

利益の配分は、株主の皆様への利益還元および今後の成長・拡大戦略に備えた内部留保の充実などを総合的に勘案します。

配当については、連結配当性向および連結自己資本配当率(DOE)を勘案し、中長期的な視点で連結業績に応じた利益還元および安定的な配当の継続に努めます。具体的には、連結配当性向25%以上、かつ、DOE2%以上を目標とします。

内部留保については、さらなる成長・拡大および目指すべき事業ポートフォリオ実現の加速のための積極的な投融資、革新的な新技術創出のための研究開発などに充当し、業績の向上を図っていきます。

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

従業員とともに

目標と実績 人材の登用・活用 働きやすい職場環境づくり 社員の健康づくり

従業員が「生きがい・働きがい」を実感できる、最高の環境を提供していきます。

三井化学グループは、「従業員の幸福と自己実現」に向けて、従業員が「生きがい・働きがい」を実感できるよう取り組んでいます。労働安全の確保を最優先とし、適正な職場環境の形成と自主的な健康の促進を図っています。

目標と実績

2010年度の目標

- 育児・介護支援制度および各種プログラムに対する社員の理解度向上、継続
- 「ゆとり」創出に向けた時間づくり。「ノー残業・年休取得活動」の浸透に向けた意識改革・業務革新の推進継続
- 包括的疾病预防対策の実行と局所排気装置の計画的改善の継続

2010年度の実績と評価

達成度A

- 育児・介護支援制度などを分かりやすくまとめたハンドブックを更新
- 男性社員の育休取得の定着(男性育休取得者実績/2007年度:0名、2008年度:1名、2009年度:36名、2010年度48名)
- ノー残業・年休取得活動は、事業所単位で推進
- 健康診断有所見率およびメンタルヘルス疾病休業日数の減少
- 局所排気装置の計画的改善は、計画通り進捗

2011年度の目標

- ワーク・ライフ・バランスの意義や重要性について、社員の正しい理解、意識変革を促すための働きかけ実施
- メリハリある働き方を促す「時間づくり」施策のさらなる展開
- 包括的疾病预防対策の実行と局所排気装置の計画的改善の継続

※ 自己評価による達成度:A 95%以上、B 70%以上95%未満、C 70%未満

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

従業員とともに

目標と実績 人材の登用・活用 働きやすい職場環境づくり 社員の健康づくり

人材の登用・活用

人材マネジメント方針に従い、成果を挙げうる人材を積極的に登用し、活用します。

人材マネジメント方針

三井化学グループは、従業員および労働市場に対する姿勢として、「人材マネジメント方針」を制定しています。会社と従業員が互いに刺激しあい、よりよい方向へと高めあえるように、人を大切にすることが重要である、という根本的な価値観に基づいた方針です。

世界各地のグループ会社人事施策の根幹となるものとして、「三井化学グループの持続的成長」と「従業員の幸福と自己実現」の両方の目標へ向けて展開しています。

三井化学グループ人材マネジメント方針

1. 「誠実な行動」に向けて

- 従業員に対し、「行動指針」に定めた「誠実な行動」を求め、そうした行動をとる人を高く評価し、その力が十分発揮できる環境を整備します。
- 事業地区の労働に関するあらゆる法規及びルールを遵守します。
- 従業員の採用・配置・育成・評価・処遇は、性別・人種・国籍・年齢・宗教・障害などに基づく差別をすることなく、ルールを開示し、ルールに則り公正・公平に行います。

2. 「人と社会を大切に」に向けて

- 従業員に対し、「行動指針」に定めた「人と社会を大切に」する行動を求め、そうした行動をとる人を高く評価し、その力が十分発揮できる環境を整備します。
- 従業員の職場における安全と健康を守ります。
- あらゆるハラスメントを許さず、人権擁護を支持し、尊重します。

3. 「夢のあるものづくり」に向けて

- 従業員に対し、「行動指針」に定めた「夢のあるものづくり」に向けた以下の行動を求め、そうした行動をとる人を高く評価し、その力が十分発揮できる環境を整備します。
 - 自らの可能性を信じ、失敗を恐れず、果敢に挑戦する。
 - 感性を豊かにし、たぐいえない新たな価値をつくり出す。
 - 自分の目で確かめ、自ら考え、行動する。
 - グローバルな視点に立ち、世界に通じるプロフェッショナルを目指す。
 - これまで培った経験や技術を伝承し、次世代の人材育成に努める。
 - 活発なコミュニケーションを通じ、一人ひとりの力を組織の力に結集する。

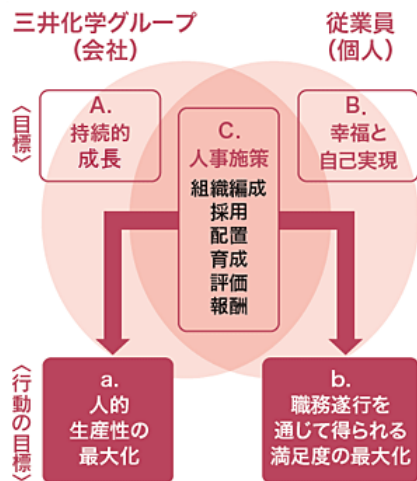
4. 上記各項目に立脚し、次の考え方で人事施策を行います。

	「三井化学グループの持続的成長」 に向けた考え方	「従業員の幸福と自己実現」に向けた考え方
組織編成	戦略に沿った組織を編成し、その実現に最適の職務を編成します。	人材の意欲と能力を活かす職務編成を行います。
採用	企業の成長に貢献し得る人材を採用します。	採用においては、意欲と能力ある人材に等しく機会を与えます。
配置	成果を挙げうる人材を積極的に登用します。	人材が持てる意欲と能力を十分に発揮できるような配置を行います。
育成	世界に通じるプロを長期視点に立って育成します。	世界に通じるプロに向けて自己研鑽することを支援します。
評価	実現した成果を適切に評価します。	公正で意欲と能力の向上に結びつく評価を行います。
報酬	事業コストの点で、十分競争力ある報酬水準を目指します。	意欲と能力ある人材を確保する点で、十分競争力ある報酬水準を目指します。

以上

三井化学グループ人材マネジメント方針

人材マネジメントの視点—会社と個人の関係—



人材育成の考え方

「絶えず革新を追求し、化学のちからで夢をかたちにする企業グループ」を目指す中で、従業員の幸福と自己実現を目指し、他者との対話を通じて自らを高め続けていく人材に対して、最高の環境を提供することが人材育成の基本的な考え方です。三井化学では、世界で活躍できる人材を長期視点に立てて育成します。世界を視野に自己研鑽する社員を支援する多彩な社内外プログラムを整えています。

全社教育体系図



グローバルな人材の育成・確保

当社のグローバル経営を加速するため、本体および海外関係会社における人材の育成・登用の推進を進めています。海外関係会社マネージャーを対象とした研修などの実施だけでなく、国内外社員のローテーションおよび実務研修などを積極的に進めることにより、当社グループ全体として世界で活躍できる人材の獲得・育成に注力し、競争力の確保に取り組んでいます。また、インド産業界人材育成プログラムの訪問受け入れや、当社と関係の深い中国、シンガポール、インドからのインターンシップ生の受け入れ、奨学金プログラム実施など、様々な取り組みをとおして地域への貢献を続けています。今後も地域と連携を深めながら、グローバルな視点での人材育成、確保に注力していきます。



インドからのインターンシップ生

技術・技能の伝承(技術研修センター)

技術研修センター(千葉県茂原市)では、2006年度の開設以来、新入社員を中心に、各階層別の研修をのべ4,500名以上に実施し、当社グループ全体として安全・安定運転の技術伝承、体験に根ざした安全への意識形成に努めてきました。当センターの特徴である体験を重視した研修は、海外のお客様からも高く評価いただき、インド、タイなど多くの国からのべ200名を超えるお客様をお迎えしています。

特集【STORY01 製造の現場】

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の三井化学

従業員とともに

目標と実績

人材の登用・活用

働きやすい職場環境づくり

社員の健康づくり

働きやすい職場環境づくり

社員一人ひとりの環境や暮らしに配慮し、様々なサポートを行っています。

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)推進に向けて

三井化学は、「従業員は企業理念を実現するための重要なステークホルダーである」と考えています。「三井化学グループの持続的成長」と「従業員の幸福と自己実現」をともに実現すべきととらえ、会社、社員がその目的を達成していく過程で相互に刺激し、高め合う関係でありたい、と考えています。

このため短時間勤務措置、介護看護休暇、ベビーシッターや介護サービス利用補助などの育児・介護制度、持家支援制度・余暇支援制度などを充実させ、社員が働きやすい環境を整えてきました。

今後も多様化する社員の価値観を踏まえ、必要な環境整備を進めていきます。

次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画

当社は、次世代育成支援対策推進法に基づき、一般事業主行動計画*を策定し、届出を行っています。行動計画内容は、ホームページ「[両立支援の広場](#)」[📄](#)で公開しています。

* 社員の仕事と子育ての両立を支援するための雇用環境の整備などについて事業主が策定する計画

[一般事業主行動計画\(PDF 108KB\)](#) [📄](#)

[三井化学株式会社行動計画\(PDF 24KB\)](#) [📄](#)

両立支援一覧

休暇・休業への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●介護看護休暇 ●育児休業(男性社員の育休取得奨励を目的に、要件拡大) ●特別休暇 ●介護休業(要件を拡大し、要支援状態でも取得可能に)
勤務時間への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●育児のための短時間勤務措置 ●介護のための短時間勤務措置 ●時間外労働の制限(育児・介護) ●深夜業の制限(育児・介護) ●在宅勤務制度導入(育児・介護対象) ●会社託児所の設置
収入面への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●出産見舞金 ●育児援助金 ●介護援助金 ●ホームヘルパー利用補助金 ●ベビーシッター利用料補助

Staff Comment

我が家には2人の子どもがいます。共働きなので、夫婦で力を合わせて育児を楽しんでいます。仕事の都合によってはベビーシッターの力を借りることもあります。当社は、在宅勤務制度や短時間勤務制度など、子育て中の社員には心強い制度が充実しており、さらにベビーシッターの利用についても料金補助があるため、大変助かっています。

様々な事情や価値観に応じたワーク・ライフ・バランスを実現しやすい環境は、社員が安心して能力を発揮するための土台の一つだと感じています。当社は、子育て・介護支援制度が充実しており、環境は整っていると思います。これからは、自分をはじめとする全社員が、ありがたいワーク・ライフ・バランスとその実現について考えることが大切ではないでしょうか。



コーティング・機能材事業部
宇於崎 浩隆

三井化学保育園「いちほら・夢広場」を開園

育児をしながら働き続ける社員のサポートを目的に、2009年4月、三井化学保育園を千葉県市の市原工場・袖ヶ浦センター近くに開設しました。園児7名でスタート、2009年度末には定員の20名まで利用者が増え、2010年度は定員を25名に増員しました。

南側は全面ガラス張り、床暖房を備えるなど充実した設備、広い園庭に、子どもたちの元気な声が、「いちほら・夢広場」に響きわたっています。



「いちほら・夢広場」での子どもたちの様子

多様な個性・考え方の尊重

当社グループは、多様な個性・考え方を尊重するために、様々な施策を講じています。

多様性(ダイバーシティ)推進の一環として、女性社員の活躍推進、障害者雇用の促進、高齢者の再雇用制度を実施しています。

女性社員の活躍推進では、2006年5月に専任組織「わくわく推進チーム」を設置し、【1】多様性を積極的に生かす風土の醸成、【2】女性のキャリア開発支援、【3】Face to Faceネットワーク構築(社内外人脈づくり)支援、【4】仕事と生活の調和支援、の4項目を柱に活動しています。

障害者雇用では、2004年度以降、7年連続して法定雇用率(1.8%)を達成しました。今後も職場環境の整備に努めながら雇用を推進していきます。

高齢者の再雇用制度は、2006年4月に導入し、高い技術・技能を有する従業員に定年退職後も広く活躍の場を提供し、多様なライフプランに対応しています。

多様性の促進

	2008年度	2009年度	2010年度
女性管理職数	91人	107人	115人
障害者雇用率	1.92%	1.91%	1.84%

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

従業員とともに

目標と実績 人材の登用・活用 働きやすい職場環境づくり 社員の健康づくり

社員の健康づくり

三井化学グループは、産業医や保健師などによる健康管理で社員を支援しています。

「社員の健康は、会社の健康に直結する」との基本理念に基づき、本社と袖ヶ浦センターのほか、全5工場の健康管理室に専属産業医や保健師、衛生管理者を配置しています。また、小規模工場や関係会社の主要工場にも嘱託産業医・看護師などを配置して、グループ社員の健康増進に取り組んでいます。

2010年度も、メンタルヘルス不全・生活習慣病予防、衛生リスクの継続的削減に取り組みました。

労働衛生リスクの低減

労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS18001)の活用、産業医・衛生管理者の職場巡回、労働衛生リスクの低減や職場環境の改善に努めています。

2008年度で改善を要すると判断した局所排気装置は全社で815基あり、2009年度は全体の20%の局所排気装置の改善を実施しました。2010年度は、袖ヶ浦研究センター内全ての改善が終了し、その他の事業所も合わせ、全体の40%が終了しました。今後も2013年度終了を目標に、計画的に改善を進めていく予定です。

健康管理

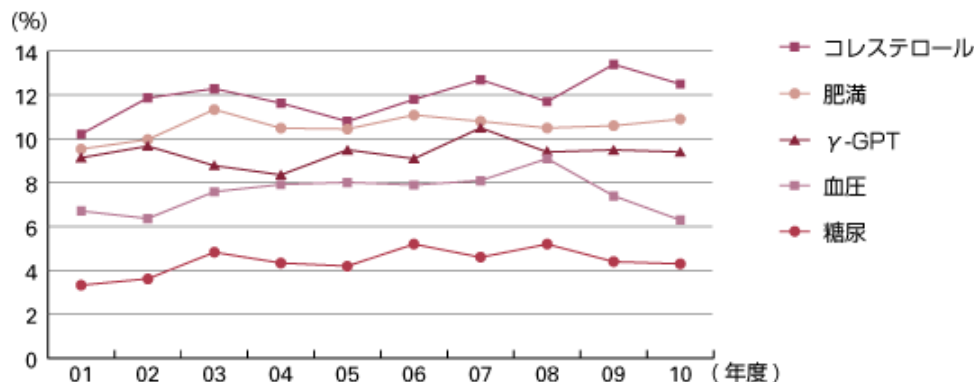
産業医や保健師などが、健康診断や保健指導を通じて健康増進を行っています。2010年度は、健康づくり教室の活性化、ヘルシーマイレージプログラム、社員食堂の改善、保健指導の徹底、内臓脂肪測定を活用したダイエットプログラムなどを実施しました。

定期健康診断に特定健診とがん検診を融合させた総合健診は3年目となりました。特定健診受診率はほぼ100%、特定保健指導(メタボリックシンドロームを対象とした保健指導)の実施率は、2009年度の25%から35%に向上しました。これに合わせて、40歳以上の社員におけるメタボリックシンドロームの比率は減少しました。

健康診断における生活習慣病に関する有所見率は、糖尿病・高血圧・コレステロールで減少しました。がん検診の受診率は約60%で、2009年度より15%上昇しました。この結果、20例の早期がんを発見できました。2011年度も、がん検診の受診率向上を図るとともに、健康診断の判定基準を厳しくして、保健指導を強化する予定です。

新型インフルエンザ対策においては、2008年度よりマスクや消毒薬の備蓄を行い、感染予防対策や、感染者への対応を徹底し、社員の感染率を日本の一般的な感染率の45%程度に抑制することができました。

有所見率の推移



メンタルヘルスケア対策

2010年度も、メンタルヘルスの各種研修(新入社員・管理社員・ライン管理者など対象)、カウンセリング、e-ラーニングなどを継続して実施しました。加えて、新入社員向けのコミュニケーションに関するe-ラーニングも更新して実施しました。

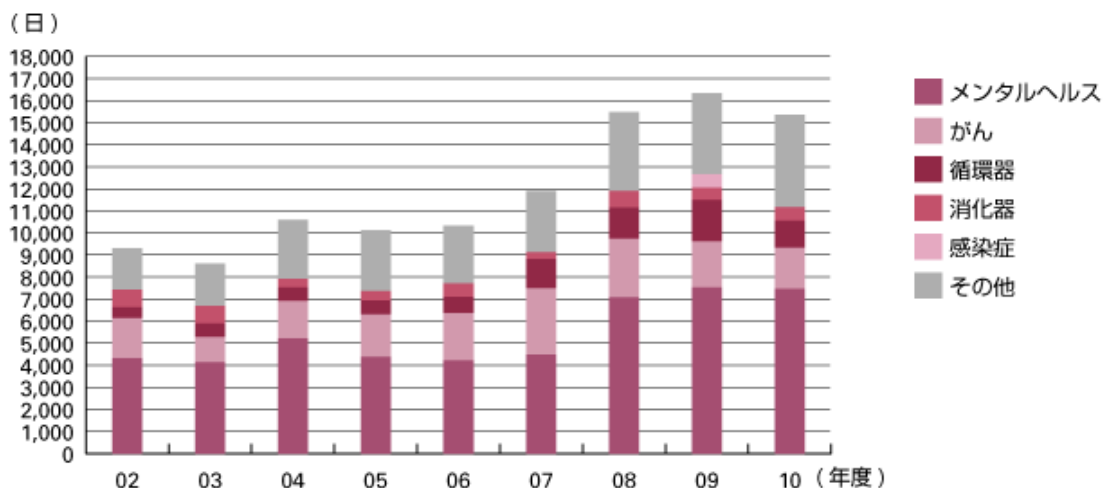
また、これまで行っていた「職場ストレス度調査」を改善し、職場改善の視点がわかる項目を大幅に増やした「職業性ストレス調査+メンタルヘルス風土調査」を4事業所で試行しました。

ほかにも、再発のさらなる抑制を目指してメンタルヘルス不調者のフォローアップを徹底し、さらに一部の事業所では、産業医と職場管理者がストレス自体とストレスが高いと思われる社員の情報を共有して、早期の発見に努めました。

この結果、メンタルヘルスの新規発症および再発は、2009年度に比べ減少しました。また、2008年度下期以降大幅に増加したメンタルヘルス不調に関連する休業日数は、2010年度減少に転じています。

2011年度は、「職業性ストレス調査+メンタルヘルス風土調査」を全社で実施し、職場風土がよいと思われる職場の特徴からグッドプラクティス(好事例)を抽出し水平展開する予定です。また、新入社員向けのメンタルヘルス対策も強化する予定です。

疾病休業の内訳



健康管理のための様々な実施プログラム

当社グループでは、社員の健康管理の一環として健康管理室や健康保険組合が中心となって様々なプログラムを実施しています。

健康づくりイベント開催一覧

内容	参加者数(人)	概要
禁煙トライアル	42	ニコチンパッチを使った禁煙イベント 喫煙者以外の社員も参加できる肺年齢の測定キャンペーン
内臓脂肪測定プログラム	65	最初に内臓脂肪を測定し、1ヵ月半の生活習慣改善後、再度測定
フィットネス教室	729	リフレッシュを目的とした簡単なエクササイズ教室を計14回、 ヨガ教室を4回×3コース実施
新入社員へのメンタルヘルス教育	53	eラーニングで学ぶ新入社員教育
第1回 ウォーキングイベント 「九十九里浜70km」	218	1歩を0.5mに換算し、70km以上(14万歩以上)を16日かけて歩くイベント
第2回 ウォーキングイベント 「日本列島縦断ウォーク」	257	1歩を0.7mに換算し、330km(47万歩以上)を2ヵ月かけて歩くイベント 今後は日本列島を6回にわけて縦断し、ウォーキングするイベントに拡大

率直な対話と相互理解に基づく労使関係

三井化学では「率直な対話と相互理解」を理念として、一体感のある安定した労使関係の構築に努めています。2008年4月には労働協約を更改し、生産性向上、グランドデザインの実現、人材開発といったテーマについて、労使協働で取り組むことを明らかにしました。これからも常に双方向のコミュニケーションを心がけ、社員一人ひとりが生きがい・働きがいを持つための基盤づくりを推進していきます。



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

産学界とともに

目標と実績

国際シンポジウムと「三井化学 触媒科学賞」

共同研究・プロジェクトの推進

国際シンポジウムの開催、産官学共同研究プロジェクトの推進などを通して、産学界との連携を深めています。

三井化学グループは、化学および化学産業の持続的な発展に貢献するため、国際シンポジウムの開催、産官学共同研究プロジェクトの推進などを通して産学界との連携を深め、グローバルなサイエンスネットワークの構築に取り組んでいます。

目標と実績

2010年度の目標

- 「三井化学 第5回触媒科学国際シンポジウム(MICS2011)開催(2011年3月9日～10日)
- 2011年「三井化学 触媒科学賞」の募集、顕彰
- 国内外の研究機関への研究員派遣・共同研究の推進

2010年度の実績と評価

達成度A

- 「三井化学 第5回触媒科学国際シンポジウム(MICS2011)開催(2011年3月9日～10日)
- 2011年「三井化学 触媒科学賞」の募集、顕彰
- 産学共同プロジェクトの推進(バイオコンソーシアムの推進、世界最速プラスチック光ファイバー開発プロジェクトへの参画など)

2011年度の課題

- 国内外の研究機関への研究員派遣・共同研究の推進
- インターンシップの受け入れ

※ 自己評価による達成度:A 95%以上、B 70%以上95%未満、C 70%未満

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の三井化学

産学界とともに

目標と実績 国際シンポジウムと「三井化学 触媒科学賞」 共同研究・プロジェクトの推進

国際シンポジウムの開催などを通して、産業界・学界との連携を深めています。

国際シンポジウムと「三井化学 触媒科学賞」

三井化学グループは、産学界との連携を深め、組織や国の枠を超えてグローバルなサイエンスネットワークを形成することにより、科学技術の共創の場・新たな知の創造の場を提供しています。
その一環として開催している国際シンポジウムは、各分野で先導的な研究者にご講演いただき、世界中の研究者が交流し、討議する場となっています。また、「三井化学 触媒科学賞」を制定し、触媒科学分野で優れた研究業績をあげた大学および公的機関に所属する若手研究者の表彰を行っています。
三井化学は、これらの取り組みを通じて化学および化学産業の持続的発展に貢献していきます。

国際シンポジウムのご案内へ 三井化学 触媒科学賞

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の三井化学

産学界とともに

目標と実績 国際シンポジウムと「三井化学 触媒科学賞」 共同研究・プロジェクトの推進

共同研究・プロジェクトの推進

三井化学グループは、革新的な新技術を創出し早期工業化を実現するため、国内外の研究機関への研究員派遣や、産・官・学との共同研究・共同プロジェクトを推進しています。温暖化防止や化石資源の節約といった、環境・資源・エネルギー分野のプロジェクトのほか、新材料開発の分野でも積極的に取り組んでいます。

三井化学バイオコンソーシアム

非化石資源活用技術の開発に向けて、「三井化学バイオコンソーシアム」と称し、産学連携の研究開発プロジェクトを複数進めています。

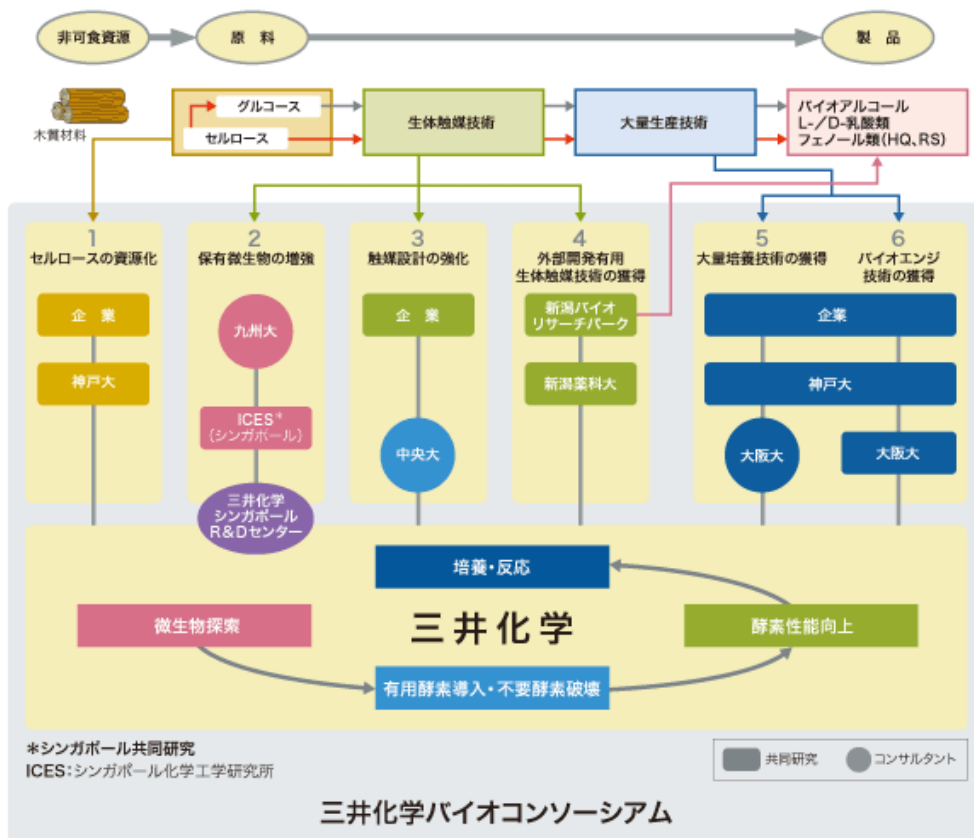
「非化石資源活用技術」は、原油の代わりに木質材料などの非化石かつ食べられない原料(非可食資源)を活用し、バイオプロセスによって乳酸・オレフィン類などのプラスチックの材料や、様々な化学品を生産する技術です。

三井化学は、特定物質の生産に有用な遺伝子を微生物に導入したり、逆に不要な遺伝子を破壊するなど、「遺伝子組み換え技術」を強みとし、目的の有用化学品の製造を可能とする「生体触媒技術」を開発しました。2009年度からは、生体触媒を用いた中規模試験を実施しており、グルコースやセルロースなどを原料として乳酸などの製造技術開発を進めています。

当社の強みと国内外の産学の力を合わせ、環境にやさしく、資源問題の解決と原料転換を同時に達成できるプロセスを開発し、工業化の早期実現を目指します。

STORY 03【研究の現場】 「三井化学シンガポールR&Dセンターの取り組み」へ

バイオ関連産学協同プロジェクト



「グリーン・サステナブルケミカルプロセス基盤技術開発」に参加

当社は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)所管の産官学プロジェクト「グリーン・サステナブルケミカルプロセス基盤技術開発」事業に参加しています。

2009年度から、産官学プロジェクト「触媒を用いる革新的なフッ素分解プロセス基盤技術開発」に参画しており、化学産業からのCO₂排出量の削減を目指し、フッ素から目的生産物を高収率で製造できる革新的な触媒開発を、ほかの民間企業3社と産業技術総合研究所、東京工業大学、北海道大学、横浜国立大学と共同で進めています。

■ 内閣府「最先端研究開発支援プログラム」に参画

当社は、産官学連携の内閣府「最先端研究開発支援プログラム」に参画しています。プログラムの中心研究者である小池康博 慶應義塾大学教授の下、当社は次世代のプラスチック光ファイバーやディスプレイに関するフォトニクスポリマー・コアテクノロジーの研究開発を進めています。

プログラムの中核をなす2つのテーマ「世界高速プラスチック光ファイバーの開発」と「高精細・大画面ディスプレイのためのフォトニクスポリマーの開発」を通じて、最先端技術による素材を世界に提供し、将来的には遠隔地同士がハイビジョンのテレビ電話などでつながり、「Face-to-Faceコミュニケーション」が可能となる社会の実現、10兆円規模のコミュニケーション産業創出の一翼を担うことを目指しています。

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

地域社会とともに

目標と実績 地域対話 地域交流 社会からの表彰

開かれた事業所を目指し、様々な取り組みで地域社会との共生に努めています。

三井化学グループは、開かれた事業所を目指し、各事業所が地域の方々との対話を密にし、子どもたちや環境に対して様々な働きかけを行い、地域との共生に努めています。

目標と実績

2010年度の目標

- 地域意見交換会によるコミュニケーションのいっそうの充実

2010年度の実績と評価

達成度A

- 全工場で周辺住民との意見交換会を実施

2011年度の課題

- 地域意見交換会によるコミュニケーションのいっそうの充実

※ 自己評価による達成度:A 95%以上、B 70%以上95%未満、C 70%未満

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の三井化学

地域社会とともに

目標と実績 地域対話 地域交流 社会からの表彰

地域対話

三井化学グループでは、重要なステークホルダーである近隣住民の方々と、様々なかたちでコミュニケーションの機会を設けています。環境保全や安全の取り組みについて話し合う意見交換会、工場見学、地域自治会との交流や地域行事の参加などにより、双方の理解が深まることを期待しています。

さらに国内製造拠点5工場では、年2回以上広報誌を発行し、近隣住民の方々と広くコミュニケーションできる場をつくっています。

地域コミュニケーションの推進

国内製造拠点5工場では、2010年度も、近隣住民の方々をお招きして意見交換会を開催しました。工場概要、環境保全活動や社会貢献活動等をご紹介した後、活発な意見交換が行われました。

市原工場では、2010年9月25日に近隣地区自治会の皆様をお招きして、工場概要や安全・環境への取り組みのご説明を行いました。工場見学後の意見交換では、貴重なご意見をいただきました。

大牟田工場では、2010年10月6日に近隣5校区にお住まいの皆様および大牟田市環境部、産業振興部や消防本部などの方々総勢約40名が出席して意見交換会を開催しました。工場概要や安全環境の取り組みについてのご説明の後、工場を見学していただきました。皆様からはたくさんの貴重なご意見をいただきました。

国内関係会社においては、工場規模などの実情に合わせて、工場見学、地域行事の参加などコミュニケーションを推進しています。



大牟田工場での意見交換会

広報誌の発行

広報誌には各工場で作っている製品や、環境保全への取り組み状況などを紹介しています。また健康に関するミニ知識の掲載や、化学実験のやり方、クリーンアップ活動を紹介しているところもあります。これらの広報誌に対する地域の方々のご意見やそれに対する回答を掲載し、誌面を通じた双方向のコミュニケーションを目指しています。



各事業所の広報誌



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

地域社会とともに

目標と実績 地域対話 地域交流 社会からの表彰

地域交流

三井化学グループは、地域の一員としての自覚を持って、地域の皆様との交流を積極的に進めています。

「びわ湖の日」清掃活動

関係会社である三井化学アグロ農業化学研究所(滋賀県野洲市)の社員は、2010年7月1日に開催された滋賀県主催の「びわ湖の日」環境美化活動に参加しました。当日は会社周辺の清掃実施後、琵琶湖大橋ゴルフコース周辺や湖周道路周辺の清掃にも参加し、総量約300kgのゴミ収集に協力しました。



清掃活動の様子

地元中高生との交流

関係会社の作新工業社(滋賀県大津市)は、2002年から毎年近隣の中学校、高等学校からの依頼を受け、学生を受け入れています。地元の企業がどのような事業を行っているかを実際の職場体験などを通して理解、実感してもらうために、2010年は、1月に高校生2名、6月に中学生2名を受け入れました。学生からは、「地元企業の技術・技能のすばらしさや、ものづくりに興味を持ち参考になった」との感想をいただきました。



職場体験に参加した学生たち

クリーンアップ活動

2010年で5年目を迎えた海岸清掃活動「クリーンアップin九十九里」。2010年は地引網イベントとの共催で、7月31日に千葉県九十九里浜の一松海岸で開催、過去最高となる200名を越える社員と近隣の方々の参加を得て、約110kgのゴミを回収しました。会場では、九十九里浜で海の安全と自然環境保護に向けて活動するNPO法人日本プロライフガード協会の協力により、浜辺での安全教育やゴミ発生メカニズムについての紹介を行ったほか、子どもたちには貝殻を使った様々な飾りづくりなどを楽しんでもらいました。今後もこのような活動を継続し、環境と自然に対する意識の向上につなげたいと思います。



九十九里海岸での清掃活動



参加者の皆さんと記念撮影

中国安徽省「希望小学校」建設事業に参画

中国の三井化学(上海)は2010年、創立10周年記念活動として三井化学本社と共同で、中国安徽省にある希望小学校の老朽化した校舎の建て替えに資金を寄付しました。また、2010年11月12日の校舎の竣工式には、生徒300名、教員13名にそれぞれ文房具を贈るとともに、勉強用机と椅子を300セット寄贈しました。

国内外関係会社 2010年度の地域交流

	会社	地域交流・社会活動
国内	三井化学アグロ	「びわ湖の日」環境美化活動に参加
	下関三井化学	「下関市ノーマイカーデー」に登録し、エコドライブ宣言
	北海道三井化学	ピンクリボン講演会開催
	ジャパンコンポジット	静岡市主催の園芸市へ自社製プランターを提供
	サンメディカル	滋賀県 県民フォーラム「歯ートフル淡海2010」に協賛
	山本化成	弓削神社(大阪府)夏祭りに自社製氷設備の氷の提供
	東北ポリマー	知的障害者授産施設、生活介護・就労継続支援事業所への一部作業委託
海外	MITSUI CHEMICALS ASIA PACIFIC, Ltd. MITSUI PHENOLS SINGAPORE PTE.. LTD. MITSUI ELASTOMERS SINGAPORE PTE LTD	Hort公園での植樹 Semakau Landfillにて海岸清掃
	P.T. AMOCO MITSUI PTA INDONESIA	中古パソコンを警察署、小中学校に寄付

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の三井化学

地域社会とともに

目標と実績 地域対話 地域交流 社会からの表彰

社会からの表彰

三井化学グループは、国内外において様々な安全活動、環境負荷の低減、他事業の発展への寄与などに取り組んでいます。その活動の成果と実績が認められ、数々の表彰を受けました。

タイのグループ会社であるSiam Mitsui PTA社は、CSR活動が評価され、タイ工業省から「CSR-DIW2010賞」を受賞しました。この賞は、次の7つの項目について企業のCSR活動が評価されるものです。

- ① 法令・ルール遵守体制
- ② 人権への配慮
- ③ 社員への配慮
- ④ 環境への配慮
- ⑤ 調達先への目配り
- ⑥ 顧客への配慮
- ⑦ 地域との一体化



代表して賞を受ける副社長のMr. Sommai Sirilertsombat(左)

社会からの表彰

受賞会社	受賞名	受賞理由	主催者
三井化学東セロ 浜松工場	静岡労働局長賞 奨励賞	安全確保対策、8年間無災害(2百万時間)達成に対して	静岡労働局
三井化学アグロ 船岡工場	表彰状	毎月の勤労統計調査指定事業所として協力に対して	厚生労働省
三井化学アグロ 船岡工場	達成証	労働基準監督署主催トライアル100(指定期間無災害達成)に対して	大河原労働基準監督署
ジャパンコンポジット 清水工場	区分2-無災害事業所確認証	5年以上無災害達成に対して	日本化学工業協会
ジャパンコンポジット 清水工場	7年間無災害記録証	118万時間無災害達成に対して	静岡労働局
ジャパンコンポジット 清水工場	優良事業場賞(安全の部)	安全に関する優良事業場	静岡県労働基準協会連合会
東北ユーロイド	区分1-無災害事業所確認証	10年以上無災害達成に対して	日本化学工業協会
北海道三井化学	奨励賞	労働安全衛生活動の取り組みに対して	北海道労働局
Siam Mitsui PTA社(タイ)	CSR-DIW(ISO26000)	DIWのガイドラインを満たしたCSR活動実施に対して	Ministry of Industry
Siam Mitsui PTA社(タイ)	Excellent Company Safety Award	安全に関する取り組みに対して	Ministry of Industry
Thai PET Resin社(タイ)	Zero DAWC in 1 year	1年間無災害達成に対して	Ministry of Labor
Thai PET Resin社(タイ)	National Occupational Health and Safety Award	OH&Sの優秀な実績に対して	Ministry of Labor
Thai PET Resin社(タイ)	Good Governance for Environmental Management Award	環境に関する優れた取り組みに対して	Industrial Estate Authority of Thailand



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

社会貢献活動

目標と実績 次世代育成 環境保全 災害復興支援 地域貢献／地域交流

社員の社会貢献活動 知財教育の支援

三井化学グループでは、「三井化学グループ社会活動方針」に基づいた様々な活動を実施しています。

三井化学グループでは、社会活動方針に基づき、社員自身の発案・企画による活動をはじめ、様々な活動を通して社会の発展および課題解決に取り組んでいます。化学会社である三井化学の特徴や強みを活かした取り組みこそが、社会課題解決に向けた効果的アプローチであると考え、当社の化学技術や製品を活用して、化学実験教室から災害支援、沙漠緑化実験に至るまで、様々な活動を展開しています。また、社員の参加型活動として、社員有志による寄付基金の制度を推進しています。

目標と実績

2010年度の目標

- 各社会活動プログラムの各地域ごとの実行体制整備
- 沙漠緑化実験における有効技術の絞込みと他社・他団体との連携強化

2010年度の実績と評価

達成度A

- 次世代育成化学実験教室「ふしぎ探検隊」について、各地域のニーズに応じた各事業所における計画・実行体制を確立

達成度B

- 2009年より中国遼寧市近郊に実験地を設置し、2009～2010年度の2年間にわたる実験により、塩害地利用に有効な技術について一定のデータを蓄積できた。一方、同様同種の課題に取り組む他社・他団体との連携模索については、実験地の他NGOとの共同利用を開始するなど、一定の前進はあったが、企業間連携については具体的成果を得られなかった

2011年度の課題

- 沙漠緑化実験活動の技術の有効性と継続可否の見極め
- 社員有志募金「チビットワンコイン」の会員拡大など、社会活動参画社員の拡大

※ 自己評価による達成度：A 95%以上、B 70%以上95%未満、C 70%未満

三井化学グループ社会活動方針

三井化学グループは、継続的に

1. 化学技術を活用・進化させて、広く社会に貢献します。
2. 開かれた事業所を目指し、地域社会との共生を図ります。
3. 地球の将来を担う次世代の育成に役立つ活動を行います。
4. 地球環境を守るための活動を行います。
5. 国際的な交流や協力を積極的に取り組みます。
6. 社員一人ひとりが主体的に社会活動に参画できる企業風土をつくります。

以上



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

社会貢献活動

目標と実績 次世代育成 環境保全 災害復興支援 地域貢献／地域交流

社員の社会貢献活動 知財教育の支援

次世代育成

次世代を担う子どもたちに、化学の楽しさ、おもしろさを伝えたい。化学技術に興味を持ってもらい、未来につながる技術をつくり出してもらいたい。そんな思いから様々な活動を実施しています。子どもたちへの化学実験教室を実施する「ふしぎ探検隊」、工場などでの学習を通して化学とは何か、化学のチカラで様々な製品を生み出す化学プラント、コンビナートとは何かを知ってもらう「インターンシップ」を紹介します。

「ふしぎ探検隊」

次世代を担う子どもたちに化学の楽しさと可能性を伝えたい、という思いから始まった化学実験教室「ふしぎ探検隊」は、2006年から各事業所近隣の学校、夏休みのイベントやお祭りでの出前教室、工場・研究所見学时における実験教室など、様々な形態で実施してきました。2010年度は全11事業所で計23回の教室を開催しています。

各地区とも、楽しく実験しながら化学を身近に感じてもらうために、日常生活に身近な「化学のなぜ？」を実験テーマに選定し、わかりやすく、そして楽しく理解してもらえるように工夫を凝らしました。2010年度はのべ3,000名を超える子どもたちに参加いただきました。また、子どもたちからはこの実験教室を通じて「理科が好きになった」「家でも実験をしてみたい」といった声も聞くことができました。一方では「説明が少し難しかった」「もっと触れる実験を増やして欲しい」などのご意見もいただき、今後こういった貴重なご意見を踏まえ、よりよい活動を目指して新規実験テーマの開発などに取り組んでいきます。



キッズエンジニアにおける実験教室

「三井化学ふしぎ探検隊」実験教室2010年度実績

日程	主催事業所	形態／イベント名または会場
4月25日	市原工場、袖ヶ浦センター	出前教室／社宅向け実験教室
6月8日	大牟田工場	出前教室／平原小学校
6月30日	大牟田工場	出前教室／三池小学校
7月30～31日	関東地区	教室出展／自動車技術会主催「キッズエンジニア2010」
8月2～3日	袖ヶ浦センター	見学・実験／地元小学生研究センター見学
8月6日	岩国大竹工場	見学・実験／第3回PAW わくわく探検隊
8月21～22日	関東地区	教室出展／日本化学工業協会主催「夢・化学-21 夏休み子供実験ショー」
8月26日	大阪工場	見学・実験／高石市主催「子供会企業見学会」
8月29日	市原工場	出前教室／地元小学生向け実験教室(千種コミュニティーセンター)
9月11日	茂原分工場	見学・実験／地元小学生技術研修センター見学
9月26日	市原工場	教室出展／工場秋祭り
10月10日	岩国大竹工場	教室出展／工場秋祭り

10月17日	大阪工場	教室出展／高石商工フェスティバル
10月23日	名古屋工場	教室出展／工場秋祭り
10月24日	大牟田工場	教室出展／工場秋祭り「オオタムフェスタ」
10月31日	岩国大竹工場	教室出展／青少年のための科学の祭典
11月9日	大牟田工場	出前教室／大正小学校
11月13日	大阪支店	教室出展／大阪科学技術館
11月21日	本社	教室出展／汐留シティセンター「ファミリーデー」
11月26日	エムシー工業(株)& ジャパンコンポジット(株)清水工場	出前教室／清水駒越小学校
12月14日	岩国大竹工場	出前教室／和木小学校
12月14日	茂原分工場	出前教室／東中学校
2月24日	大牟田工場	出前教室／明治小学校

ふしぎ探検隊アイテムリスト

※実験タイトル名は変更する場合があります

No.	実験タイトル名	分野・知識・形式			内容
1	ウレタンむくむく実験	化学	化学反応	演示型 自社製品	クッション材、安眠枕や冷蔵庫などの断熱材に使用されているウレタンの発泡の様子を見て、反応熱、硬さの違いを実感・体感します。
2	スライム ・自分で作るスライム ・皆で作るジャンボスライム ・光るスライム ・スライムボール	化学	ポリマーの性質	体験型	ポリビニールアルコールと水をホウ砂の架橋で、ダイラタント流体、水の閉じ込められる原理を学びます。
3	偏光板で光実験	物理	光	体験型	携帯電話などに使用されている自然光を直線光に変える素子の偏光板で、万華鏡づくりを通して光の通り方を学びます。
4	クロマトアート	化学	吸着分離	体験型	水性ペンのインクには、様々な色(色素)が混ざっていることを学びます。
5	プラ板	化学	ポリマーの性質	体験型	ポリスチレン板の熱収縮の性質を利用してオリジナルアクセサリ(キーホルダー)づくりを通して、プラスチックの性質や分別について学びます。
6	浮沈子	物理	浮力	体験型	PETボトルとプラスチック製しょうゆ入れから浮沈子を作り、浮力と圧力について学びます。
7	紫キャベツの色実験	化学	酸とアルカリ	体験型	紫キャベツからアントシアニンを取り出し(抽出)、身近な液体の性質を調べることで、化学分析、酸とアルカリの性質を学びます。
8	吸水性ポリマー	化学	ポリマーの性質	体験型 自社製品関連 (不織布)	紙おむつや園芸用品などで使用されている吸水性ポリマーで芳香剤作りを通して、水を保水する原理を学びます。
9	レインボータワー	物理	比重	体験型	濃度の異なる各色水を試験管に注いでタワーづくりを通して、溶液の比重について学びます。

10	冷え冷えルン♪ ヒエルンをつくろう！	化学	溶解熱	体験型 自社製品	肥料や保湿クリームなどに使用されている尿素的溶解熱による吸熱の原理を学びます。
11	発泡入浴剤のしくみを知ろう！	化学	酸と塩の反応	体験型	重曹とクエン酸を使って発泡入浴剤をつくり、二酸化炭素が発生するしくみを学びます。
12	酸性雨について知ろう！	化学	酸とアルカリ 酸化・還元	体験型	紫キャベツ抽出液によるpH測定とヨウ素脱色実験を通して、酸性雨の現象および原因について学びます。
13	紙すきをしよう！	技術	紙の作り方 リサイクル	体験型 自社製品関連 (AAM)	身近にある道具を使って紙すきを体験してもらい、紙の作り方やリサイクルについて学びます。
14	プラスチックを溶かしてシールを作ろう！	化学	ポリマーの性質	体験型 自社製品関連 (熱可塑性樹脂一般)	グルーガンを使って樹脂を溶かし、シールづくりを通して、熱で溶かして形にしていける熱可塑性樹脂の性質について学びます。
15	キュッと縮むフィルムのふしぎを体験しよう！	化学	ポリマーの性質	体験型 自社製品関連(フィルム、PETなど)	PETボトルのラベル、包装材料として使用されているシュリンクフィルムをオリジナルPETボトルづくりを通して、熱収縮の原理を学びます。

国内外インターンシップ生の受け入れ

中学、高校、高専、大学、大学院の学生に対して、化学とは何か、プラントとはどんなものか、化学企業での働くとはどのようなことなのかを知ってもらうために、工場、研究所などでのインターンシップを積極的に受け入れています。

2010年度は全事業所を合わせて、180名の学生を受け入れました。学生の中には中国、韓国、シンガポール、インド、フランス、マルタなど海外からも22名が参加しています。学生たちの対応をする三井化学の社員にとっても、グローバルな空気を感じつつ自社を再認識する良い機会になっています。

2010年インターンシップ受け入れ実績

事業所	受け入れ人数
本社	3
市原	48
茂原	7
袖ヶ浦	11
名古屋	20
大阪	28
岩国大竹	21
大牟田	42
合計	180

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

社会貢献活動

目標と実績 次世代育成 環境保全 災害復興支援 地域貢献/地域交流

社員の社会貢献活動 知財教育の支援

環境保全

化学産業はCO₂排出が大きい一方、この問題の抜本的解決に取り組む技術力を持った産業でもあります。社会活動においても、地球温暖化や生物多様性といった社会課題解決への自社技術の活用を模索しています。

沙漠緑化実験活動

「当社の製品や技術を中国大陸で進行中の沙漠化防止に活かしてみたい」との社員の発案により、2007年半ばから「中国・内モンゴル自治区における沙漠緑化実験活動」を始めました。2008年の現地実験の結果および現地ニーズのヒアリング結果に基づき、現地で利用困難な荒廃地として放置されている「塩害地(アルカリ土壌)」の再生を目標に展開することとしました。

乾燥、沙漠化が進んだいわゆる「沙地(砂地)」は、一定の管理(植樹後一定期間の砂の固定、給水、および立入制限)とそのため資金提供によって緑化が可能であり、実際に成果を上げている内外NGOなどの活動事例が多数あります。

その反面、「塩害地」については、いまだ有効な緑化・活用方法が見つからないまま、広大な面積が放置されています。通常の沙地とは異なり、高いアルカリ性(pH8~9)な上に、固くて排水の悪い土質は、植物の生育を極めて困難にしています。

この困難な課題に取り組むため、2009年4月、内モンゴル自治区通遼市の近郊・白興吐(バイシントウ)地区に通年管理が可能な実験地を設置し、【1】土壌改良技術、【2】当社材料の活用、【3】樹種の選定の3つの技術ポイントについて探索を進めています。

2009年4月に17,000本、2010年4月は1,300本の樹種について、様々な条件を組み合わせる実験植樹を行い、有効な技術の探索に取り組んでいます。また、2010年の実験では、「沙棘」という樹種について、枝を切り取った「挿し穂」による育苗実験も行い、「挿し穂採取→育苗→植樹・育成→挿し穂採取」というサイクルの確立を目指しました。

技術探索にあたっては、現地の居住者が自主的かつ継続的に塩害地の改良・活用に取り組めるよう、安価かつ現地調達可能な材料についても広く探索を行っています。

和歌山県の「企業の森」事業に参画

当社の関係会社である本州化学は、同社の環境保全活動の一環として和歌山県が推進している森林環境保全を目的とした「企業の森」事業に参画するため、2010年9月7日に和歌山県および日高川町との間で「森林保全・管理協定書」を締結しました。

「企業の森」事業とは、和歌山県が企業などと一体となり、県内の豊かな自然環境を活用し、地域の人々とともに地球環境保全に参画する環境貢献プログラムです。

本州化学では11月13日に植樹祭を開催し、「本州化学の森・日高川」と命名のうえ、和歌山県日高郡日高川町の森林用地(面積1.32ヘクタール)において同社社員およびその家族により約1,500本の広葉樹の植樹を実施しました。



「本州化学の森・日高川」と表示した看板 植樹祭での集合写真



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

社会貢献活動

目標と実績 次世代育成 環境保全 災害復興支援 地域貢献/地域交流

社員の社会貢献活動 知財教育の支援

災害復興支援

大規模災害などが発生した際の支援活動や、社会活動団体の支援などにおいても、当社の特徴・強みを活かした活動を目指しています。

災害支援活動

地震などの大規模災害発生時に、被災者に必要とされる当社製品があれば、これを届けて活かしたいという社員の発案から始まった三井化学の災害支援活動は、2009年度に岩国大竹工場(山口県)と茂原分工場(千葉県)の東西2拠点に支援物資を保管する倉庫を設置し、自治体などの要請があれば各工場から配送できる体制に発展しました。現在それぞれの倉庫には、ウレタンマットレス(避難所となる体育館の床に敷くクッション材)、ラップ(食器を包んで使用することで水の少ない環境での食器洗いを不要とする)、ポリタンク(飲料水保管用)、ブルーシート(水害、土砂災害時の養生など)などを備蓄し、配送できる体制を整えています。2010年7月、中国・九州北部を襲った集中豪雨災害の際には、山口県、広島県からの要請に基づき、山口県山陽小野田市にはブルーシートとハイラップを、広島県庄原市にはウレタンマットレス、世羅町にはブルーシートをお送りし、被災地での避難生活に微力ながら貢献することができました。

また、2011年3月11日に発生した東日本大震災に際して三井化学グループは、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン、公益社団法人シビックフォースとの連携により、被害を受けた地域へ、3月16日から23日にかけて以下のような支援活動を実施しました。

被災地支援のためお送りした物資

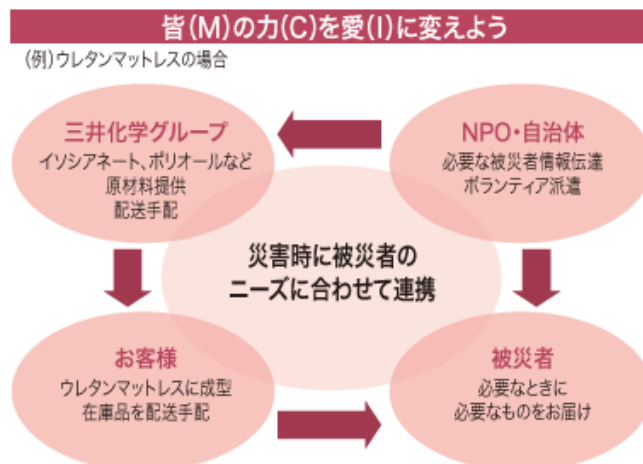
- ウレタンマットレス760枚、ブルーシート650枚、ポリタンク400個【三井化学(株)】
- 生分解性食器(皿、お椀)56,000枚【三井化学東セロ(株)】
- 食品用ラップ(ハイラップ)5,864本【三井化学ファブロ(株)】



ウレタンマットレスの積み込み

このような災害が発生しないことを願っていますが、万が一発生した場合には、今後も物資提供先の自治体からの希望聴取などを通して、被災地のニーズにより近い災害支援のかたちを追求していきます。

三井化学の災害支援活動の流れ





「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

社会貢献活動

目標と実績 次世代育成 環境保全 災害復興支援 地域貢献／地域交流

社員の社会貢献活動 知財教育の支援

地域貢献／地域交流

地域の皆様に少しでもお役に立てるような取り組みを行いながら、交流を深めています。

「びわ湖の日」清掃活動 地元中高生との交流 クリーンアップ

中国安徽省「希望小学校」建設事業に参画(中国)

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

社会貢献活動

目標と実績 次世代育成 環境保全 災害復興支援 地域貢献／地域交流

社員の社会貢献活動 知財教育の支援

社員の社会貢献活動参加支援

2008年度より、社員の社会活動参加を支援するため、チビットワンコイン(給与天引きによる社員からの寄付金)と、社会活動休暇制度の2つの制度を運用しています。

これらの制度は、社会的な課題を意識し、自ら関わっていくことで社会に貢献する社員をバックアップするための制度として位置づけています。

チビットワンコイン

2007年11月より、社員の給与や賞与から本人希望の金額を控除して、社会的な活動をしている団体への寄付基金を積み立てる「チビットワンコイン」を始めました。

現在会員は約650名で、2010年の積み立て基金は約300万円でした。これらの基金は社員から提案のあった各種社会活動団体計15団体に寄付しています(2010年度実績300万円)。寄付先団体の審査・決定は、「チビットワンコイン」会員社員有志で構成する「チビットワンコイン運営委員会」が行っています。地震、水害などの大規模災害が発生した場合にも義援金として寄付を行う場合があります。



イメージキャラクター「チビット君」

チビットワンコイン2010年度支援団体一覧

2010年度は、「チビットワンコイン」と会社からの同額の拠出(マッチングギフト*1)と合わせて、合計600万円を、下記団体・活動に支援しました。

*1 マッチングギフト:従業員が社会・環境団体などへ寄付を行う場合に、企業が同額の寄付を追加することで、従業員の社会貢献活動を支援する制度

1. 学校法人アジア学院
2. 認定NPO法人 国際連合世界食糧計画WFP協会
3. 認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会
4. 公益財団法人 日本補助犬協会
5. あしなが育英会
6. NPO法人 アスペ・エルデの会
7. 公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン WWF Japan
8. NPO法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
9. 認定NPO法人 難病のこども支援全国ネットワーク
10. 一般財団法人 民際センター
11. NPO法人 レスキューストックヤード
12. NPO法人 ロシナンテス
13. 社会福祉法人 関西いのちの電話
14. NPO法人 救急ヘリ病院ネットワーク
15. NPO法人 セカンドハーベスト・ジャパン

■ 社員のボランティア支援(社会活動休暇制度導入)

2008年8月より、社会的な活動に参加する社員を支援するために、年2回まで休暇(有給)を取得できる社会活動休暇制度を導入しました。2010年度は184件の取得実績があり、その活動も消防団活動や地元の少年野球、サッカーなどの指導・監督や自治体活動など、幅広い社会活動において利用されています。

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の三井化学

社会貢献活動

目標と実績 次世代育成 環境保全 災害復興支援 地域貢献／地域交流

社員の社会貢献活動 知財教育の支援

知財教育の支援

三井化学は、途上国の研修生や日本の学生の皆様に知的財産に関する講義を行っています。

途上国向け知財教育の支援

当社は、特許庁委託事業である「途上国人材育成研修」に関して、発明協会からの要請を受け、途上国で産業財産権制度に携わる人材の育成を支援するために講師を派遣しました。

2010年7月には、東京で開催された「JPO/IPR研修(実務者コース)」のアジア8カ国14名の研修生に、知的財産管理・情報調査の講義をしました。

本研修には、2005年から通算10回継続して講師を派遣しており、毎回、大変実用的な講義内容だとご好評をいただいています。

また、2011年2月にはマレーシアのクアラルンプールにて、“Better IPs, Better Economies(より良い知財、より良い経済)”というテーマで開催されたセミナーにおいて、知的財産情報活用についての講義を行いました。本セミナーは300名もの参加者があり、マレーシア現地の皆様との交流も図りました。

今後もこのような活動を支援していきます。

[発明協会主催「途上国知財教育研修」\(英語\)へ](#)

学生向け知財教育の支援

当社は、「荒尾地域再生産学住協働プログラム」の一環として、大牟田市の有明工業高等専門学校から学生向けの知的財産に関する教育の依頼を受け、2007、2008、2009年度に引き続き、2010年12月に6時間の集中講義を行いました。

将来の産業界を担う19名の学生たちは、熱心に講義に聞き入り、活発に質問を行っていました。当社の活動により、今後ますます重要性が高まる知的財産への関心を喚起できたようです。

今後もこのような地域貢献活動に協力していきます。

[有明高専「知財教育」へ](#)

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

社内外の声を活かします

『CSR報告書』に対する第三者意見と読者の皆様からのご意見、またそれらをもとにした次年度への改善点を紹介しています。

『CSR報告書2010』へのご意見

『CSR報告書2010』についてのアンケート集計結果を掲載しています。
また、アンケートにいただいた社内外の皆様からのご意見を掲載しています。

[『CSR報告書2010』アンケート集計結果](#)

[社内外の皆様からのご意見](#)

『CSR活動報告2011』への第三者意見

[『CSR活動報告2011』への第三者意見](#)

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

『CSR報告書2010』へのご意見

アンケート集計結果 社内外の皆様からのご意見

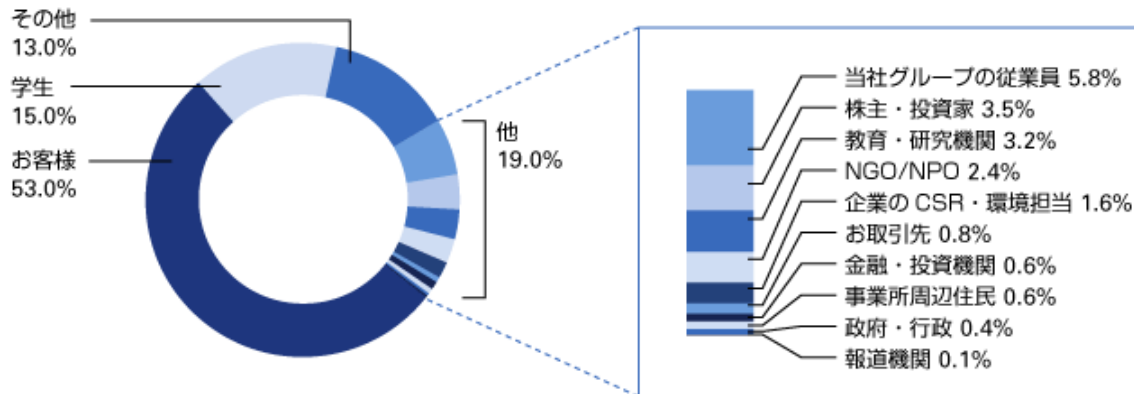
Webサイト、または冊子による『CSR報告書2010』へのアンケートに多数のご回答をいただきました。

三井化学グループでは、今後の活動や報告書の改善に反映させるため、広く社内外の方々からご意見をいただくアンケートを実施しています。アンケートは2011年3月31日現在で、合計約830件のご回答をいただきました。貴重なご意見、ご感想をありがとうございました。

下記にアンケート集計結果をご紹介します。

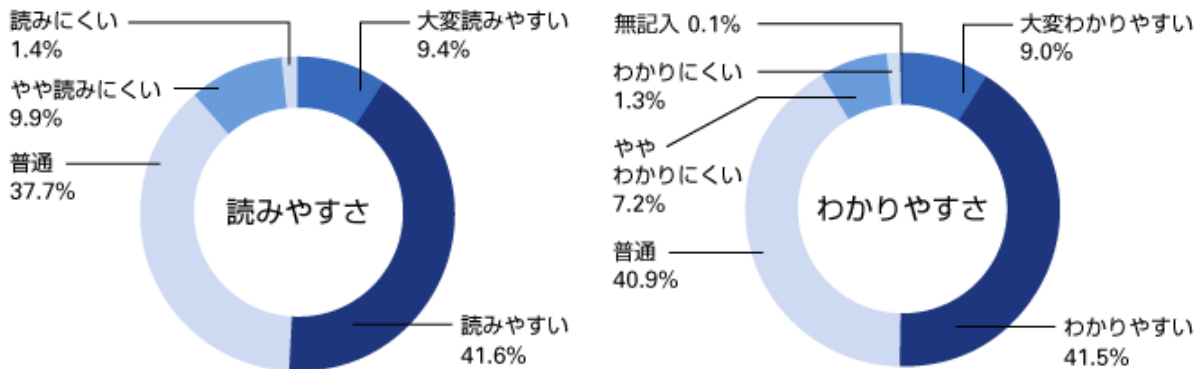
『CSR報告書2010』アンケート集計結果

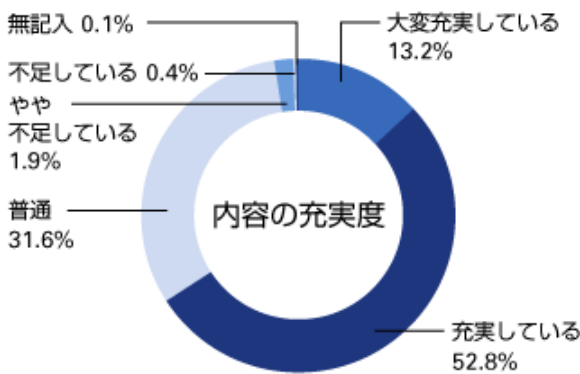
Q1: アンケートに回答された方のお立場



※ 四捨五入により、%数値に若干の誤差があります。

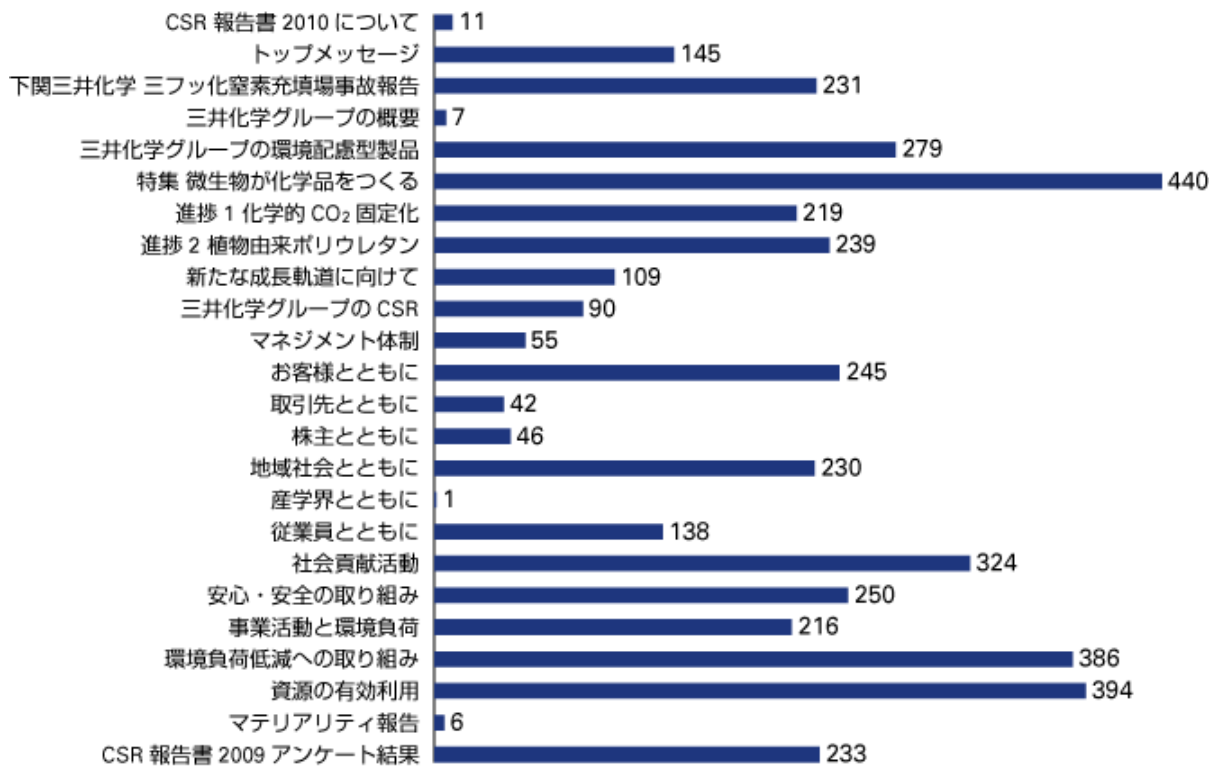
Q2: お読みになっていかがでしたか?



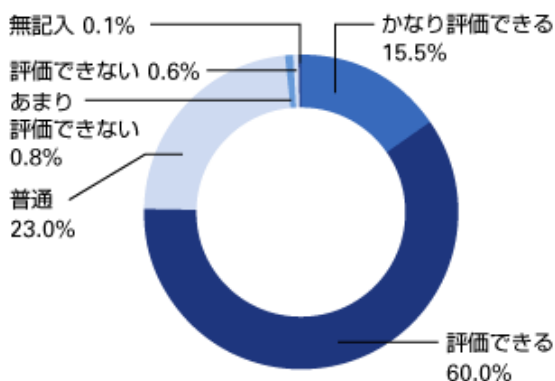


※ 四捨五入により、%数値に若干の誤差があります。

Q3: 関心を持たれた項目(複数回答)



Q4: 三井化学グループのCSR活動についての評価



※ 四捨五入により、%数値に若干の誤差があります。



「化学」「革新」「夢」の三井化学

『CSR報告書2010』へのご意見

アンケート集計結果 社内外の皆様からのご意見

社内外の皆様からのご意見

『CSR報告書2010』アンケートに寄せられた主なご意見・ご感想(一部)

- 2008年度版を初めて読んだ時には、誰に向けて発信している冊子かわかりにくい構成でしたが、その点も改善され、「読み物」としても充実した仕上がりになっているように思います。(女性・30代・会社員)
- 冊子はダイジェスト版との位置付けとしている割に記載内容が多いと感じます。(男性・30代・会社員)
- 事故報告など悪い情報を隠さず報告されているところはよいと思います。(男性・30代・会社員)
- 化学企業という環境負荷をかけるというイメージがありましたが、それを補って余りあるほどの向上活動をされていることがよくわかった。(女性・30代・会社員)
- ページ数が多いように思いました。ページ数を抑えたほうがより多くの方に読まれると思います。(女性・20代・学生)
- 化学のことはわからないのですが、CO₂固定化など、地球環境に配慮した開発には感動しました。育児休暇は男性の取得率を開示してほしいかった。(女性・40代・会社員)
- 何を報告したいのかということがわかりにくいので、どこにポイントを持って読めばよいのかわかりにくかった。(女性・20代・無職)
- トップ報告でいきなり事故について触れたのは大変良かった。会社の安全に対する真摯な姿勢が汲み取れた。(男性・60代・定年退職者)

『CSR報告書2010』にいただいた第三者意見(要約)

足達英一郎氏(株式会社 日本総合研究所 創発戦略センター ESGリサーチセンター長)

- 非化石原料活用の特集や進捗状況に注目
- 製品安全性情報開示は次年度以降の報告書の横串にしてほしい
- PRTR法対象物質の移動量事態の減少目標を期待
- 下関事故報告は評価。さらに労災原因、対策の徹底開示を要望
- 長期的なGHG排出削減のシナリオを要望

高岡美佳氏(立教大学 経営学部教授)

- 自社の本業を通じて社会に貢献する姿勢が見られる
- 「いい会社」は各部門・組織のパフォーマンスの総和により実現されることを明確にし、現場主義に立脚している点を評価
- 「夢トーク」のような双方向のコミュニケーションは高く評価
- 海外におけるサプライチェーンも視野に入れ、いっそうの注力を期待
- 女性社員の活躍推進についてのロードマップを要望

『CSR活動報告2011』に取り入れた主な改善点

アンケート結果、第三者意見を参考に以下の工夫を行いました。

1. CO₂固定技術については、実証試験の現状・課題などを継続的に報告しフォローアップを行いました。
2. 「夢トーク」については継続実施中で、概要を報告しています。
3. webサイトへよりアクセスしやすいように、項目順や配置などに工夫をしました。
4. 冊子は、webサイトとの棲み分けをより明確にし、伝えたい内容に絞り構成しています。
5. レイアウト、色使いなどいっそう見やすさを求めた編集に努めました。



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

『CSR活動報告2011』への第三者意見

三井化学グループのCSR活動に対し、足達英一郎氏および高岡美佳氏にご意見をいただきました。

株式会社 日本総合研究所 創発戦略センター／ESGリサーチセンター長

足達 英一郎 氏



社会的責任投資のための企業情報の提供を金融機関に対して行っている立場から、昨年度に引き続き、本報告を通じて理解した三井化学グループのCSR(企業の社会的責任)活動に関し、第三者意見を以下に提出します。

昨年度、長期的な温室効果ガスの排出削減シナリオ作成への期待を申し上げます。これに対して、2011年度から始まった中期経営計画で、2013年度の温室効果ガス排出量を1990年度対比で50万トン削減するという総量削減目標を盛り込まれたことを画期的な取り組みとして評価いたします。

節電対策として市原工場の必要電力の全量を自家発電で賄うとともに、余剰電力を電力会社に提供するなかで、この目標を達成されることは容易ではないでしょう。しかし、実証プラントを用いたCO₂固定化(CO₂を原料にメタノールを合成)技術や大腸菌によるバイオマスを原料とした化学品合成技術の実用化などを通じて、将来的には総量削減を現実のものとしていかれることを期待いたします。

化学物質マネジメントについて、2011年度に優先順位の高い製品からリスク評価を実践することが報告されています。「2020年までに化学物質の人や環境への悪影響を最小化する」という世界的合意に照らして、この点も化学産業の重要課題です。この際、生物多様性保全の取り組みとリスク評価とを統合させる視点を是非、付加していただくよう要望いたします。

2010年度において、労働災害度数率目標が達成されなかった点は、気になる点でした。これに関連して、特集「STORY 01」において、進化するプラントと製造現場のジレンマが生じているという認識を率直に表明され、運転員教育の実践について丁寧に報告された内容を興味深く拝見しました。今後は運転員の意識変化など、その成果についても開示いただくと、より理解が深まると考えます。

疾病休業の状況を、詳細に開示された姿勢も、他社にみられないものとして高く評価いたします。ただ近年、疾病休業日数が高い水準にあるように見受けられます。その原因と対策についても言及がなされると、より信頼感のある開示となるでしょう。

最後に、昨年に比べて「海外での事業拡大」はいっそう進展しました。海外売上高比率は4割を超え、海外連結子会社の社員数も2割以上になっています。その観点から、報告の集計範囲が三井化学単体のみになっている項目が少なくないと感じました。また、「多様な個性・考え方の尊重」の項目に、国籍などの視点は盛り込まれていません。次年度以降は、是非、海外マーケットにおける取り組みや海外連結子会社の取り組み、あるいはグローバル人事の考え方などについても開示を充実させていただきたいと考えます。

なお、このコメントは、本報告が、一般に公正妥当と認められる環境報告書等の作成基準に準拠して正確に測定、算定され、かつ重要な事項が漏れなく表示されているかどうかについて判断した結果を表明するものではありません。

立教大学 経営学部 教授

高岡 美佳 氏



三井化学グループのCSR報告に第三者意見を寄せるのは、今回で2度目となります。
昨年度の報告書に比べて、以下の2つの点が特に改善されたという印象を受けます。

第一に、冒頭のトップメッセージにあるとおり、2011年度から始まった新しい中期経営計画において、温室効果ガス(GHG)排出削減目標をこれまでの「原単位改善目標」から「排出総量削減目標」へと切り替えたことです。三井化学グループでは、2013年度のGHG排出量について、1990年度比で9%(50万トン)削減する目標を新たに定めました。化学業界では、原単位を用いてGHG排出削減効果を計測することが通例であるのに対し、今回、三井化学グループは、省エネルギーの推進、プロセス革新技術の創出に取り組むとともに、環境配慮型製品も拡充することで、社会全体のGHG総排出量削減に貢献するという姿勢を明確にしました。しかも、既存の原単位改善目標を超過達成したうえで、排出総量削減目標を導入したことは、きわめて高く評価できます。

第二に、CSR活動報告の詳細についてはWebに掲載することとし、冊子には、三井化学グループが特にステークホルダーに向けて発信したい内容だけを重点的に掲載する方式に改めたことです。Web版と冊子版の両方を制作する場合、冊子はWebのダイジェスト版とするケースが多いのですが、その場合、とすれば中途半端な情報開示にとどまる危険性を孕んでいます。ステークホルダーとのCSRコミュニケーションを真摯に考えれば、冊子をWeb版から独立させ、それ自体読み応えのあるものにした方がよいといえます。今回の冊子からタイトルが「CSR Communication 2011」と変更されたことにも示されているように、三井化学グループは、コミュニケーションの意味を深く考えているように見受けられます。

そのほか、やや細かいことですが、昨年度のレポートに寄せられた社内外からの意見を反映して、男性育児休暇取得者実績を掲載するなどの措置を講じており、双方向のコミュニケーションを実行している点も評価できます。また、昨年度の報告書に引き続き、現場を大切に、自社の本業を通じて社会に貢献する姿勢を貫いている点も注目すべきです。

一方、要望したい点としては、次の2点をあげておきます。

1点目は、CSRの見地からの取引先選定に関して、丁寧な改善指導や一歩踏み込んだコンサルティングを実施していただきたいことです。これは、取引先とより良いパートナーシップを構築するためにも必要な事柄です。現在、三井化学グループでは、取引先選定に際して20項目からなるCSR調達アンケートを実施し、その結果をフィードバックするとともに改善指導を行っています。しかし、取引先の中には、規模がさほど大きくない企業も存在するでしょう。そのような企業が、限られた人的資源や知識に基づいて法令遵守やCSR実施のためのマネジメントシステムを構築することには、困難がともなうケースもあると思われます。CSRの観点から取引先を選定すること自体は大切な手続きですが、さらに一歩踏み込んで、CSRが不十分な取引候補企業に手を差し伸べて具体的な改善手法をともに組み立てることは、三井化学グループのCSR活動としても重要だと考えられます。今後、この点を実行に移していただきたいものです。

2点目は、昨年度も指摘しましたが、雇用の多様性(ダイバーシティ)について、大まかでも構わないので、ロードマップを示していただきたいということです。三井化学グループの障害者雇用率は今年度も法定水準を達成し、女性管理職数も年々着実に増加していることは、大いに評価できます。しかし、報告の雇用の多様性に関する記述は薄く、例えば、女性のキャリア開発支援として何を実施しているのか、目標はどの程度設定されているのかなど、わかりにくい部分が多いことも事実です。来年度の報告での改善を期待します。

ご意見をいただいて

貴重なご意見、ご指摘を頂戴し、ありがとうございました。

- 温室効果ガス削減につきましては、新たに総量削減目標を入れ込んだ中期経営計画を着実に実行してまいります。
- また、化学企業としてCO₂固定化など「非化石原料活用技術の開発」の実用化に向けていっそうの努力をしてまいります。
- 一方、労働災害度数率目標につきましては残念ながら未達でありましたが、これまで以上に原因を深く掘り下げ、対応策について注力いたします。
- 海外での事業が拡大している中、海外における当社グループのCSRの取り組みに関しましては、いっそうの推進と取り組み内容の開示に努めます。
- また、CSRの見地からの取引先選定につきましては、より具体的な対応を検討してまいります。
- なお、昨年度もご指摘のありました雇用の多様性につきましては、わかりにくい部分が多かったというご指摘を、反省を込めて謙虚に受け止めてさせていただきます。今後、取り組み内容をよりわかりやすく開示していくとともに、ロードマップについても前向きに検討してまいります。

このたびいただきましたご意見をはじめ、社会の皆様からの声に耳を傾け、当社グループのCSRの取り組みのレベルアップを図り、充実した活動報告ができますよう努めてまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

CSR推進部長 山崎 真



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

パフォーマンスデータ一覧

三井化学グループでは、環境負荷の低減と、省エネルギーなどによる環境保全に取り組んでいます。また、地域社会とのコミュニケーションを大切にし、ステークホルダーに信頼される“いい会社”を目指し、様々なCSR活動に取り組んでいます。

下の一覧表は活動の記録をまとめたものです。ご覧になりたい開示データをクリックしてください。

カテゴリー		開示データ
トップメッセージ	グローバルコンパクト	グローバルコンパクト10原則対照表
三井化学グループの事業分野と主な製品		三井化学グループの事業分野と主な製品
CSRマネジメント	マネジメント体制	目標と実績
		リスクホットライン運用実績
レスポンシブルケア	労働安全衛生	目標と実績
		労働災害の発生状況
		休業労働災害度数率の推移(全産業／化学業界／三井化学)
		労働災害度数率の推移(三井化学<社員+運転協力会社>)
	保安防災	目標と実績
		保安防災教育カリキュラム
		安全・防災・衛生対策投資
	環境保全	目標と実績
		温室効果ガス排出量とエネルギー原単位の推移
		産業廃棄物最終処分量の推移
		廃棄物処理の流れ(三井化学)
		産業廃棄物処理区分
		PRTR法対象物質の排出量の推移
		国内製造拠点別PRTRデータ(鹿島工場／市原工場／茂原分工場／名古屋工場／大阪工場／岩国大竹工場／徳山分工場／大牟田工場)
		有害大気汚染物質の排出量の推移
		VOCの大気への排出量の推移
		環境負荷の推移(8種類)
		環境会計の推移
		環境保全コスト・環境保全効果
環境保全対策にともなう経済効果		

		INPUT ⇒ OUTPUT データ(本体) INPUT ⇒ OUTPUT データ(本社工場) 三井化学グループのINPUT ⇒ OUTPUT データ 永田法の解説(エコ効率) エコ効率指数と環境負荷統合化指数の推移 エコ効率指数の算出 環境苦情への対応	
	化学物質マネジメント	目標と実績	
	品質	目標と実績	
	物流	目標と実績	
	RC推進体制	目標と実績 関係会社の国際認証取得状況および2010年度RC監査実績	
社会とのコミュニケーション	お客様とともに	目標と実績	
	取引先とともに	目標と実績	
	株主とともに	目標と実績	
	従業員とともに	目標と実績	
		両立支援一覧	
		多様性の促進(女性管理職数/障害者雇用率)	
		有所見率の推移	
		疾病休業の内訳	
	産学界とともに	目標と実績	
	地域社会とともに	目標と実績	
		国内外関係会社 2010年度の地域交流	
		社会からの表彰	
	社会貢献活動	目標と実績	
「三井化学ふしぎ探検隊」実施教室2010年度実績			
ふしぎ探検隊アイテムリスト			
2010年インターンシップ受入れ実績			
チビットワンコイン2010年度支援団体一覧			
社内外の声を活かします	『CSRアンケート2010』へのご意見	『CSRアンケート2010』アンケート集計結果	
GRIガイドラインリスト		GRIガイドライン対比リスト	



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

GRIガイドライン対比リスト

GRI(Global Reporting Initiative)は、オランダに本部を置くNGOで、企業の持続可能性レポートに関するガイドライン作成・普及を目的とする国連環境計画(UNEP)の公認協力機関です。

GRIガイドラインとは、事業者が環境や社会に配慮しながら経済的に発展するため、指針とすべく定められた、国際的なガイドラインのことで

下の表はGRIガイドライン項目に対応する記事の掲載ページを示しています。

項目	指標	該当チェック	冊子		WEB
			ページ	該当項目	該当項目
1.戦略および分析					
1.1	組織にとっての持続可能性の適合性と、その戦略に関する組織の最高意思決定者(CEO、会長またはそれに相当する上級幹部)の声明	○	■P3-4	■トップメッセージ	■トップメッセージ
1.2	主要な影響、リスクおよび機会の説明	○	■P3-4 ■P14-15	■トップメッセージ ■“強み”を活かして、新たな成長軌道へ	■トップメッセージ ■CSRで目指すもの ■RCマネジメントシステム ■経営計画(グランドデザイン)
2.組織のプロフィール					
2.1	組織の名称	○	■P18-19	■三井化学グループのグローバル展開	■会社概要
2.2	主要なブランド、製品および/またはサービス	○	■P16-17	■三井化学グループの事業分野と主な製品	■事業・製品 ■三井化学グループの事業分野と主な製品
2.3	主要部署、事業会社、子会社および共同事業などの組織の経営構造	○	—	—	■組織図
2.4	組織の本社の所在地	○	■P18-19	■三井化学グループのグローバル展開	■会社概要
2.5	組織が事業展開している国の数および大規模な事業展開を行っている、あるいは報告書中に掲載されているサステナビリティの課題に特に関連のある国名	○	■P18-19	■三井化学グループのグローバル展開	■海外関係会社
2.6	所有形態の性質および法的形式	○	■P18-19	■三井化学グループのグローバル展開	■会社概要
2.7	参入市場(地理的内訳、参入セクター、顧客/受益者の種類を含む)	○	■P18-19	■三井化学グループのグローバル展開	■海外関係会社 ■財務データハイライト
2.8	以下の項目を含む報告組織の規模 ・従業員数 ・純売上高(民間組織について)あるいは純収入(公的組織について) ・負債および株主資本に区分した総資本(民間組織について) ・提供する製品またはサービスの量	○	■P18-19	■三井化学グループのグローバル展開	■会社概要 ■財務データハイライト ■INPUT⇒OUTPUTデータ
	以下の項目を含む、規模、構造または所有形態に関して報告期間中に生じた大幅な変更 ・施設のオープン、閉鎖および拡張など				

2.9	を含む所在地または運営の変更 ・株式資本構造およびその資本形成における維持および変更業務(民間組織の場合)	×	—	—	—
2.10	報告期間中の受賞歴	○	—	—	■社会からの表彰
3.報告要素					
報告書のプロフィール					
3.1	提供する情報の報告期間(会計年度/暦年など)	○	—	—	■CSR活動報告2011について
3.2	前回の報告書発行日(該当する場合)	×	—	—	—
3.3	報告サイクル(年次、半年ごとなど)	○	—	—	■CSR報告書
3.4	報告書またはその内容に関する質問の窓口	○	■裏表紙	■お問い合わせ先	■お問い合わせ
報告書のスコープおよびバウンダリー					
3.5	以下を含め、報告書の内容を確定するためのプロセス ・重要性の判断 ・報告書内のおよびテーマの優先順位付け ・組織が報告書の利用を期待するステークホルダーの特定	○	■P2	■三井化学グループのCSR活動報告2011について	■CSR活動報告2011について
3.6	報告書のバウンダリー(国、部署、子会社、リース施設、共同事業、サプライヤー(供給者)など)	○	—	—	■CSR活動報告2011について
3.7	報告書のスコープまたはバウンダリーに関する具体的な制限事項を明記する	○	—	—	■CSR活動報告2011について ■産業廃棄物の削減
3.8	共同事業、子会社、リース施設、アウトソーシングしている業務および時系列でのおよび/または報告組織間の比較可能性に大幅な影響を与える可能性があるその他の事業体に関する報告の理由	×	—	—	—
3.9	報告書内の指標およびその他の情報を編集するために適用された推計の基となる前提条件および技法を含む、データ測定技法および計算の基盤	○	■P14-15	■“強み”を活かして、新たな成長軌道へ	■安心・安全な職場づくり ■産業廃棄物の削減 ■PRTR法対象物質 ■環境会計 ■環境影響評価(エコ効率)
3.10	以前の報告書で掲載済みである情報を再度記載することの効果の説明、およびそのような再記述を行う理由(合併/買収、基本となる年/期間、事業の性質、測定方法の変更など)	○	—	—	■地球温暖化防止への取り組み
3.11	報告書に適用されているスコープ、バウンダリーまたは測定方法における前回の報告期間からの大幅な変更	×	—	—	—
GRI内容索引					
3.12	報告書内の標準開示の所在場所を示す表	○	—	—	■GRIガイドライン対比リスト
保証					
3.13	報告書の外部保証添付に関する方針および現在の実務慣行。サステナビリティ報告書に添付された保証報告書内に記載がない場合は、外部保証の範囲および基盤を説明する。また、報告組織と保証の提供者との関係を説明する	○	—	—	■『CSR活動報告2011』への第三者意見

4. ガバナンス、コミットメントおよび参画					
ガバナンス					
4.1	戦略の設定または全組織的監督など、特別な業務を担当する最高統治機関の下にある委員会を含む統治構造(ガバナンスの構造)	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ■「いい会社」の実現に向けた推進体制 ■コーポレート・ガバナンス ■リスク管理体制
4.2	最高統治機関の長が執行役員を兼ねているかどうかを示す(兼ねている場合は、組織の経営におけるその役割と、このような人事になっている理由も示す)	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ■コーポレート・ガバナンス ■役員一覧
4.3	単一の理事会構造を有する組織の場合は、最高統治機関における社外メンバーおよび／または非執行メンバーの人数を明記する	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ■コーポレート・ガバナンス
4.4	株主および従業員が最高統治機関に対して提案または指示を提供するためのメカニズム	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ■コーポレート・ガバナンス ■株主への情報開示
4.5	最高統治機関メンバー、上級管理職および執行役についての報酬(退任の取り決めを含む)と組織のパフォーマンス(社会的および環境的パフォーマンスを含む)との関係	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ■有価証券報告書
4.6	最高統治機関が利害相反問題の回避を確保するために実施されているプロセス	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ■コーポレート・ガバナンス
4.7	経済的、環境的、社会的テーマに関する組織の戦略を導くための、最高統治機関のメンバーの適性および専門性を決定するためのプロセス	×	—	—	—
4.8	経済的、環境的、社会的パフォーマンス、さらにその実践状況に関して、組織内で開発したミッション(使命)およびバリュー(価値)についての声明、行動規範および原則	○	■P14-15	■“強み”を活かして、新たな成長軌道へ	<ul style="list-style-type: none"> ■経営計画(グランドデザイン) ■CSRで目指すもの ■「いい会社」に向けた意識・行動変革の取り組み ■レスポンシブル・ケア方針
4.9	組織が経済的、環境的、社会的パフォーマンスを特定し、マネジメントしていることを最高統治機関が監督するためのプロセス。関連のあるリスクと機会および国際的に合意された基準、行動規範および原則への支持または遵守を含む	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ■国連グローバル・コンパクト ■レスポンシブル・ケア方針
4.10	最高統治機関のパフォーマンスを、特に経済的、環境的、社会的パフォーマンスという観点で評価するためのプロセス	×	—	—	—
外部のイニシアティブへのコミットメント					
4.11	組織が予防的アプローチまたは原則に取り組んでいるかどうか、およびその方法はどのようなものかについての説明	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ■リスク管理体制 ■化学品・製品の安全性の確保
4.12	外部で開発された、経済的、環境的、社会的憲章、原則あるいは組織が同意または受諾するその他のイニシアティブ	○	■P2	■2011年は世界化学年	<ul style="list-style-type: none"> ■国連グローバル・コンパクト ■生物多様性
4.13	組織が以下の項目に該当するような、(企業団体などの)団体および／または国内外の提言機関における会員資格・統治機関内に役職を持っている・プロジェクトまたは委員会に参加している・通常の会員資格の義務を越える実質的な資金提供を行っている	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ■共同研究・プロジェクトの推進

	・会員資格を戦略的なものとして捉えている				
ステークホルダー参画					
4.14	組織に参画したステークホルダー・グループのリスト	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ■CSR重点課題の設定 ■地域対話 ■アンケート集計結果 ■社内外の皆様からのご意見
4.15	参画してもらうステークホルダーの特定および選定の基準	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ■CSR重点課題の設定
4.16	種類ごとのおよびステークホルダー・グループごとの参画の頻度など、ステークホルダー参画へのアプローチ	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ■CSR重点課題の設定 ■品質向上への取り組み ■CSR調達 ■株主への情報開示 ■地域対話 ■アンケート集計結果 ■社内外の皆様からのご意見 ■『CSR活動報告2011』への第三者意見
4.17	その報告を通じた場合も含め、ステークホルダー参画を通じて浮かび上がった主要なテーマおよび懸案事項と、それらに対して組織がどのように対応したか	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ■社内外の皆様からのご意見 ■『CSR活動報告2011』への第三者意見
5.マネジメント・アプローチおよびパフォーマンス指標					
経済					
	マネジメント・アプローチの開示	○	<ul style="list-style-type: none"> ■P3-4 ■P14-15 	<ul style="list-style-type: none"> ■トップメッセージ ■“強み”を活かして、新たな成長軌道へ 	<ul style="list-style-type: none"> ■トップメッセージ
経済パフォーマンス指標					
側面:経済的パフォーマンス					
中核 EC1.	収入、事業コスト、従業員の給与、寄付およびその他のコミュニティへの投資、内部留保および資本提供者や政府に対する支払いなど、創出および分配した直接的な経済的価値	×	—	—	—
中核 EC2.	気候変動による組織の活動に対する財務上の影響およびその他のリスクと機会	○	<ul style="list-style-type: none"> ■P3-4 ■P14-15 	<ul style="list-style-type: none"> ■トップメッセージ ■“強み”を活かして、新たな成長軌道へ 	<ul style="list-style-type: none"> ■トップメッセージ ■CSR重点課題の設定
中核 EC3.	確定給付型年金制度の組織負担の範囲	×	—	—	—
中核 EC4.	政府から受けた相当の財務的支援	×	—	—	—
側面:市場での存在感					
追加 EC5.	主要事業拠点について、現地の最低賃金と比較した標準的新入社員賃金の比率の幅	×	—	—	—
中核 EC6.	主要事業拠点での地元のサプライヤー(供給者)についての方針、業務慣行および支出の割合	×	—	—	—
中核 EC7.	現地採用の手順、主要事業拠点で現地のコミュニティから上級管理職となった従業員の割合	×	—	—	—
側面:間接的な経済的影響					
					<ul style="list-style-type: none"> ■国際シンポジウムと「三井化学 触

中核 EC8.	商業活動、現物支給、または無料奉仕を通じて、主に公共の利益のために提供されるインフラ投資およびサービスの展開図と影響	○	■P3-4 ■P5	■トップメッセージ ■東日本大震災にともなう対応	媒科学賞」 ■地域交流 ■次世代育成 ■環境保全 ■災害復興支援 ■地域貢献／地域交流 ■知財教育の支援
追加 EC9.	影響の程度など、著しい間接的な経済的影響の把握と記述	×	—	—	—
環境					
	マネジメント・アプローチの開示	○	■P3-4 ■P14-15	■トップメッセージ ■“強み”を活かして、新たな成長軌道へ	■トップメッセージ ■環境保全＞目標と実績
環境パフォーマンス指標					
側面:原材料					
中核 EN1.	使用原材料の重量または量	○	—	—	■INPUT⇒OUTPUTデータ
中核 EN2.	リサイクル由来の使用原材料の割合	×	—	—	—
側面:エネルギー					
中核 EN3.	一次エネルギー源ごとの直接的エネルギー消費量	○	—	—	■INPUT⇒OUTPUTデータ
中核 EN4.	一次エネルギー源ごとの間接的エネルギー消費量	×	—	—	—
追加 EN5.	省エネルギーおよび効率改善によって節約されたエネルギー量	○	—	—	■地球温暖化防止への取り組み
追加 EN6.	エネルギー効率の高いあるいは再生可能エネルギーに基づく製品およびサービスを提供するための率先取り組み、およびこれらの率先取り組みの成果としてのエネルギー必要量の削減量	○	■P16-17	■三井化学グループの事業分野と主な製品	■STORY 03【研究の現場】>様々な研究活動 ■地球温暖化防止への取り組み
追加 EN7.	間接的エネルギー消費量削減のための率先取り組みと達成された削減量	×	—	—	—
側面:水					
中核 EN8.	水源からの総取水量	○	—	—	■環境負荷(NOx、CODなど) ■INPUT⇒OUTPUTデータ
追加 EN9.	取水によって著しい影響を受ける水源	×	—	—	—
追加 EN10.	水のリサイクルおよび再利用量が総使用水量に占める割合	×	—	—	—
側面:生物多様性					
中核 EN11.	保護地域内あるいはそれに隣接した場所および保護地域外で、生物多様性の価値が高い地域に所有、賃借、または管理している土地の所在地および面積	×	—	—	—
中核 EN12.	保護地域および保護地域外で、生物多様性の価値が高い地域での生物多様性に対する活動、製品およびサービスの著しい影響の説明	○	—	—	■環境保全
追加 EN13.	保護または復元されている生息地	×	—	—	—
追加	生物多様性への影響をマネジメントする				

EN14.	ための戦略、現在の措置および今後の計画	×	—	—	—
追加 EN15.	事業によって影響を受ける地区内の生息地域に生息するIUCN(国際自然保護連合)のレッドリスト種(絶滅危惧種)および国の絶滅危惧種リストの数。絶滅危険性のレベルごとに分類する	×	—	—	—
側面:排出物、廃水および廃棄物					
中核 EN16.	重量で表記する直接および間接的な温室効果ガスの総排出量	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ■地球温暖化防止への取り組み ■INPUT⇒OUTPUTデータ ■環境影響評価(エコ効率)
中核 EN17.	重量で表記するその他の関連ある間接的な温室効果ガス排出量	×	—	—	—
追加 EN18.	温室効果ガス排出量削減のための率先取り組みと達成された削減量	○	■P3-4	■トップメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ■トップメッセージ ■STORY 03【研究の現場】>様々な研究活動 ■地球温暖化防止への取り組み
中核 EN19.	重量で表記するオゾン層破壊物質の排出量	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ■PRTR法対象物質 ■INPUT⇒OUTPUTデータ
中核 EN20.	種類別および重量で表記するNOx、SOxおよびその他の著しい影響を及ぼす排気物質	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ■有害大気汚染物質 ■揮発性有機化合物 ■環境負荷(NOx、CODなど) ■INPUT⇒OUTPUTデータ ■環境影響評価(エコ効率)
中核 EN21.	水質および放出先ごとの総排水量	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ■環境負荷(NOx、CODなど) ■INPUT⇒OUTPUTデータ
中核 EN22.	種類および廃棄方法ごとの廃棄物の総重量	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ■産業廃棄物の削減 ■INPUT⇒OUTPUTデータ ■環境影響評価(エコ効率)
中核 EN23.	著しい影響を及ぼす漏出の総件数および漏出量	○	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ■生産における事故・災害の防止 ■環境苦情への対応
追加 EN24.	バーゼル条約付属文書I、II、IIIおよびVIIの下で有害とされる廃棄物の輸送、輸入、輸出、あるいは処理の重量、および国際輸送された廃棄物の割合	×	—	—	—
追加 EN25.	報告組織の排水および流出液により著しい影響を受ける水界の場所、それに関連する生息地の規模、保護状況、および生物多様性の価値を特定する	×	—	—	—
側面:製品およびサービス					
中核 EN26.	製品およびサービスの環境影響を緩和する率先取り組みと影響削減の程度	○	■P16-17	■三井化学グループの事業分野と主な製品	<ul style="list-style-type: none"> ■STORY 03【研究の現場】>様々な研究活動 ■産業廃棄物の削減
中核 EN27.	カテゴリー別の再生利用される販売製品およびその梱包材の割合	×	—	—	—
側面:遵守					
中核 EN28.	環境規制への違反に対する相当な罰金の金額および罰金以外の制裁措置の件数	○	—	—	■RCマネジメントシステム
側面:輸送					
追加 EN29.	組織の業務に使用される製品、その他物品、原材料の輸送および従業員の移動からもたらされる著しい環境影響	○	—	—	■地球温暖化防止への取り組み

側面:総合					
追加 EN30.	種類別の環境保護目的の総支出および投資	○	—	—	■環境会計
社会					
労働慣行とディーセント・ワーク(公正な労働条件)					
	マネジメント・アプローチの開示	○	—	—	■トップメッセージ ■労働安全衛生>目標と実績 ■保安防災>目標と実績 ■従業員とともに>目標と実績
労働慣行とディーセント・ワーク(公正な労働条件)パフォーマンス指標					
側面:雇用					
中核 LA1.	雇用の種類、雇用契約および地域別の総労働力	○	■P18-19	■三井化学グループのグローバル展開	■会社概要 ■海外関係会社 ■その他のデータ
中核 LA2.	従業員の総離職数および離職率の年齢、性別および地域による内訳	×	—	—	—
追加 LA3.	主要な業務ごとの派遣社員またはアルバイト従業員には提供されないが、正社員には提供される福利	○	—	—	■働きやすい職場環境づくり
側面:労使関係					
中核 LA4.	団体交渉協定の対象となる従業員の割合	×	—	—	—
中核 LA5.	労働協約に定められているかどうかも含め、著しい業務変更に関する最低通知期間	×	—	—	—
側面:労働安全衛生					
追加 LA6.	労働安全衛生プログラムについての監視および助言を行う、公式の労使合同安全衛生委員会の対象となる総従業員の割合	○	—	—	■RCマネジメントシステム
中核 LA7.	地域別の、傷害、業務上疾病、損失日数、欠勤の割合および業務上の総死者数	○	—	—	■安心・安全な職場づくり
中核 LA8.	深刻な疾病に関して、労働者、その家族またはコミュニティのメンバーを支援するために設けられている教育、研修、カウンセリング、予防および危機管理プログラム	○	—	—	■社員の健康づくり
追加 LA9.	労働組合との正式合意に盛り込まれている安全衛生のテーマ	×	—	—	—
側面:研修および教育					
中核 LA10.	従業員のカテゴリー別の、従業員あたりの年間平均研修時間	○	—	—	■コンプライアンス教育 ■保安防災>目標と実績 ■生産における事故・災害の防止 ■品質向上への取り組み ■人材の登用・活用
追加 LA11.	従業員の継続的な雇用適性を支え、キャリアの終了計画を支援する技能管理および生涯学習のためのプログラム	○	■P8-9	■STORY 01【製造の現場】	■STORY 01【製造の現場】 ■人材の登用・活用
追加 LA12.	定常的にパフォーマンスおよびキャリア開発のレビューを受けている従業員の割合	×	—	—	—

側面:多様性と機会均等					
中核 LA13.	性別、年齢、マイノリティーグループおよびその他の多様性の指標に従った、統治体(経営管理職)の構成およびカテゴリー別の従業員の内訳	○	—	—	■働きやすい職場環境づくり
中核 LA14.	従業員のカテゴリー別の、基本給与の男女比	×	—	—	—
人権					
	マネジメント・アプローチの開示	○	—	—	■取引に関する方針 ■CSR調達
人権パフォーマンス指標					
側面:投資および調達の慣行					
中核 HR1.	人権条項を含む、あるいは人権についての適正審査を受けた重大な投資協定の割合とその総数	×	—	—	—
中核 HR2.	人権に関する適正審査を受けた主なサプライヤー(供給者)および請負業者の割合と取られた措置	○	—	—	■取引に関する方針 ■CSR調達
追加 HR3.	研修を受けた従業員の割合を含め、業務に関連する人権的側面に関わる方針および手順に関する従業員研修の総時間	×	—	—	—
側面:無差別					
中核 HR4.	差別事例の総件数と取られた措置	×	—	—	—
側面:結社の自由					
中核 HR5.	結社の自由および団体交渉の権利行使が著しいリスクに曝されるかもしれないと判断された業務と、それらの権利を支援するための措置	×	—	—	—
側面:児童労働					
中核 HR6.	児童労働の事例に関して著しいリスクがあると判断された業務と、児童労働の防止に貢献するための対策	○	—	—	■CSR調達
側面:強制労働					
中核 HR7.	強制労働の事例に関して著しいリスクがあると判断された業務と、強制労働の防止に貢献するための対策	○	—	—	■CSR調達
側面:保安慣行					
追加 HR8.	業務に関連する人権の側面に関する組織の方針もしくは手順の研修を受けた保安要員の割合	×	—	—	—
側面:先住民の権利					
追加 HR9.	先住民の権利に係る違反事例の総件数と取られた措置	×	—	—	—
社会					
	マネジメント・アプローチの開示	○	—	—	■従業員とともに> 目標と実績 ■産学界とともに> 目標と実績 ■地域社会とともに> 目標と実績 ■社会貢献活動> 目標と実績
社会パフォーマンス指標					

側面:コミュニティ					
中核 SO1.	参入、事業展開および撤退を含む、コミュニティに対する事業の影響を評価し、管理するためのプログラムと実務慣行の性質、適用範囲および有効性	×	—	—	—
側面:不正行為					
中核 SO2.	不正行為に関連するリスクの分析を行った事業単位の割合と総数	○	—	—	■RC監査
中核 SO3.	組織の不正行為対策の方針および手順に関する研修を受けた従業員の割合	○	—	—	■コンプライアンス教育
中核 SO4.	不正行為事例に対応して取られた措置	×	—	—	—
側面:公共政策					
中核 SO5.	公共政策の位置づけおよび公共政策立案への参加およびロビー活動	○	—	—	■働きやすい職場環境づくり ■共同研究・プロジェクトの推進 ■地域交流 ■地域貢献/地域交流
追加 SO6.	政党、政治家および関連機関への国別の献金および現物での寄付の総額	×	—	—	—
側面:反競争的な行動					
追加 SO7.	反競争的な行動、反トラストおよび独占的慣行に関する法的措置の事例の総件数とその結果	×	—	—	—
側面:遵守					
中核 SO8.	法規制の違反に対する相当の罰金の金額および罰金以外の制裁措置の件数	×	—	—	—
製品責任					
	マネジメント・アプローチの開示	○	■P10-11 ■P14-15	■STORY 02【販売の現場】 ■“強み”を活かして、新たな成長軌道へ	■STORY 02【販売の現場】 ■化学物質マネジメント>目標と実績 ■品質>目標と実績
製品責任のパフォーマンス指標					
側面:顧客の安全衛生					
中核 PR1.	製品およびサービスの安全衛生の影響について、改善のために評価が行われているライフサイクルのステージ、ならびにそのような手順の対象となる主要な製品およびサービスのカテゴリーの割合	○	—	—	■RC推進体制 ■品質向上への取り組み ■化学品・製品の安全性の確保
追加 PR2.	製品およびサービスの安全衛生の影響に関する規制および自主規範に対する違反の件数を結果別に記載	×	—	—	—
側面:製品およびサービスのラベリング					
中核 PR3.	各種手順により必要とされている製品およびサービス情報の種類と、このような情報要件の対象となる主要な製品およびサービスの割合	○	—	—	■三井化学グループの事業分野と主な製品
追加 PR4.	製品およびサービスの情報、ならびにラベリングに関する規制および自主規範に対する違反の件数を結果別に記載	×	—	—	—
追加 PR5.	顧客満足度を測る調査結果を含む、顧客満足に関する実務慣行	○	—	—	■品質向上への取り組み ■営業マスター制度

側面:マーケティング・コミュニケーション					
中核 PR6.	広告、宣伝および支援行為を含むマーケティング・コミュニケーションに関する法律、基準および自主規範の遵守のためのプログラム	×	—	—	—
追加 PR7.	広告、宣伝および支援行為を含むマーケティング・コミュニケーションに関する規制および自主規範に対する違反の件数を結果別に記載	×	—	—	—
側面:顧客のプライバシー					
追加 PR8.	顧客のプライバシー侵害および顧客データの紛失に関する正当な根拠のあるクレームの総件数	×	—	—	—
側面:遵守					
中核 PR9.	製品およびサービスの提供、および使用に関する法規の違反に対する相当の罰金の金額	×	—	—	—

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の三井化学

報告書ダウンロード

三井化学グループがこれまでに発行してきました『CSR報告書』および『レスポンシブル・ケア報告書』をPDFファイルとデジタルブックでご紹介しています。この2種類の報告書を通じて、皆様とのコミュニケーションを深め、活動のいっそうの充実を図っていきたくと考えております。どうぞ一読のほどよろしくお願いいたします。

デジタルブックとは

最新冊子



[全データ\(PDF:7.59MB\)](#)

[デジタルブック](#)

[ページ別PDFはこちら](#)

バックナンバー

CSR報告書



CSR報告書2010

[全データ\(PDF:6.32MB\)](#)

[デジタルブック](#)

2010年度Webページ*
(PDF :3.01MB)



CSR報告書2009

[全データ\(PDF :5.80MB\)](#)

[デジタルブック](#)

2009年度Webページ*
(PDF :4.88MB)



CSR報告書2008

[全データ\(PDF : 6.32MB\)](#)

[デジタルブック](#)



CSR報告書2007

[全データ\(PDF : 6.58MB\)](#)

[デジタルブック](#)



CSR報告書2006

[全データ\(PDF : 2.89MB\)](#)

[デジタルブック](#)



CSR報告書2005

[全データ\(PDF : 2.80MB\)](#)

[デジタルブック](#)

* 2009年度版「CSR(環境・社会)」WebページをPDF化したものです。

レスポンシブル・ケア報告書



レスポンシブル・ケア報告書
2004

[全データ\(PDF : 2.28MB\)](#)

[デジタルブック](#)



レスポンシブル・ケア報告書
2003

[全データ\(PDF : 2.15MB\)](#)

[デジタルブック](#)



レスポンシブル・ケア報告書
2002

[全データ\(PDF : 750KB\)](#)

[デジタルブック](#)



レスポンシブル・ケア報告書
2001

[全データ\(PDF : 920KB\)](#)

[デジタルブック](#)



「化学」「革新」「夢」の三井化学

最新冊子

全データ(PDF:7.59MB) デジタルブック

ページ別データ

表紙(PDF:159KB)

三井化学グループのCSR活動報告2011について(PDF:277KB)

トップメッセージ(PDF:591KB)

東日本大震災にともなう対応(PDF:204KB)

[特集] 三井化学の現場力。(PDF:1.7MB)

STORY 01 製造の現場 — “手応え”を知る運転員を育てる(PDF:1.3MB)

STORY 02 販売の現場 — 信頼を勝ち得る、製・販・研の一体化(PDF:898KB)

STORY 03 研究の現場 — ひたむきな熱い思いが付加価値を生む(PDF:1.3MB)

“強み”を活かして、新たな成長軌道へ(PDF:266KB)

三井化学グループの事業分野と主な製品(PDF:691KB)

三井化学グループのグローバル展開(PDF:517KB)

裏表紙(PDF:359KB)



CSR報告書のご請求

お申し込みはこちら (「エコほっとライン」へリンクしています)

当社では、有限会社インフォワード「エコほっとライン」(無料)に配送業務を委託しています。個人情報の利用目的など、個人情報の取り扱いについては「エコほっとライン」に記載されている事項をご確認いただきますようお願いいたします。



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

CSR活動報告2011について

三井化学グループのCSR活動は、Webサイトの特性を活かして網羅的かつ詳細にご報告しています。

編集方針

当社グループにおけるCSR活動報告は、ステークホルダーの皆様との対話を図るために、CSRの3つの側面(経済・環境・社会)のうち、主に環境および社会に関する当社グループの取り組みを紹介しています(経済側面はアニュアルレポートをご覧ください)。

IRサイト アニュアルレポート

Webサイト

三井化学グループのCSR活動報告の“本体”と位置付け、網羅的な内容を詳細にご報告しています。また、従来以上にメリハリを付け、見やすさ、アクセスの容易さなどに配慮して編集しています。

CSRナビ

冊子

昨年までは、Webサイトでの報告のポイントをまとめたダイジェスト版として、冊子『CSR報告書』を発行しておりましたが、今年度の冊子『CSR Communication 2011』では、三井化学グループにおける活動で特にステークホルダーの皆様にご覧いただきたい内容に絞ってご報告しています。Webサイト同様に、是非ご覧いただきたいと思います。

掲載内容は、次の通りです。

冊子「CSR Communication 2011」の主なコンテンツ

- トップメッセージ・・・3P
- 東日本大震災にともなう対応・・・5P
- 特集「三井化学の現場力。」・・・6-13P
- “強み”を活かして、新たな成長軌道へ・・・14-15P
- 三井化学グループの事業分野と主な製品・・・16-17P
- 三井化学グループのグローバル展開・・・18-19P

報告書ダウンロード

報告の対象範囲

対象期間

2010年度(2010年4月1日から2011年3月31日まで。ただし、一部データについては2011年4月以降の活動も含んでいます。)

データの集計範囲

三井化学を基本とし、関係会社を含む場合は本文に記載しました。

参考にしたガイドライン

- グローバル・レポーティング・イニシアティブ(GRI)
- 「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン2006」
- 環境省「環境報告ガイドライン2007年版」
- 環境省「環境会計ガイドライン2005年版」

GRIガイドライン対比リスト



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

下関三井化学 三フッ化窒素充填場事故報告

2009年11月4日に発生しました下関三井化学株式会社(当社の子会社)の三フッ化窒素製造設備内充填場における火災・爆発事故につきましては、被災された方々、地域居住の皆様、関係ご当局の皆様、お客様をはじめ、多くの方々に多大なご迷惑とご心配をおかけしましたことを改めてお詫び申し上げます。

事故の調査につきましては、三井化学、下関三井化学の両社および社外の学識経験者で構成された合同事故調査委員会において事故原因と再発防止対策を検討し事故報告書を作成し、2010年4月に関係ご当局に受理されております。


当社および下関三井化学は、改めて全社一丸となって安全管理を再徹底するとともに、再発防止対策および全従業員のさらなる安全意識の向上に全力を挙げて取り組んでいます。

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

CSRニュース一覧

2011年8月11日	【活動報告】教員の民間企業研修へのご協力
2011年6月14日	【活動報告】当社工場近隣の中学生が本社を訪問
2011年6月2日	【活動報告】被災地域への大型化学消防車の貸出を実施
2011年4月7日	【活動報告】東北地方太平洋沖地震被害への社員義援金活動について
2011年3月31日	【活動報告】東北地方太平洋沖地震の被災地・被災者への支援物資ご提供 2
2011年3月23日	【活動報告】東北地方太平洋沖地震の被災地・被災者への支援物資ご提供 1
2010年9月2日	【活動報告】夢・化学-21夏休み子ども実験ショーに「ふしぎ探検隊」(実験教室)が参加
2010年8月31日	【活動報告】第5回クリーンアップin九十九里開催
2010年8月23日	【活動報告】キッズエンジニア2010に「ふしぎ探検隊」(実験教室)が参加
2010年3月29日	厚生労働省による「仕事と生活の調和推進プロジェクト」における当社の「平成21年度の取組内容とその成果」等の表明について
2009年12月4日	【お知らせ】エコプロダクツ展2009に出展いたします。
2009年10月14日	【活動報告】近隣の小学校に奨学金を寄付(中国広東省中山市)
2009年10月13日	【活動報告】第4回クリーンアップin九十九里開催
2009年10月13日	【活動報告】沙漠緑化活動:4月に植えた苗は順調に育っています。
2009年10月13日	厚生労働省 均等・両立推進企業表彰 均等推進企業部門「東京労働局長優良賞」受賞
2009年9月8日	【活動報告】Y150横浜開国博に「ふしぎ探検隊」参加
2009年8月11日	【お知らせ】8月29日横浜開国博Y150に「ふしぎ探検隊」(実験教室)も参加。ジャンボスライム作ります!
2009年8月3日	【活動報告】夢・化学-21夏休み子ども実験ショーに「ふしぎ探検隊」(実験教室)が参加!
2009年7月31日	【活動報告】山口県の豪雨災害の被災者に「災害支援隊」の物資をご提供
2009年7月15日	植物由来の自動車用シートクッションの開発について
2009年4月14日	山口専務 シンガポール政府より「2008年度The Public Service Medal」を受章
2009年3月31日	厚生労働省による「仕事と生活の調和推進プロジェクト」における当社の「アクションプログラム」等の表明について
2009年3月13日	三井化学 触媒科学国際シンポジウム(MICS2009)開催について
2009年2月23日	三西化学工業(株)工場跡地のダイオキシン類等土壌汚染対策計画(骨子)及び荒木校区住民との覚書の締結について(PDF:392KB) 
2008年12月22日	「三井化学 第4回 触媒科学国際シンポジウム(MICS2009)」開催 <詳細決定>
2008年12月22日	2009年『三井化学 触媒科学賞』受賞者の発表について
2008年8月25日	CO ₂ からのメタノール合成プロセスの実証パイロット設備建設について
2008年8月19日	シンガポール経済開発庁と三井化学の相互人材育成支援に関する基本合意について
2008年8月19日	シンガポール政府による当社のDPIP賞受賞について
2008年7月11日	厚生労働省による「仕事と生活の調和推進プロジェクト」における当社の「トップ宣言」表明について
2008年5月28日	ミャンマー・サイクロン災害および中国四川大地震災害に対する寄付について
2008年4月23日	「レーン教授先端材料シンポジウム」開催について
2008年4月11日	厚生労働省による「仕事と生活の調和推進モデル事業」参加について
2008年3月28日	三西化学工業(株)工場跡地の土壌調査(深さ方向)の調査結果について
2008年3月19日	国連「グローバル・コンパクト」への参加について
2008年3月17日	2009年「三井化学 触媒科学賞」の募集、および「三井化学 第4回 触媒科学国際シンポジウム(MICS2009)」の開催について
2008年2月29日	三西化学工業(株)工場跡地の「農薬の埋設が推定される箇所」等の調査結果について



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

CSR活動報告2011アンケート

『CSR活動報告2011』に関するご意見をメールフォームから承っております。

お預かりした個人情報は、お問い合わせへの対応のため当社関係会社への開示など、必要な範囲においてのみ使用し、ほかの目的では使用いたしません。

なお、当社の個人情報保護の方針については、「[個人情報の保護について](#)」をご覧ください。

[アンケートフォーム](#) 

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.



「化学」「革新」「夢」の **三井化学**

CSRナビ

三井化学グループのCSR(環境・社会)ページに掲載されている全項目を、一覧にしています。
「冊子P00」は、冊子『CSR Communication 2011』の関連ページPDFへリンクしています。

トップメッセージ

トップメッセージ 冊子P3-4(PDF:591KB)

東日本大震災にともなう対応 冊子P5(PDF:204KB)

国連グローバルコンパクト

特集

STORY 01【製造の現場】 冊子P8-9(PDF:1.3MB)

STORY 02【販売の現場】 冊子P10-11(PDF:898KB)

STORY 03【研究の現場】 冊子P12-13(PDF:1.3MB)

三井化学グループの事業分野と主な製品

三井化学グループの事業分野と主な製品 冊子P16-17(PDF:691KB)

CSRマネジメント

三井化学グループのCSR

CSRで目指すもの

「いい会社」の実現に向けた推進体制

CSR重点課題の設定

マネジメント体制

目標と実績

コーポレート・ガバナンス

リスク管理体制

コンプライアンス教育

レスポンシブル・ケア

労働安全衛生

目標と実績

安心・安全な職場づくり

社員の健康づくり

保安防災

目標と実績

生産における事故・災害の防止

環境保全

目標と実績

地球温暖化防止への取り組み

産業廃棄物の削減

PRTR法対象物質

有害大気汚染物質

揮発性有機化合物

環境負荷(NOx、CODなど)

生物多様性

環境会計

INPUT⇒OUTPUTデータ

環境影響評価(エコ効率)

環境苦情への対応

化学物質マネジメント

目標と実績

化学品・製品の安全性の確保

品質

目標と実績

品質向上への取り組み

物流

目標と実績

製品の安全な輸送

RC推進体制

目標と実績

RCマネジメントシステム

レスポンスブル・ケア方針

RC監査

社会とのコミュニケーション

お客様とともに

目標と実績

営業マスター制度

取引先とともに

目標と実績

取引に関する方針

CSR調達

株主とともに

目標と実績

株主への情報開示

従業員とともに

目標と実績

人材の登用・活用

働きやすい職場環境づくり

社員の健康づくり

産学界とともに

目標と実績

国際シンポジウムと「三井化学 触媒科学賞」

共同研究・プロジェクトの推進

地域社会とともに

目標と実績

地域対話

地域交流

社会からの表彰

社会貢献活動

目標と実績

次世代育成

環境保全

災害復興支援

地域貢献／地域交流

社員の社会貢献活動参加支援

知財教育の支援

社内外の声を活かします

『CSR報告書2010』へのご意見

『CSRアンケート2010』アンケート集計結果

社内外の皆様からのご意見

『CSR活動報告2011』への第三者意見

パフォーマンスデータ一覧

[パフォーマンスデータ一覧](#)

GRIガイドライン対比リスト

[GRIガイドライン対比リスト](#)

報告書ダウンロード

[CSR活動報告最新版\(PDF:7.59MB\)](#) 

[CSR報告書2010\(PDF:6.39MB\)](#) 

[CSR報告書2009\(PDF:5.80MB\)](#) 

[CSR報告書2008\(PDF:2.28MB\)](#) 

[CSR報告書2007\(PDF:6.58MB\)](#) 

[CSR報告書2006\(PDF:2.89MB\)](#) 

[CSR報告書2005\(PDF:2.80MB\)](#) 

[レスポンシブル・ケア報告書2004\(PDF:2.28MB\)](#) 

[レスポンシブル・ケア報告書2003\(PDF:2.15MB\)](#) 

[レスポンシブル・ケア報告書2002\(PDF:750KB\)](#) 

[レスポンシブル・ケア報告書2001\(PDF:920KB\)](#) 

CSR活動報告2011について

[編集方針](#)

[報告の対象範囲](#)

[参考にしたガイドライン](#)

下関三井化学 三フッ化窒素充填場事故報告

[下関三井化学 三フッ化窒素充填場事故報告\(ニュースリリース\)](#)

CSRニュース一覧

CSRナビ

CSR活動報告2011アンケート

© 2011 Mitsui Chemicals, Inc. All Rights Reserved.